

第五十一回
帝國議會
衆議院
所得稅法中改正法律案(政府提出) 外二十七件

會議

大正十五年二月六日(土曜日)午後一時
四十三分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 元田 肇君

理事 田中 万逸君
理事 山田 道兄君
理事 砂田 重政君
理事 赤間嘉之吉君
理事 三輪市太郎君
理事 金光 庸夫君
理事 湯淺 凡平君
理事 石坂 豐一君
理事 原 脩次郎君
町田 忠治君
荒川 五郎君
松田 三德君
淺賀長兵衛君
村山喜一郎君
村上 國吉君
竹内友治郎君

八田 宗吉君
大口 喜六君
嶋居 哲君
小川郷太郎君
福井 甚三君
森 肇君
吉植庄一郎君
出席國務大臣左ノ如シ
大藏大臣 濱口 雄幸君
出席政府委員左ノ如シ
內務政務次官 俵 孫一君
內務省地方局長 潮 惠之助君
內務書記官 田中廣太郎君
大藏省主稅局長 黒田 英雄君
大藏書記官 藤井 眞信君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
所得稅法中改正法律案(政府提出)
大正九年法律第十二號中改正法律案
(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出)

所得稅法中改正法律案(政府提出)
大正九年法律第十二號中改正法律案
(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出)
地租條例中改正法律案(政府提出)
明治三十七年法律第十二號中改正法律案
(地租徵收ニ關スル件)(政府提出)
營業稅法廢止法律案(政府提出)
營業收益稅法案(政府提出)
資本利子稅法案(政府提出)
相續稅法中改正法律案(政府提出)
通行稅法廢止法律案(政府提出)
酒造稅法中改正法律案(政府提出)
酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案
(政府提出)
麥酒稅法中改正法律案(政府提出)
醬油稅則廢止法律案(政府提出)
自家用醬油稅法廢止法律案(政府提出)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)
賣藥稅法廢止法律案(政府提出)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)
清涼飲料稅法案(政府提出)

大正九年法律第五十一號中改正法律案
(朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免
除ニ關スル件)(政府提出)
地方稅ニ關スル法律案(政府提出)
明治四十二年法律第三十七號中改正
法律案(地方稅制限ニ關スル件)(政
府提出)
市町村稅地租法案(山本悌二郎君外
十三名提出)
市町村稅地租法ノ施行ニ關スル法律
案(山本悌二郎君外十三名提出)
地租條例中改正法律案(床次竹二郎
君外二十三名提出)
所得稅法中改正法律案(床次竹二郎
君外二十三名提出)
大正九年法律第十二號中改正法律案
(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(床次
竹二郎君外二十三名提出)
明治四十二年法律第七號廢止法律案
(國債ノ利子所得稅免除ニ關スル件)
(床次竹二郎君外二十三名提出)
市町村義務教育費國庫負擔法中改正
法律案(床次竹二郎君外二十三名提
出)

委員會會議錄(速)第六回

提出
地租條例中改正法律案(政府提出)
明治三十七年法律第十二號中改正法
律案(地租徵收ニ關スル件)(政府提
出)
營業稅法廢止法律案(政府提出)
營業收益稅法案(政府提出)
資本利子稅法案(政府提出)
相續稅法中改正法律案(政府提出)
通行稅法廢止法律案(政府提出)
酒造稅法中改正法律案(政府提出)
酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律
案(政府提出)
麥酒稅法中改正法律案(政府提出)
醬油稅則廢止法律案(政府提出)
自家用醬油稅法廢止法律案(政府提
出)
織物消費稅法中改正法律案(政府提
出)

賣藥稅法廢止法律案(政府提出)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)
清涼飲料稅法案(政府提出)
大正九年法律第五十一號中改正法律
案(朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免
除ニ關スル件)(政府提出)
地方稅ニ關スル法律案(政府提出)
明治四十一年法律第三十七號中改正
法律案(地方稅制限ニ關スル件)(政
府提出)
○元田委員長 所得稅法中改正法律案
外二十七件ノ委員會ノ續會ヲ開キマ
ス、本日ハ大口君ノ御質問ノ番デス—
大口君
○大口委員 私ハ政府ニ對シテ先ヅ大
體ノ上カラ質問ヲ一二點ニ致シマシ
テ、ソレカラ各稅ニ這入リマシテ、樞要
ノ點ダケヲ質問致サウト思ヒマス、細
目ニ互リマシテ大分伺ヒタイコトガア

リマスガ、遂條ノ場合ハ更ニ御許シガアリマスレバ、聊カ各稅ニ這入リマシテモ伺ヒタイト思ヒマス、先ヅ私ガ政府ノ只今迄ノ説明ニ依リマスルト、歳入ニ増減ノナイ程度ニ於テ稅ヲ整理スルト云フコトニナツテ居ル、ソレ故ニ一面ニ於テ減稅ヲサレバ、又一面ニ於テ増減ラシナケレバナラヌコトガ起ルノハ當然デアリマス、新ニ起サレタモノニ對シテドウ云フ譯デ起サレタカト云フト、歳入ノ缺陷ヲ補フ爲デ、財政ノ計畫上已ムヲ得ザル爲デアルト御答辯ニナツテ居ル、是ニ於テ私ハ國ノ財政ノ上カラ果シテ財源ト稱スルモノガ如何ヤウニナツテ居ルカト云フコトヲ確メルトコトガ最モ必要デアルト考ヘマス、ソレ故ニ此點ニ付テ私ハ伺ヒタイト思ヒマス、政府ハ頻ニ財政計畫々々々々ト言ハレマスガ、私共ハ未ダ曾テ政府ノ確實ナル財政計畫ヲ拜見シタコトモナク、又是迄承知モシテ居ナイ、恐ラクハ昨日ノ御質問カラ推測スルト、與黨ノ諸君ニ於テ財政計畫ト言ハレルノハ、豫算ニ添エテ出ス所ノ十年先ヲ見越シタ概計表、アレヲ根據トシテ居ラレルヤウニ思フ、吾々ハアレハ一ツノ目安ニナルモノデアアル、併ナガラアレハ金科玉條デナイノデ、アレヲ金科玉條トスルナラバ所謂財政ト云フモノデナク、一ツノ財務ヲ執ル仕事デアアル、財政ハ其間ニ相當ニ運用ノ妙ガアツテ、年々歳々相當ノ方法ヲ執ッテ行カナケレバ

ナラヌモノデアルト私共考ヘテ居ル、ソコデ私ハ政府ノ所謂財政計畫ニ對シテノ御方針ヲ承リタイト思フノデアリマスガ、先ヅ大體ニ於テ私ハ斯フ云フ考ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ申シテ掛カルノガ御答辯ガ仕易カラウト思ヒマスカラ、先ヅ愚見ヲ述ベテ政府ノ意見ヲ承リタイト思ヒマス、凡ソ一國ガ次第ニ進歩スル國デアレバドウシテモ仕事ガ殖エル、仕事ガ殖エレバ費用ノ要リマスコトハ當然ノ話デアアル、ソレ故ニ國ガ段々發展スル運命ヲ持ッ國デアアルナラバ、ドウシテモ費用ガ要ル、之ニ對シテハ相當ノ應急上ノ財政上ノ策ヲ講ジナケレバ、其國ハ發展シナイノデアアリマスカラ、是ハヤッテ行カナケレバナラヌ、何處マデ御ヤリニナツテモ、ドノ内閣ガ御ヤリニナツテモ、財政ハ次第々々ニ膨脹シテ行クモノデアルト私ハ思フ、ケレドモ時ニ當ッテ適當ニ財政ノ處理ヲシヤウトスレバ、國ノ發展ニ應ズルダケノ仕事ハシナケレバナリマセヌカラ、一面ニ於テ抑ヘラレルダケハ抑ヘ、改革セラレルダケハ改革シナケレバナラヌ、ソコデ行政整理モ結構デアアル、ソレデ吾々モ賛成ヲシテ居ル、消極主義モ宜シイ、消極主義ニシナケレバナラヌコトハ消極主義ニシナケレバナリマセヌガ、消極バカリデハ國ハ頹廢ニ赴キマスカナケレバナラヌ、消極ノ中ニモ積極ガ

ナクテハナラヌ、積極ノ中ニモ亦消極ガナクテハナラヌ、極端デ物ハ行ケルモノデハナイト吾々ハ思フ、ソレデ大體ニ於テ大藏大臣ノ御方針ハ御腹ノ中ハ了解シテ居ルヤウニ思ヒマスガ、全體今ノ政府ト云フモノガ茲ニ見ル所ガアラレルナラバ、何故今少シク徹底的ニ内部ニ這入ッテ行政整理ヲヤラレナイカト云フコトヲ吾々ハ思フノデアリマス、昨年ノ財政行政ヲセラレタ時ニ、私共モ及バズナガラ時ノ内閣ニ賛成シテ多少ノ御助力ヲ致シマシタガ、所謂三派ノ力ニ依テヤッタノデ、餘程出來タヤウニ言フガ、實ヲ言ヘバマダ其一端デアリマス、アレヲ以テシテハ行政財政ノ整理ガ徹底的ニ往ッタノデハナイ、ソレデ吾々其當時亡クナラレタ加藤總理大臣ニ御問ヲシタ、行政整理ハ是デ終リデアアルカト云フコトヲ御尋ネシタ、其時加藤總理大臣ハ言明サレタ、是デ終ッタモノデナイ、役人ノ首ヲ馘ルヤウナコトヲ屢ヤルト不安ヲ與ヘルカラ、ソレハ終リトスルガ、行政整理ハ是デ終リトスルモノデナイト云フコトヲ言ハレタ、ソレデ私ハ満足ヲシタ、所ガ今度ノ議會ニ當ッテ一向行政整理ノ話モナケレバ、豫算ニモ現ハレテ居ナイ、仕事ヲスレバ費用ガ殖エル、其割合ニ租稅ガ餘リニ増シテ來ナイ、之ヲドウシテ按配スルカト云ヘバ、公債ヲ募集シナケレバナラヌ、所ガ公債ハイケナイ、ソレデハ發展スベキ仕事ヲ止ス、

ソレデハ仕事ハ進マナイ、増稅ハ出來ナイト言ヘバドウシテモ内部ノ今少シ大改革ヲ行フト云フ御決心ガナケレバナラヌト私ハ思フ、ケレドモ是モ私ハ餘リ多キヲ望ムノハ無理ダト思フ、一年々半年ノ今ノ内閣ニ行政ノ根本の大改革ヲヤレト言フノハドウシテモ是ハ困難デアルカラ、ソレハ御察シ申上ゲルガ、併シ斯ウ云フコトハ認メテ居ラレナケレバナラヌ、今日ノ日本ノ行政機關ノ中ノ一大弊害ハ何デアアルカト云ヘバ、所謂各省ノ割據主義ガ元デアアル、斯ウ申シタラ政府ニ割據主義ハナイト御答辯ニナルカモ知レナイガ、是ハ形容詞デアアル、事實ニ於テハ明治ノ初年ニ當ッテ參議ト云フモノデズットヤッテ居ッタ時分ハ、サウデハナカッタ様子、是ハ歷史上カラ見テモ、却テ内務卿、大藏卿ト云フモノガ出來テ、參議ガ廢セラレタ時ニハ、濱口藏相ナドハ能ク御承知デアラウト思フノデアリマスガ、歷史上カラ見テモ種々ナ議論ガ取交サレテ居ッタ、所ガソレ以來ズット所謂割據主義ニナツテ、各省ノ間ニ一種ノ割據主義ノ傾向ガ見エタノデアリマス、此因襲ノ久シキ、是ガ行政財政ノ非常ナ弊害ノ因ヲ成シテ居リマス、是ハ有ラユル黨派ガ認メ、殆ド日本全國ノ人ガ認メテ居ルコトダラウト思フ、此問題ヲ打破ッテ行カナケレバ私ハドウシテモ日本ノ眞ノ行政財政ノ整理モ出來ズ、財政ノ基礎モ鞏固ニハナラナイト思フ、

唯目先デ其辻褄ヲ合セ、概計表ヲ旨ク拵ヘテ、何年ニハドウナルト言ッタ所デ、我國ノ國政、ソレカラ國民ノ富ノ殖エテ來ル所ノ程度、種々ナルモノカラ考ヘテ見テモ、結局借金ヲスルカ、内部ヲ整理スルカ、ソレデナケレバ仕事ヲヤラナイカ、ドレカニ歸著スルノデアリマスカラ、其中デドレヲヤルカト云ヘバ、モット進ンデ行政財政ノ根本ニ、一種ノ大改革ヲスルト云フノ決心ガナケレバナラス、所謂割據主義ヲ打破レバモット金ガ出ル、ソレハ私後ニ申上ゲルガ、確ニ出ル、是ハ一向御沙汰止ミノヤウデアッテ、行政整理ノ事ニ付テハ政府ハ一言モ申サレナイガ、前ノ内閣ノ續キカラ之ニハ餘程力ヲ入レラレテ居ッタノデアルガ、是ハ消極的ニヤッテ居ル、積極的ニヤルベキコトハ押ヘテ積極的ニハヤリ得ズ、消極的ニスベキコトハ消極的ニヤリ得ズト云フノデハ、洵ニ無能ナル内閣デアルト謂ハナケレバナラスガ、ソレ程私ハ無能ナル内閣トハ見テ居ナイ、モット行政ノ整理ニ對シテハ御考ガアルベキモノデアルト思ッテ居ルノデアリマス、此根本的ノ大改革ニ對シテハ何ト御考ニナッテ居ルノカト云フノガ、總體ノ第一問デアリマス、次ニ私ハ總體ノ上デ財政上カラ伺ヒタイノハ、剩餘金ノ問題デアル、全體我國ノ財政ヲ見ルト剩餘金ト云フモノノ出様ガ如何ニモ多イ、洵ニ財政ガ困難ダナント云フ年デモ、二億以上ノ剩餘金ガ

出テ居ル、最モ甚シイ年ニ於テハ三億六七千萬圓モノ剩餘金ガ出タコトガアル、是ハ尤モ經濟界ガ非常ニ膨脹シタ時代、昨年ノ如キデモ此處ニ豫算綱領デ示サレタ如ク、二億以上ノ剩餘金ガ出テ居ル、サウシテ現ニ概計表ニ依テ見マスルト純剩餘金ト云フモノガ大分澤山ニアル、ソレヲ色ニナ費途ニ見積ラレテモ、尙且ツ二億九千萬圓ト云フ剩餘金ヲ大正十五年度以後ノ所謂豫算計畫上ノ概計表ニ當テル所ノ金ニ御握リニナラウト云フ、二億九千萬圓ト云フ、大キナ金ヲ大藏省ガ是カラ先キ四年バカリノ概計表ニ當テル爲ニ握ッテ居ラレル、是ハ餘程ドウモ國民ガ能ク知ッタナラバオカシイコト、金ガナイ金ガナイト言ハレルガ、純剩餘金、全ク餘ツタ所ノ金ガ三億ニ近イ所ノ金ヲ大藏省ガ握ッテ取ッテ置カレル、何ノ爲ニサレルカト云ヘバ、是カラ先キ四年バカリノ間日本ノ歳入歳出ノ概計表ニ當テル金ガ要ルカラ、ソレニ當テルト云フ、是ガ果シテ日本ノ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以カ、ソレハ鞏固トナルデアラウガ、是位運用ノ妙ヲ失ッテ居ルモノハナイ、吾々ニシテモ其通り、一年ノ歳計ヲチヤント春カラ取ッテ置イテ、ソレヲナシ崩シニ使ヘバ一等是ハ鞏固デアアルニハ違ヒナイガ、幾ラ國ノ財政ト雖モサウ固ク行クモノデハナイ、ソレ故ニ私ハ昨年ハ濱口藏相ノ政策ニ對シテ鞏固ニスルト云フコトハ宜イ、賛成デアルガ、

是ガ果シテ上手ナ遣方デアルカドウデアアルカト云ヘバ、之ヲ上手ナ遣方デアルト褒メル譯ニハ行カナイト私ハ申シテ置イタ、一體何故日本ノ財政ニ斯ウ云フコトヲシナケレバナテヌノデアリマセウカ、實際不可思議ナコトデアアル、全體豫算ト云フモノハ私ガ申スマデモナク毎年々々是ダケ使フ、國家ノ爲ニ來年ハ是ダケ費用ガ要ルノダ、ソレダカラ是ダケ費用ヲ持ッテ行カナケレバナラヌト云フノデ、豫算ヲ出シテ辻褄ヲ合ハシテ、國民カラ重イ租稅ヲ取リ、國民ハ其歳出ヲ承認シテ稅金ヲ拂フ筈、所ガ何ゾ知ラン、二億以上ノ剩餘金ガ出テ居ル、餘リソソナニ金ガ出ルナラバ國民ハ稅ヲ取ッテ貰ヒタクナイノデアリマス、ソレニ二億ト云フ金ガドウデアアルカト云フト、隨分此頃ハ出ガ多イト云フケレドモ、一般會計ニ於テ約十六億、是ハ我國ノ歳計トシテ決シテ少イ金デハナイ、少イ金デハナイケレドモ、其十六億ノ中デ租稅ヲドレ位取ッテ居ルカ、矢張約八億位ノ豫算ハ租稅デ取ッテ居ル、其八億ニ對シテ二億以上ノ剩餘金ガ出ルトスルナラバ、之ヲ英國流ニ、英吉利ノ豫算ヲ組ム式カラシテ吾々考ヘテ見ルト、吾々ハ四分ノ一ハ出サナクテモ宜イ稅金ヲ毎年國ニ取ラレルコトニナル、全體剩餘金ト云フモノハ國民ニ返サレルノガ立憲政治ノ上デ當然デアラウト思フ、返スコトガ出來ナケレバ其金デ公債ヲ拂フガ宜イ、是ハ先日大藏大臣モ其事ハ本議

場デ述べラレタヤウデ、成程根本ニ於テハ私ト御同感デアルナト實ハ私モ思ツタノデアアル、矢張認メテハ居ラレル、ソレガ本當デアアル、然ルニ斯様ナ變態ナ事ヲ日本ノ財政デヤラナケレバナラヌト云フノハ何故デアリマセウカ、之ヲ打破ッテ整理シテ掛ラナケレバ決シテ眞ニ我國ノ財政ノ整理ハ出來マスマイ、是ハ決シテ黨派問題トハ私思ッテ居ナイ、永イ間ノ日本ノ因襲ノ久シキガ此處ニ至ッタノデアアル、十六億ノ豫算ガ要ルト言ッテ、實際ニ於テハ十四億シタ譯デハアルマイガ、實ハ嘘ノ豫算ヲ表面ヲ繕フテ事實ハ要ラナイ金ヲ二億圓モ國民カラ稅ヲ取ル、是ハ餘程ヲカシイモノ、政府ガヤルカラマア是デ濟ノデアアルガ、斯ウ云フヤウナコトヲ民間デヤレバ大騒ギ、何故斯ウ云フコトヲスルノデアアルカ、サウシテ此剩餘金ト云フモノハ本當ヲ申セバマダ出ル、表向キ言ッタラ或ハ政府ハ御否認ニナリマセウガ、腹ノ中デハドナタモ御承知ニナッテ居ルノデアアル、大藏大臣ハ勿論、一度官衙ニ勤メラレタ方ハ能ク御承知ニナッテ居ル、私ハ官吏ヲシタコトハナイガ實ハ能ク承知シテ居ル、年末ノ場合ニハ各省ハドウデアアルガ、豫算ガ餘ッタト云フノデ、急ニ官吏ニ出張ヲ命ズル、割合ニ豫算ガ餘ッタカラト云フテ賞與ヲ多クスル、全體斯ウ云フコトハ何處カラ出ルコトデアリマセウ、勿

論大藏大臣ハソレヲサセタクナイト思
ツテ各省ト餘程交渉ヲ爲サルノデアラ
ウカラ、大藏大臣ヲ責メルノハ或ハ當
ラナイカモ知レナイ、私ハ大藏大臣個
人ヲ責メタクハナイ、政府ヲ責メルノ
デア、政府ハ餘程此點ニ付テ考ヘラ
レナケレバナラス、大藏大臣ハ大分此點
ニ付テ御苦心ニナツテ居ラレルノデア
リマス、所ガ各省ハドウカト云フト剩
餘金ヲ出セバ來年豫算ヲ減ゼラレルカ
ラ、成タケ使ツテシマハウト云フヤウナ
傾向ガアル、ソナ事ハナイト仰シヤ
ツテモ、國民ハ承知致シマセヌ、總テニ
於テサウ云フ無益ナ金ヲ隨分使ハレテ
モ、尙且ツ二億、三億ニ近イ所ノ純剩餘
金ガ毎年々々出テ居ル、ソレデアルカ
ラ本年モ出マセウ、是ハ大正十四年度
ノ決算ニモナケレバ、昨日町田君ノ言
ハレタ概計表ニモ書イテ居ナイ、マダ
ソレガ出ナイカラ吾々ハ拜見致サナイ
ケレドモ、必ズ書イテハナイト思フガ、
十五年度ニ出ル剩餘金ハドウナサル、
必ズ私ハ二億位出ルト思フ、概計表ガ
當ニナラス、ソコデ以テドウスルカト
云フト、昨日町田君ノ御質問ノ御口吻
ニモ見エタガ、關稅ノ自然增收ト云フ
モノヲ或ル財源ニ見積ツタラ、是カラ新
規事業ニ困ルダラウト云フ意味ニ私ニ
ハ聞エタガ、サウ云フコトハ皆ノ胸ノ
中ニ持ツテ居ル、段々新規事業ガ殖エ
ル、何トカ財源ヲ今ノ中ニ考ヘテ置カ
ナケレバナラス、増稅ハ出來ズ、公債ノ

募集ハ出來ヌ、何トカ隱レタル財源ヲ
求メルト云フコトヲ歷代ノ人ガ考ヘテ
居ル、隱レタル財源ヲ作ラウト云フコ
トヲ考ヘルト云フコトハ、既ニ其中ニ
一種ノ虛欺ガアル、私ハ人ヲ騙ストハ
申シマセヌガ、又不道德ヲ爲スト云フ
意味デハナイガ、國民ニ對シテ財政ノ
遣リ方、豫算ノ組方ガ不深切ニ出來テ居
ル、表面ノ理窟ダケ作ツテ、イヤ概計表
ガ何ダ、ドウダト言ツタ所ガ、知ル者ガ
見レバ是レ位馬鹿氣タモノハナイ、此本
ヲ整理シテ掛ラナケレバ稅制ノ根本的
整理、其他或ハ財源ガドウダトカ、何ト
カ言ツタ所ガ、是ハイカヌ、ソコデ概計
表ト云フモノニ付テ吾々ガ假ニ御問ヲ
スルト、都合ノ惡イ時ニハ四年、五年ノ
先ハ見透セルモノデナイ、ダカラ前
年度ニ當ツテ按排ヲサレルト答ヘラレ
ル、所ガ都合ノ善イ時ハ四年、五年先ヲ
見透シテ剩餘金ヲ取ツテ置カナケレバ、
財政ノ基礎ガ鞏固ニナラヌト云フテ、
此方ニ逃ゲ、彼方ヘ逃ゲル、吾々ハソ
ナ押問答ヲ政府トシヤウトハシナイ、
眞ニ胸襟ヲ披イテ我が帝國ノ財政、今
迄ノ弊害ガアル所ノ財政ヲ根本カラ眞
面目ニ改革スルニハドウヤルカ、是ガ
御相談ヲスベキ眞ノ問題デア、是ハ
黨派問題ナドデハナイ、之ヲ眞面目ニ
本當ニ衆議院ニ立ツ者ガ相談ヲ仕合
ヒ、意見ヲ述べ合ツテ、是デ意見ノ相違
ハ已ムヲ得マセヌガ、唯表面ノ理窟デ、
イヤ何ガドウダ、彼ガドウダト云フコ

トヲ論難攻撃シ合ツタ所ガ、御互ハ宜ク
テモ國民ハ堪ラス、眞ニ財政的ニ國家
ヲ救ハウト思ヘバ、其根本カラ改メナ
ケレバナラス、ソコデ私ハ此財政ノ立
テ方ガ初メカラ誤ツテ居ル、先刻言フ通
リドウシテモ割據主義ノ弊ヲ改メテ、
是ハドウシテモ行政ノ改革ヲヤラナケ
レバナラス、此財政ノ整理ハドウデア
ルカト云ヘバ、今ノ方法デ以テ之ヲス
ツカリ改メテ、此剩餘金ト云フモノノ
出ナイコトニシナクテハナラス、サウ
ナルト毎年々々新ニヤル仕事ガ困ルデ
ハナイカ、ソレモ或程度マデハ計畫ト
云フモノヲ樹テ、政府ハ責任ヲ持ツテ之
ヲ明ニスル、腹ノ中デ持ツテ居テ上手
ニ財政上ヲ胡麻化シテ行カウト云フコ
トヲ止メテ、是ハ歷代サウデア、ソ
レヲ改メナケレバナラス、將來ノ日本
ハ斯ウ云フ事業ヲ致シ、産業政策ハ是
デ行ク、鐵道政策ハ是デ行ク、サウス
レバ是ダケノ金ガ要ル、四年ノ後ニ斯
ウ云フ風ニナル、ソレデア、稅ヲ減
ズルコトハ出來ナイ、之ヲ増サナケレ
バナラス、或ハ是ダケヲ減ジ得ル、斯
ウナツテ行クノデナケレバ本當ノ立憲政
治ノ下ニ於テノ稅制ノ根本改革ヲ期ス
ルコトハ出來ナイ、ソレデ今ノ日本ノ
此剩餘金ハ隱レテ居ル、概計表ニモ少
シモ出テ來ナイ、大正十五年度ニモ二
億以上アルト吾々ハ思フガ、ソレハ何
ニ使フカト云フト、腹ノ中ダケデ政府
ハ握ツテ居ル、政府ノ御都合ニハナル

ガ、國民ハ極メテ迷惑デア、殊ニ今言
フ通り餘リ繰返スウヤデア、國ノ
税金ガ八億、其八億デ三億ニ近イカラ
四分ノ一以上、二億ノ剩餘金デモ四分
ノ一、四分ノ一ハ取ラヌデモ宜イ稅ヲ
取ツテ居ル、何ニ使フカ分ラヌモノヲ國
民ハ取ラレル、豫算以外ノモノヲ取ラ
レル、政府ハ腹ノ中デハ當ニシテ居ル、
國民ハ知ラナイ、議會ニモ知ラサナイデ、
財政ノ遺線ヲヤツテ居テハドウシテモ
眞ノ改革ハ出來ナイ、此二點ニ付テ、即
チ行政ノ根本ノ改革ハ今申ス通り、財
政ノ根本ノ改革ハ今直ニ英國ノヤウナ
譯ニハ行カナイカ知レナイカ、是ハ余
程改革シナケレバナラス、所ガ少シモ
ソレニ觸レテ居ラス、今迄ノ型ニ嵌ツタ
野紙ニ引イタヤウナ、私惡口ヲ言フヤ
ウダガ、是ハ財政デナイ、財務デア、
財務ヲ扱フノデハ値打ガナイ、財政ト
云フモノハモット運用ノ妙ガアツテ、其
根本カラ改メル覺悟ガナケレバナラ
ヌ、此二點ニ付テ承ルコトガ先ズ稅制
ニ對スル總體ノ質問デアリマス、ソレ
カラ御答ニ依テ又質問致シマス
○濱口國務大臣 御答致シマスガ、第
一ニ行政ノ改革ト云フコトハマダ出來
テ居ナイヤウデア、何故ソレヲヤ
ラヌカト云フコトデアリマス、只今大
口君モ御引用ニナリマシタ通り、行政
財政ノ整理ノ中デ財政ノ整理ハ既ニ大
體ヲ終リマシタ、行政ノ整理ハマダ殘
ツテ居リマス、固ヨリ大正十四年度ノ

豫算ノ編成ニ當リマシテ、其志シタ所ハ勿論行政、財政ノ兩様ノ整理デアリマシタケレドモ、行政ノ整理ノ方ハマダ殘ツタノデス、ソコデ議會ニ於テ時ノ總理大臣カラモ説明ヲ致シマシタ通リ、財政ノ整理、行政ノ整理ハ打切りデアルカト云フ問題ニ對シマシテ、只今大口君ガ御述ベニナリマシタ通り、時ノ加藤總理カラ致シマシテ官吏ノ首ヲ多ク減ル、金ヲ出スト云フ目的ヲ以テ行フ所ノ整理ハ之ヲ以テ打切トスル、ソコデ殘ル所ハ所謂事務簡捷、能率ノ増進ノ問題デアアル、ソレガ行政整理ノ眼目トスル所デアアル、其事務ノ簡捷ト、能率ノ増進ト云フ問題ニ付テハ政府部内ニ於テ行政調査會ヲ設ケテ、其調査講究ヲ待ツテ順次之ヲ實行スル積リデアアル、斯ウ云フ説明ヲサレテ居タノデアリマス、前議會ガ終リマス同時ニ直ニ行政調査會ヲ設ケマシテ、事務ノ簡捷、能率ノ増進ニ關スル問題ノ外ニ文官ノ任用令ニ關スル問題、其他各種ノ事項ニ付テ調査研究ヲ致シテ居ル所デアリマス、其調査研究ヲ終ルニ從ツテ廟議ヲ決定シテ之ヲ實行スル、斯ウ云フ順序ニナツテ居リマス、只今大口君ハ行政整理ノ結果ガ十五年度ノ豫算ニ於テ少シモ現ハレテ居ナイデハナイカト云フ御言葉デアリマシタガ、是ハ前カラノ宿題デハアリマシタケレドモ、郡役所全廢ト云フ事柄ハ此度ノ豫算ニ於テ行政整理ノ一事項トシテ現ハ

レテ居ルヤウナ次第デアリマス、其他行政整理ニ關スルコトハ著シキ問題ハ此豫算ニハ現ハレテ居リマセヌガ、右申ス通りノ順序ヲ取りマシテ追ミト實際ノ上ニ之ヲ行フト云フ考デアリマス、行政ノ改革ト云フコトハ各省割據ノ弊ヲ矯メナケレバナラヌト云フ、點ニ重キヲ置カレテノ御質問デアリマシタ、各省割據ノ弊ト云フノハ抑ドウ云フコトヲ言フノカ、大口君ノ御質問ノ趣旨ヲ承ツテ居リマシタケレドモ、私ニハハッキリト具體的ニ了解スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、各省割據ノ弊ト云フコトヲ世間デ申ス場合ニ於テハ、多クハ豫算ノ分捕ノコトヲ意味シテ居ルコトト私ハ是マデ承知シテ居ル、今日ノ内閣ニ於テ各省大臣ガ互ニ自分ノ所管事務ニ膠著ヲ致シ、固執ヲ致シ、省ニ依テ豫算ノ分取ヲ盛ニヤルト云フ御意味デアアルナラバ左様ナル嫌ハ今日ハアリマセヌト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、其他各省割據ノ弊ト言ハレマシタガ、今日ノ政府ノ部内ニ在ルト云フコトハ私ハ思ヒ當リマセヌ、行政ノ整理ハ——繰返シテ申シマスガ、主タル眼目ハ事務ノ簡捷ト能率ノ増進デアリマス、事務ノ簡捷ガ行ハレ、能率ノ増進ガ出來マスレバ、自ラソレガ財政ノ上ニモ整理緊縮ニナツテ現ハレマス、或場合ニ於テハ能率ノ増進ノ結果却テ經費ノ殖エルモノガアルカモ知レマセヌ、又行政整理ノ結果歲出ノ増加スル

モノガナイト限リマセヌ、大體ニ於テハ歲出ノ減少スル傾向ガアラウト思ヒマス、併シ是ハ追ミト調査研究ノ結果ガ實行サレタ時ニ於テ現ハレテ來ル問題デアリマス、要スルニ行政ノ改革ト云フ事ニ付テハ政府ハ少シモ怠ツテ居リマセヌ、十分ナル考慮ヲ拂ツテ調査會ニ於テ熱心ニ攻究中デアリマスト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、次ハ剩餘金ノ問題デアリマス、ソレニ附帶ヲシテ概計表ノコトニ付テノ御説モ承ツタノデアリマス、先ヅ概計表ニ付テ申シ、ソレニ關聯ヲシテ剩餘金ニ付テ御答ヲ致シマス、概計表ハ勿論大口君モ申サレタ通り一ツノ目安デアリマス、協賛ヲ求メテ居リマスモノハ十五年度ノ豫算案デアリマス、概計表ハ御協賛ヲ求メテ居リマス所ノ當該年度ノ豫算ト云フモノヲ是認スル場合ニ於テハ、其次ノ年度ニハ日本ノ財政ハドウナルカ、又其次ノ年度ニハドウナルカ、之ヲ數年ニ互テ歲入歲出ガ各ドウ云フ狀況ニナルデアアラウカト云フコトヲ——大體ノ目安ヲ立テマシテ作製シタル所ノ表デアリマス、固ヨリ目安デアリマス、併ナガラ豫算ト概計表トヲ全然互ニ引離ス譯ニハ參リマセヌ、何トナレバ概計表ハ即チ協賛ヲ求メテ居ル所ノ其豫算ノ延長トモ云フベキモノデアリマス、唯概計表ノ不備ノ點ト申セバ是ハ大口君モ能ク御承知デスガ、歲入ノ自然增收ヲ將來ニ向ツテ見積テナイト同

時ニ、歲出ノ自然増加ヲモ將來ニ向ツテ見積テナイト云フコトデアリマス、若シ歲出ノ自然増加ノミヲ認メテ置イテ、歲入ノ自然增收ヲ認メテナイト云フコトデアアルナラバソレハ不釣合ナル概計表デアリマス、其反對ニ歲入ノ自然増加ノミヲ認メテ置イテ、歲出ノ自然增收ヲ認メテ置イテ、是亦不釣合ナル概計表デアリマス、又其兩様トモ認メテナイ、是ニ於テ將來歲出ノ自然増加ト云フコトガ、大口君ノ御説ニナリマス如ク、國運ノ發展ニ伴ツテ必ズヤ起ツテ來ル、其起ツテ來ルベキ所ノ歲出ノ増加ヲ賄フ爲ニ、歲入ノ自然增收ガ出テ來タ、其範圍内ニ於テ歲出ノ増加ヲ賄フ、其豫備ノ爲ニ歲入ノ自然增收ハ豫メハ計上出來マセヌ、是ニ於テ概計表ノ歲入ノ累計ト歲出ノ累計トハ大體ニ於テ見合ガ付イテ居ルノデアリマス、其見合ヲ付ケル上ニ於テ當該年度ノ豫算案ヲ基本ト致シテ、將來數年ニ互ル所ノ目安ヲ立テルト云フコトガ、無用ノ業デアルト云フヤウナ意味ヲ以テノ御質問ト承リマシタ（「イヤサウデハアリセヌ」ト呼フ者アリ）若シサウデハアリセヌナラバ大分是ハ見解ヲ異ニ致シマス、若シ目安ナクシテ行當リバツタリ主義ヲ以テ一年限ノ財政ヲ賄ツテ行クト云フナラバ、政治家ノ責任ハ極メテ輕イノデアアル、サウ云フコトデハ私ハ國家ノ財政ハ賄ヘヌト思フ、一家ノ經濟又左様

デアリマス、況ヤ一國ノ財政ニ於テハ將來數年ニ互ル大體ノ目安位ハ造ッテ置イテ、ソレニ依テ財政ヲ行ハナケレバ國家ノ將來ハ頗ル不安ダト思フ、若シ其點ニ付テ目安ハ要ラヌ、概計表ハ無用デアルト云フ御考デアルナラバ、是ハ遺憾ナガラ見ル所ヲ異ニスル結果デアリマス、諸ソレガ既ニ無用ノ業デナイト致シマス、茲ニ概計表ヲ拵ヘタ所ガ、將來三年間位ハ歳入ノ不足デアルト云フヤウナ概計表ガ出來マシタ時ニ於テハ、不足ノ儘之ヲ放任シテ置ク譯ニハ參ラヌ、是ニ於テカ前年度ノ剩餘金ヲ充ガッテ、其三年ナラ三年、四年ナラ四年ニ互ル所ノ歳入ノ不足ヲ補ッテ置クノデアリマス、補フ所ノ財源トシテ留保シテ置クト云フ必要ヲ生ズル、概計表ハ無用デアル、目安ハ要ラヌト云フナラバ、其時ニ出來タ所ノ剩餘金ハ全部御使ニナッテ宜カラウト思フ、其目安ガ必要デアルトスルナラバ、概計表上ニ歳入不足ト云フモノガ現ハレタ時ハ、其歳入ノ缺陷ヲ補填スル爲ニ何カノ財源ヲ留保シテ置ク必要ガアル、若シ一億ナラ二億、三億ナラ三億ト云フ剩餘金ガ出來タ時ニ、ソレヲ後年度ノ歳入不足ノ爲ニ留保シテ置ク必要ガナイト致シテ、一年ノ間ニ之ヲ使ッテシマッタ致スナラバ、將來ノ目安ハ直ニ破レル、唯目安ヲ造ル上ニ於テ歳入モ缺陷ガ生ジナイ、歳入モ歳出モ缺陷ヲ生ジナイ、剩餘金ノ繰入ノ必要モナ

イト云フ如キ財政計畫ガ出來マスレバ、是ハ洵ニ結構デアリマスガ、遺憾ナガラ我國ノ財政ハ今ヤ整理ノ過渡ノ際デアリマス、又歳入歳出ヲ對照シマシタ上ニ於テ、當該年度カラ致シ、又次ノ年度カラ致シテ、歳入ガ歳出ヲ蔽フテ餘リアルト云フ程度ニ達シテ居ナイコトハ、是モ私ハ遺憾ト思ヒマス、御互ニ遺憾トナル所デアル、ソレデ遺憾ナガラ歳入ノ缺陷ガ生ズルト云フ概計表ガ出來ル以上ハ——目安ガ立ッ以上ハ、ソレヲ補填スル爲ニ剩餘金ヲ留保シテ置クト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ナイコトデアリマセヌカ、併ナガラ十六億圓ノ豫算ヲ造リ、歳入ノ見積リヲ立テル上ニ於テ、少シモ其的ヲ誤タヌト云フコトガ出來マスレバ結構デアリマセヌガ、ソレハ今日マデ誰モ成功シタモノハナイノデアリマス、豫算ハ即チ豫算デアル、一年先ノコトヲ豫算ヲ以テ見込シテ置キマスカラ、其豫算ヲ編成シタ時カラ、決算ニ至リマス間、一年間ノ經濟上ノ變遷ト云フモノハ是ハ神ナラヌ人間ノ業デ豫メ推測スルコトハ出來ナイ、是ニ於テカ正確ヲ期シテ編成シタル所ノ歳入歳出ノ豫算ト云フモノハ決算ニ至リマス、ソコデ狂ヲ生ジマス、狂ヲ生ズル程度ガ最少限度デアランコトヲ希望スルガ、只今大口君ノ御指摘ニナリマシタ所ノ、近頃多キ剩餘金ガ出來ルト云フコトハ良イコトデアリマセヌ、私モ満足シテ居ラ

ヌ唯將來ニ互ッテサウ云フ澤山ノ剩餘金ガ出來ルヤウナ誤ヲシナイヤウニ、私ハ最善ノ努力ヲ致シテ居リマス、唯十五年度豫算ノ歳入ノ臨時費ニ於テ、一億二千五百萬圓ノ剩餘金ヲ繰入レ、又概計表ヲ作リマス大正十六年度、十七年度、此二箇年ニモ剩餘金ヲ繰入レルコトニナルダラウト思ヒマスガ、ソレヲ具體的ニ申シマスナレバ、大正十三年度マデノ剩餘金デアリマス、獨リ大正十三年度ノミニ於テ、新ニ生レタ剩餘金デアリマセヌ、其前年來ノ剩餘金ガ溜リ溜ッテ、使ヒ殘リガソコニ結品シテ、大正十三年度ノ剩餘金何億ト云フモノガ出來ルノデアリマス、是ガ生レタノハ十三年度デ、現内閣ノ作ッタ所ノ豫算デアリマセヌ、將來ニ於テ斯ク如ク大キナ剩餘金ノ生レナイコトヲ希望致シマス、然ラバ此内閣ノ作ッタ豫算ガ、決算ニ至ッテ剩餘金ヲ生ゼスト云フコトヲ茲ニ責任ヲ持テ明言スルカト言ハレ、バ、ソレハ明言ハ致シマセヌ、何分困難ナ仕事デアリマスカラ、唯決算ニ適合スル豫算ヲ作ルコトヲ希望スル、其目的デ努力スルト云フコトヲ申上ゲルノ外ハアリマセヌ、十三年度ニ於テ既ニ剩餘金ヲ生ズル以上ハ、十五年度ニ於テモ、十六年度ニ於テモ、亦相當ノ剩餘金ヲ生ズルデアラウト云フ御話デアリマスガ、是ハ私ハ左程多クノ剩餘金ヲ生ゼザルコトヲ希望シテ豫算ヲ編成シテ居リマスルガ、ソレハ必

ズシモ豫算ノ通りニハ參リマスマイ、或ハ生ズルカモ知レマセヌ、若シ生ジタナラバ、ソレハ理想カラ申シマスレバ國債ノ臨時償還、若シサウ行カナカツタナラバ、歳入ノ缺陷ヲ補フ爲ニ或ハ繰入ヲ要スルコトガ、將來ノ豫算編成ノ時ニ於テアルカモ知レマセヌ、要スルニ剩餘金ヲ生ゼシムルト云フコトハ、豫算ノ編成ガ、結果カラ見テ正鵠ヲ誤ッタ、斯ウ言ッテ宜シイノデアリマス、併シ豫算編成ノ當時ニ於テハ、誰モ正鵠ヲ誤ルコトヲ期待シテ作ル者ハアリマセヌ、唯一年間ノ經濟界ノ狀態ガ違ッテ來タト云フ結果カラ生ズルコトデアリマスカラ、深ク其責任ヲ論ズベキモノデモアルマイト思フ、大體御質問ニ對シマシテハ一應御答致シマシタト思ヒマス

○大口委員 大變御丁寧ナル御説明ヲ承リマシタガ、大藏大臣ハ私ノ質問ノ趣意ヲ、失禮ダケレドモ誤ッテ居ラレルヤウニ思フ、私ハ何モ現在ノ内閣ノ責任ヲ問フトカ、剩餘金ヲ貴方ガ餘計殘シタノハ不都合デハナイカト云フコトヲ申シテ居ルノデハ毛頭ナイ、又概計表ト云フモノハ三文ノ値打モ無い、編成ヲスル必要ハナイト云フコトヲ申シタ覺エハナイ、是ハ何時ノ内閣ヲ問ハズ、參議ガ廢サレテ以來、議會立始マツテ以來ノ日本ノ通弊デアル、此弊ハ認メテ居ラレル筈デアルガ、此内閣ハ此弊ヲ根本カラ改革スル意思ハナイカ

ト云フ意味ニ於テ御尋シタノデアアル、將來ドウ云フ考ヲ持ッテ居ラレルノカ、ソレヲ申シテ居ルノデアリマス、今迄通りヨリ、他ニヤリ方ガ無イト御答ニナレバ、吾ミハソレダケノ能力シカナイ内閣ト認メルダケデアリマス、事實ヲ舉ゲテ歴代ノ内閣、ドノ内閣ガドウト言フノデハナイ、況ンヤ濱口君ノ責任ガドウダト言フノデモ何デモナイノデアリマス、ソレカラ概計表ト云フモノハ、是ハ目安デアリマスカラ作ッタ方ガ宜シイ、是ハ去年モ、目安ト見テ吾ミモ同意シタト云フコトヲ申シテ居ル、所ガ概計表ハドウシテ出來ルカト云フト、今大藏大臣ノ仰シヤッタ通ニシテ出來ルモノデアリマス、現在ノ狀態ヲ本ニシテ、ソレガ動カナイモノトシテ作ッタモノデアルカラ、大ナル間違ガアル、即チ新ニ殖エルベキモノヲ見込ンデ居ナイ、新ニ使ヒ途ノ出來タモノヲ見込ンデ居ナイ、サウ云フ型ニ鑑ッテアル豫算ハ、財務デアッテ財政トハ云ヘナイト思フノデアリマス、即チ今日マデノ統計ハ一體ドウナッテ居ルカ、大正三年カラ今年マデニ、租税、印紙收入、官業收入ト云フヤウナモノガ何レノ年ニ於テモ

結果デアルカ、租税ノ如キハ豫算ヨリ一億圓以上餘計取ッテ居ル年ガアル、今回ノ豫算ニ於キマシテモ、煙草ノ收入ニ於テハドウカ、大正十四年度ニ豫期シテナイモノヲ値上ヲ爲サツタカラ、是ハ幾ラカ剩餘金ガ殖エナクテハナラヌ、ソレデ十四年度ニ於テハ剩餘金ガ殖エテ二億圓位ニナルカト思フ、ソレハマダ概計表ニハ入ッテ居リマセヌガ、其位ハ出ルト信ジテ居ル、私ハ政府當局デナイカラ分ラヌガ、見當ハソコラニ行ク、サウ云フコトニ相成ルト云フト、先刻言フ通り八億ノ租税ニ對シテ二億圓ノ剩餘金ガ出ル、其剩餘金ハ見込マレテ居ナイ、サウシテドウダト云フナラバ、二億圓カラノ剩餘金ノ出ルモノヲ、剩餘金ガ出ナイモノトシテ概計表ガ出來テ居ル、其剩餘金ノ出來ル豫算ヲ、剩餘金ヲ見ナイデ辻褄ヲ合シテ居ル、ズット現狀デ行ッタラ、二億圓ツツ當然剩餘金ガ出ルト云フコトガ裏面ニ含マレテ居ルト云フコトハ、是ハ間違ハナカラウト思フ、ソレヲ非難スルノデモ何デモナイ、歴代ノ内閣ガヤッテ居ツタカラ、サウヤラナケレバナラヌト云フナラバ、ソレハ形式的デアアル、私ハ形式ヲ離レテ、長イ間個人トシテハ色御意見モ承リ、今ノ大藏大臣ハ餘程忠實ニ斯ウ云フ事ヲ話シテ下サル方ト思フカラ、私ハ事實ヲ申上ゲテ、今ノ内閣ハ何トカ考ヘテ居ナサルダラウト思ッテ質問ヲシタノデアリマス、決シテ

攻撃スルトカ、揚足ヲ取ラウトカ云フコトデハアリマセヌ、大臣ハ相當ノ方デアリ、私ハ相當ノ者デハアリマセヌケレドモ、此處デ濱口君ノ揚足ヲ取ッテ喜ブト云フ程ニ私ハ小サイ者デハアリマセヌ、失禮デハアリマセヌガ、共ニ國事ヲ談ジヨウト思ッテ斯ウ云フ風ナ質問ヲスルノデアアル、之ニ對シテ將來ドウ云フ御考ガアルカト云フ質問デアッタノデアリマスカラ、モウ一應御答ヲ願ヒマス

○濱口國務大臣 只今ノ御質問ヲ承ッテ居リマスルト、剩餘金ト云フモノト、自然増收ト云フモノト、或ハ一緒ニ御考ニナッテ居ルノデハナイカト云フ私ニ感ジガ起リマシタ、或ハサウデナイカ知レマセヌガ、サウ云フ感ジガ起リマシタカラ一言申シテ置キマス、剩餘金ハ是マデニ二億圓程出ル、八億圓ニ對シテ二億圓ト云フモノハ、ソレハ非常ニ多イ所ノ超過デアアル、既往ニ於テ既ニ然リ、將來ニ於テモサウデアラウト思フ、ソレガ出ナイヤウニ表ヲ作ツテ、即チ隠レタル財源ガアル、何モ財源ヲ隠スニモ及バヌデハナイカト云フノガ御質問ノ要點デアッタヤウニ承リマシタガ、私ハ左様ニハ考ヘテ居リマセヌ、自然増收ハ無論アルデアラウト思ヒマス、國家ガ進歩シテ行ク以上、國富ガ増進シテ行ク以上ハ、自然増收ハ是ハアルト思ヒマス、アリマセヌガ、ソレハ豫算ヲ編成スル時ニハ、當該年度ノ自然増收シカ見積ルコ

トハ出來ヌノデアリマス、十六年度ニ於テモ、無論自然増收ハアリマセヌ、ソレハ十六年度ノ豫算ヲ編成スル時ニ於テ初メテ計算スベキモノデアリマス、十七年度以降亦同様デアリマス、ソコデ然ラバ其自然増收ト云フモノハ、隠レタル財源デアアルヤト云フニ、隠レタル財源デアリマス、アリマセヌガ、ソレト同時ニ其隠レタル財源タル自然増收ヲ以テ賄フベキ歳出ノ自然増加モ亦隠レテ居リマス、其歳出ノ自然増加ガ概計表ノ歳出ノ分ニ現ハレナイ限リハ、是ニ該當スベキ歳入ノ自然増收モ現ハスコトハ出來ナイ、ノミナラズ年々歳々ノ自然増收ト云フモノハ、數年前カラ之ヲ豫期スルコトハ出來ナイ、當該年度ノ豫算ヲ編成スル時ニ於テ、初メテ之ヲ計算シマス、隨テ十五年度ノ豫算ヲ編成スル時ニ於テ十六年度ノ自然増收ヲ見積リ、十六年度ノ豫算ヲ編成スル時ニ十七年度ノ自然増收ヲ計算シ、十七年度ノ豫算ヲ編成スル時ニ十八年度、十九年度ノ自然増收ヲ豫算シ計算スルト云フコトハ、明治四十一年以來未ダ曾テ例ノ無イコトデアリマス、ソレハ出來ナイ事デアリマス、剩餘金ハ是ト違ヒマス、剩餘金ハ決算上ノ剩餘金デ、自然増收ハ豫算上ノ自然増收デアリマス、ソコニ明確ナル區別ガアル、決算ヲシナケレバ剩餘金ガ幾ラ出タト云フコトハ分ラヌ、分ラヌモノヲ隠シテ置キ様ハアリマセヌ、將來ノ剩餘金ト

云フモノハ、誰モ見込ム人ハアリマセ
ヌ、將來剩餘金ガ此位出ルデアラウト
云フナラバ、ソレハ即チ自然増收ノ意
味デアリマス、ドウモ大口君ハ熱心ナ
ル御質問デアリマシタガ、自然増收ト剩
餘金トヲ、或ハ一緒ニ御考ニナツテ御
質問デハナカッタカト思ヒマス、兎ニモ
角ニモ剩餘金ガ餘リ出ルト云フコト
ハ、私ハ繰返シテ申シマス、決シテ喜ブ
ベキ事デアリマセヌ、サウ云フ豫算
ノ編成方法ハ、正鵠ヲ得タル豫算編成
方法デナイト申サナケレバナラヌ、唯
剩餘金ハ、是迄ハ二億圓出テ居ッタデセ
ウ、是マデ出テ居ッタカラ、將來モ決算
上剩餘金ガ二億圓出ルト云フコトハ、
何人モ考ヘルコトノ出來ナイ事デアリ
マス、是ハ自然増收トノ區別ヲ明瞭ニ
ナサレンコトヲ希望致シマス

○大口委員 是モ大分私ノ肚トハ違フ
ノデアリマス、ドウモ困ッタモノデアリ
マスガ、是デモウ爭論ハ止シマセウ、私
ハ豫算論ヲ大藏大臣ト闘ハス考モナイ
ノデアリマス、唯一言誤解ヲ避ケル爲
ニ辯明的ニ申シテ置キマスガ、私ト雖
モ、剩餘金ト自然増收トヲ一緒ニシテ
ハ居リマセヌ、ケレドモ自然増收ノ結
果剩餘金ガ出テ來ルモノダト考ヘテ居
リマス、ソレカラモウ一ツ、私ノ言フ眞
意ガドウモ分ラヌラシイ、概計表ト云
フモノハ、例ヘバ大正十五年度ノ豫算
ニ於キマシテハ、十四年度ノ歳入歳出
ヲ其儘ズツ持ッテ行ッタモノデアル、所

ガ大正十四年度ノハ出來テアル筈デア
ル、ソレハ事實ハ剩餘金ヲ二億圓生ズ
ル、ソレガアル積リデズツ出來テ居
ル、増減ナシト考ヘテ出來テ居ルモノ
ノ中ニ二億圓ヅ、ハ殘ル、ソレヲ含マ
レル形ニナツテ居ルデハナイカ、斯ウ云
フノデアアル、サウ云フトソレハ必ズア
ルト仰ッシャル、アルケレドモソレハ自
然増收デアツテ、結局新ニ生ズル所ノ、
新シク出來ル所ノ事業ニ振向ケル考デ
吾ミハ現ハサセラレナイト、斯ウ言ハ
レル、其遣リ方ヲ金科玉條トシテ居ル
ノハ、財務デアツテ財政デナイト、日本ノ
財政ノ運用ハモウ少シ良ク出來サウナ
モノト私ハ考ヘテ居ル、失禮ナガラ豫
算ノ議論ナラバ、私ハ大藏大臣ニハ及
ビマスマイガ、今少シ考ヘテ居ル積リ
デアリマスカラ、後日申述ベテ御參考
ニ供スル事ガアラウト思フ、私ハ今茲
ニ其議論ヲシヤウト云フノデアアリマ
セヌガ、私ハ其見地カラ、今ノヤウニ固
執セラル、程ニ財源ガ枯渴シテ、財源
ガキチント塞ガツテ、チヨット一千萬圓
カ五百萬圓動カシテモ、ソレデ財政ガ
困ルト云フ程ニ、我ガ帝國ノ財政ハ版
ニ刷ッタヤウナモノデナイト云フ意味
ヲ明ニシタカッタノデス、此處デハ此間
題ハ了リマセウ、次ニ承リタイノハ、極
メテ簡單ニ致シタイト思フガ、先日一
寸話シ掛ケタ體系ノ問題デアリマス
ガ、色々體系ニ付テ諸君カラ御話ガア
リマシタカラ、私ハ此間ノ續ヲ一點ダ

ケ承リタイ、今回政府ガ改正サレル所
ノ營業稅ト云フモノハ、言フ迄モナク
是ハ收益稅ト云フコトニナツテ居ル、ケ
レドモ實體ハドウデアアルカト云ヘバ、
純益稅デアアルカラシテ、結局是ハ特別
所得稅ト見テ宜イ性質ノモノダト私ハ
思フ、所ガ相違ンデ所得稅ノ補完稅ニ
ナル所ノ地租ト云フモノハ、賃賃價格
デアアルカラシテ、是ハ純益デハナイ、ソ
レデアリマスカラシテ一口ニ言ヘバ、
寧ロ財產稅ニ近キ所ノ性質ヲ帶ビテ居
ルヤウニ思フ、此間ノ權衡ガ頗ル取レ
テ居ナイガ、是デハ體系ガ正シクナラ
ナイデハナイカ、併シ過渡時代己ムヲ
得ザルモノデアルト云フナラバ、是モ
吾ミ認メテ宜シイ、ソレナラバ將來根
本ハドウ改革サレル積リカ、斯ウ云フ
問ナノデス、所ガソレハ一寸註釋ヲ加
ヘナケレバ、誤解サレルコトモアリマ
スマイガ、私ハ質問ヲ繰返スコトヲ好
マヌカラ、問フ意義ヲ申上ゲテ置キタイ、
濱口大藏大臣ハ能ク御承知ノ通り、財
政經濟調査會ニ於テモ、委員會ニ於テ
三案出來テ居ル、第一案ハ地租、營業稅
ヲ地方ニ委譲スル、其代リ財產稅ヲ起
ス、第二案ハドウデアアルカト云フト、地
租營業稅ハ地方稅ニ移ス、其代リニ特
別所得稅ヲ起ス、第三案ハドウデアアル
カト云ヘバ、今回政府ガ出サレタ案ニ
稍近キ意味ノモノデアッタコトハ、御承
知ノ通り、其時ニ色々論議サレ、研究サ
レ、政府ニ差出サレテアルノデアリマ

スガ、其場合ニ於テ特別所得稅ハ如何
ニスルモノデアアルカ、財產稅ハ如何ニ
スルモノデアアルカト云フコトガ、具體
的ニ色々論議サレテ居ル、此上カラ體
系ナドヲズツ考ヘテ見ルト云フト、果
シテ將來所得稅ノ補完稅トシテ、ドウ
云フ風ノ稅ヲ立テ、行クノガ體系ニ合
フカト云ヘバ、現在ノ儘デ地租營業稅
ヲ殘ストスレバ、共々ニ權衡ヲ取ラナ
クチャナラヌ、然ルニ一方ハ純益稅ニ
ナツテ、一方ハ相變ラズ純益稅ニアラ
ザル財產稅ニ近キ所ノ、特別所得稅ト
財產稅トヲ混淆シタヤウナモノニナッ
テ行クノデ、其間ニ頗ル權衡ガ取レナ
イ事ニナルノデアアルガ、之ニ對シテハ
ドウ云フ解釋ヲ持ッテ居ラル、ノカ、斯
ウ云フ質問デアリマス、所デ尙ホ申シ
タイノハ、斯ウ言フト政府ハ斯ウ云フ
コトヲ言ハレル、此間總理大臣デナク
内務大臣ノ資格デ若槻君ガ言ハレタ
ガ、ソレハ營業稅ヲ賃賃價格ニ基イタ、
ラ宜イト云フヤウナコトヲ言レル
ガ、サウセヨト云フノデアリナイデアリ
マス、今ノ權衡ヲ缺クノデアリマス、此
理窟サヘ承レバ宜シイノデアリマス

○濱口國務大臣 營業稅ノ課稅標準
ハ、收入純益デアツテ、即チ特別所得稅ノ
一種デアアルニ拘ラズ、同じク補完稅タ
ル所ノ地租ノ課稅標準ハ、賃賃價格ニ
スルト云フ計畫デアアル、賃賃價格ハ即
チ純益デハナイ、却テ財產稅ニ近イモ
ノニナル、財產稅ニ似寄ッタ所ノ地租

ト、特別所得税アル所ノ營業收益税ト、ソレヲ竝ベテ所得税ノ補完税ニスルコト云フコトハ、體系上其權衡ヲ得タリヤ、斯ウ云フ御質問ノ要點デアッタト思ヒマス、是ハ如何ニモ御尤ナ御質問ト思ヒマス、ソレニ對シテ私ハ斯ウ云フコトヲ先ヅ以テ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、營業税ノ改善ハ如何ニスベキヤト云フ問題デアリマス、根本論トシテ、是ハ明治三十年カラ行ハレテ居ル所ノ税アル、其課税標準ハ今日ニ至ルマデ、或ハ賣上金高、或ハ資本金額ト云フ如キ、外形標準ニ依テ課税ヲセラレテ居ル、隨テ營業ノ收益ニ比例シナイ、營業ノ收益ニ比例シナケレバ、擔税能力ニ比例シナイ、即チ負擔ノ均衡ヲ得ナイ、其税ノ負擔ノ差額ガ輕微デアラナラバ忍ビ易イケレドモ、營業税ノ負擔ハ餘リ輕イト言フコトハ出來ナイ、相當ニ重イ負擔ニナツテ居ル、此場合ニ於テ、其負擔ガ各人ノ擔税能力ニ比例シナイト云フコトニナルト甚ダ苦シムト云フノガ、殆ド三十年ニ近い間營業税ニ對スル所ノ根本的ノ非難デアリマス、無論其他ニモアル、營業税ニ對スル非難ノ第二ハ、稅務官吏ト納稅者トガ店頭ニ於テ互ニ折衝ヲスル、其煩ニ堪ヘナイト云フ、徵稅上手續ノ煩瑣ナコトモ其非難ノ第二デアル、而モ其主タル中心問題ハ、外形標準制デアッタガ爲メデアリマス、爾來營業税法ニ對スル改正ハ度々行ハレテ居リマス、或ハ其稅率ヲ輕減シ、或ハ其免稅點ヲ引上ゲ、或ハ外形標準ノ一部ヲ改メ、殊ニ加藤友三郎サンノ内閣ノ時代ニ於キマシテハ、營業税ニ對シテ整理ヲ行ハレ、原則トシテ營業税ノ課稅標準ハ、賃賃價格ト云フモノヲ除外致シマシタ、私共其當時考ヘテ居リマシタガ、其改正タルヤ固ヨリ結構ナ改正デハアルガ、ソレ位ナコトデハ、到底三十年來營業税ト云フモノニ對シテ世間ガ持つテ居ッタ所ノ不平ノ中心、非難ノ中心ト云フモノ、之ヲ除却スル譯ニハ參ラヌ、從テソレハ營業税ノ改正ト見做スベキデハナイ、營業税ト云フモノヲ本當ニ改善ヲ致シテ、之ヲ營業者ノ負擔能力ニ比例セシメ、其負擔ヲシテ割合ニ容易ナラシムル途ヲ付ケルニハ、外形標準ニ對シテ局部的ニ改善ヲ加ヘルヨリ、寧ロ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メテ、營業收益ニ比例セシムルヨリ外ニ途ガナイノデアル、若シ今日營業税ノ課稅標準ト云フモノト、純益トノ間ニ、恰度可イ加減ノ所デ、採ルベキ所ノ課稅標準ト云フモノヲ發見スルコトガ出來ルナラバ、洵ニ幸デアルケレドモ、何トシテモ其中間ニ、適當ナル課稅ノ標準ヲ發見ノシヤウガアリマセヌ、是ニ於テ此度ノ整理案ニ於テハ、一步飛越エマシテ、直チニ營業ノ純益ヲ捉ヘテ、之ヲ課稅標準トスルノ外ニハ、最早ヤ營業税ニ向ッテ改正ヲ施スノ途ハナイト考ヘタノデアリマス、併シ茲ニ特ニ御斷リシマスノハ、營業純益ヲ課稅標準トスルト申シマス、恰モ現在ノ所得稅ト同ジ位ニナルデハナイカト云フ御疑ガ起ルカモ知レマセヌガ、ソレハ營業純益ノ計算方法ト、所得稅ノ所得計算ノ方法トハ、多少趣ヲ異ニシテ居リマス、是ハ寧ロ細目ニ互リマスカラ、私ハ此席デハ述ベマセヌガ、例ヘバ控除ノ金額等ニ於テ趣ヲ異ニスル、即チ營業收益税ハ、何處マデモ收益ト云フ性質ハ此法文組織ノ上ニ表ハシテアル積リデアルト云フコトヲ茲ニ一言附加ヘテ申上ゲテ置キマス、斯ノ如ク營業税ノ課稅標準ヲ、補完税トシテ適當ナル所デ見付ケタイト思ッテ苦心シマシタガ、ソレヲ發見スルコトガ出來マセヌカラ、已ムヲ得ズ此標準ヲ今日ノ程度ヨリ一步ヲ進メテ、營業純益課稅標準トシテ、之ヲ課スルト云フコトニ致シタノデアリマス、然ラバ地租トノ權衡ハ如何、地租ハ賃賃價格ニ依ルコトニナツテ居リマス、尤モ二年間ハサウデナイガ、二年後ニ於テ賃賃價格ニ依テ課稅スルト云フ方針デアリマス、ソコデ營業税ノ課稅標準ハ營業純益、地租ノ課稅標準ハ純益ニアラザルモノニ依テ居ル、ソコデ補完税ト補完税ニアラザルモノトハ權衡ヲ失スルデハナイカト云フ御疑問デアリマス、併ナガラ土地ノ賃賃價格ト云フコトハ、大體ニ於テ其土地ノ收益ニ比例スルト思ヒマス、無論土地ノ收益ニ比例シナイノモアル、地方ニ依テ違

ヒマスガ、先ヅ大體ニ於テ土地ノ收益ニ比例セシムルコトニナツテ居ル、收益ヨリ一步手前ヲ行ッテ居ル、營業税ノ方ハ、直チニ純益ニ足ラ踏込ンデ居ル、一步ノ違ヒガアルガ、大體ニ於テ似寄ッタ課稅標準デアルト私ハ思ッテ居リマス、若シ營業税ニ於テ、土地ノ賃賃價格ニ匹敵スル課稅標準ガアルトスレバ、ソレヲ捉ヘル筈デアルガ、營業税デハ賃賃價格ヲ捉ヘル譯ニ行キマセヌカラ、ソコデ純益ニ進ンダノデアリマス、土地ノ方ハ幸ニシテ賃賃價格ヲ捉ヘルコトガ出來マスカラ、賃賃價格ヲ標準トシテ課稅シタ、斯ウ云フ譯デアリマス、ソコデ今一ツノ御疑ハ、是ニ附帶シテ地租ノ賃賃價格ハ營業ノ純益ト違フ、恰モ財產稅ト同様デアル、斯ウ云フ御疑ヲ持タレテノ御質問デアッタト考ヘマスガ、私共ノ考デハ、財產稅ト、賃賃價格ヲ標準トスル所ノ地租トハ全ク違フト考ヘテ居リマス、御互ニ財政經濟調査會ニ於テ審議討論致シマシタ時ノ財產稅ハ、總テノ財產ニ等シク課稅ヲスル、而シテ其財產ハ收益ヲ生ズルト生ゼザルトニ拘ハラズ一律ニ之ニ課稅ヲスル、是ガアノ當時ノ財產稅ノ立前デアル、即チ無收益財產ニモ課スル、是ガ財產稅ノ特徵デアリマス、其理由ハ、無收益財產ニ課稅ヲスレバ、其財產ヲシテ收益財產化セシメル利益ガアルカラト云フノデ、殊更ニ無收益財產ニ課稅ヲスルト云フ立前デアッタ、ソコデ此度

ノ地租ノ賃貸價格ハ、是ハ收益デアリマス、從テ無收益ノ財産ニ對シテ課税スル所ノ財産稅トハ、全然其立前ヲ異ニシテ居ルト云フコトヲ能ク御承知ヲ願ヒタイト存ジマス、財産稅ノ課税標準ハ、是ハ時價デアリマシタ、無收益ノ財産デモ之ヲ時價ニ換算シテ、收益ヲ生ズルト否トニ拘ハラズ、之ヲ財産稅トシテ稅ヲ取ラウト云フ立前テアツテ、極端ニ申セバ書畫骨董ト云フモノマデモ這入ル筈デ、家具什器ニマデ及ブ筈デアリマス、營業稅トハ全然私ハ違フト考ヘマス、ソレ故只今御質問ノ最後ノ結論タル所ノ、此度ノ政府ノ整理案ニ依ル補完稅ノ體系ガ、財産稅ノ如キモノト、特別所得稅ノ如キモノトヲ並ベテ、等シク之ヲ收益稅トシテ、補完稅トシテ置クコトハ行カヌト云フコト、ソレニ付テ答辯シタイト考ヘマス、即チ營業稅ハ、是ハ純益課稅ヲスルガ、所得稅ハ、純益計算方法トハ違フ、依然トシテ收益稅、ソレカラ地租ノ方ハ、收益ニ近イ所ノ課稅標準タル賃貸價格ヲ選ンダ、財産稅デハナイ、財産稅トハ違フ、收益ヲ生ゼザル所ノ、財産ニモ課稅ヲスルト云フ財産稅トハ違フ、斯ウ云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○大口委員 ドウモ其處ガ、私ノ考ガ違フカ、大藏大臣ノ考ガ違フカ、明カニシテ置キタイト思ヒマスガ、私ノ申スノハ、今回政府ノ出サレタ所ノ營業收益稅ハ、純益ニ課スルモノデアルガ、所

得稅ニ近イモノ、特別所得稅ト見得ラルモノデアアル、所ガ土地ノ方ニ對スル新シイ地租ハ、賃貸價格ニ課ケラレルガ、收益ノナイモノデモ、是ハ賃貸價格トシテ稅ヲ課セラレル、ソレデアアルカラ是ハ財産稅ノ一部ト見ルベキモノデアアル、ソレデアアルカラ所得稅ノ補完稅トシテ、營業稅ハ、純益ニ課シ、地租ノ方ハ純益ニアラザル無收益ノモノデモ、賃貸價格トシテ課スルノハ權衡ガ取レナイ、跛ニナツテ居ルガ、ソレデドウシテ權衡ガ取レルカ、斯ウ云フ質問デアリマス、ソレニ對スル御答辯ガ一寸違フノデアリマス

○濱口國務大臣 或ハ私ガ初メニ申シマシタ事ガ、違ッタコトヲ申シタカ知ラヌガ、アノ當時ノ財産稅ハ、財産ノ總額ニ向ツテ課稅スル、斯ウナツテ居リマシタ、ソレガ財産稅ノ特徵デアルト考ヘマス、今度ノ地租ハ、其課稅標準ガ賃貸價格、即チ收益デアリマス、是ハ何處迄モ收益稅デアツテ財産稅デナイト云フコトヲ重ネテ申上ゲマス、而シテ所得稅ノ補完稅トシテノ地租ト、ソレカラ營業稅トノ課稅標準ノ權衡ガ、私ハ完全ヲ得テ居ルモノダトハ考ヘマセヌ、多少違ヒマス、即チ營業稅ノ方ハ、所得稅ニ近イノデアリマス、ソレカラ地租ノ方ハ、賃貸價格デアリマスカラ、純益トハ多少隔タリガアリマス、其點ダケハ地租ト營業稅トハ權衡ヲ完全ニ得テ居ラヌト思ヒマス、併シ斯様ニスル外

ニハ方法ガナイト考ヘマス、此點ニ付テハ相當ニ調査考究ヲ遂ゲタノデアリマスガ、此位ノ程度ノ不權衡ハ忍バナケレバナラヌ、然ラズンバ營業稅ノ改善ノ仕様ガナイ、大體ニ於テ收益稅デアリマスル以上ハ、此方ガ私ハ宜イト思ヒマス、賃貸價格ヲ標準トシタ地租ニスルコトガ、補完稅トシテ適當デアアル、ソレニ相當スル課稅標準ヲ營業稅ニ付テ求メマシタガ、得ルコトガ出來マセヌ、ソレデ所得稅ニ近イ營業收入ニ課ケマシタ、其處ハ多少不權衡ガアルト考ヘマスガ、其點ハ忍バナケレバナラヌト考ヘマス

○大口委員 只今ノヤウナ御話デアレバ御答ニナリマス、次ニ私ハ營業收益稅ニ付テ續イテ質問シタイノデアリマス、所得稅デモ營業收益稅デモ、政府ノ御説明ニ依ルト、大財産家ニ比較的重クシテ、中産以下ヲ保護スルト云フ御説明ニナツテ居リマスガ、事實ニ當ルトサウイカヌ、大ナル缺陷ヲ發見スルヤウデアリマス、ソレデ著シイモノヲ、營業稅ト所得稅トデ舉ゲテ政府ノ所見ヲ聞イテ置キタイ、先ヅ營業稅ノ方カラ事實ヲ舉ゲテ伺ツテ見タイ、即チ營業收益稅法ノ第十條デアリマスガ、其第二項ノ法人ト云フモノガ營業收益稅ノ中カラ、新ニ起サル資本利子額ヲ控除サルルコトニナツテ居リマス、是ハ所得稅ヲ免除スル意味カラ行ケバ適當ナヤウデアアルガ、事實ニ當ルト非常ナル

私ハ變化ヲ來スト思ヒマス、即チ極メテ大キイ銀行會社ノ如キハ、營業收益稅ハ一文モ取ラレナイヤウナ者ガ澤山出來ルト考ヘマスガ、資本利子稅ノ方ハ、御承知ノ如ク今回ノ法律ニ於テハ百分ノ二デアリマシタカ——百分ノ二ノ資本利子稅ヲ課セラレルヤウデアリマス、所ガ法人ノ營業收益稅ハ百分ノ三・六ヲ課セラレテ居ル、所デ資本利子稅ノ方ハ、純益稅デナク收入ニ對シテ稅ヲ課セラレル、所ガ營業收益稅ノ方ハ、純益ニ對シテ課セラレルノデアリマスカラ、其間ニ於テ差ヲ生ズル、入費ガ引カレルカラ、課カル所ノ歩合ガ、營業收益稅ノ方ガ百分ノ三・六デ率ガ多イ、資本利子ハ率ガ少イ、課ケラルル本ガ、百分ノ二ノ方ガ收入デアアル、百分ノ三・六ノ方ハ純益デアリマスカラ、本ニ相違ガアリマス、私ハ東京市內ヲ當ツテ見タ、此處ニ東京市內ニ於ケル大銀行會社ニ對シテ實地ニ當リ、竝ニ新聞ニ出テ居ル考課狀ニ依テ積算ヲ致シテ見マシタ、ソレハ貯蓄銀行ノ如キモ、是ハ公債ノヤウナ債券ヲ非常ニ多ク持ツテ居ルカラシテ、是カラ出ル所ノ純益ノ方ガ非常ニ多クテ、其他ノ純益ガ極メテ少イ、ソレデアアルカラ資本利子稅ヲ引クト、全部無クナル、私ノ驚イタノハ、資本利子稅ノ方ガ多クナリマス、ソンナコトハ事實ナカラウト思ツタガ、川崎銀行、神田銀行、ソレカラ安田貯蓄銀行ノ如キハ、差引クト收益稅ハ一文モ取

レナイ、サウシテ茲ニ又非常ナ不公平ヲ生ズルコトハ、資本利子税ニ對シテハ地方税ヲ附加スルコトガ出來ヌ、所ガ營業收益税ノ方ハ地方税ノ附加ガ出來ル、個人デアルト營業收益税ヲ取ラレテ、地方税ノ附加ヲ受ケル、所ガ資本利子税ヲ納メル會社ノ如キモノハ、營業純益ノ方カラ引カレテシマツテ、營業收益税ガ一文モ出ナイカラ、資本利子税ノ方ニ轉嫁サレル、其資本利子税ニ府縣市町村ノ附加税ガナイカラ、エライ旨イコトニナルノデ、自治體ガ非常ニ困ル、私ノ計算ハ誤ラヌト確信シテ居ル、ソコデサウ云フ銀行ノ内幕ヲ申シテ宜イカ分ラヌガ、茲ニ考課狀ヲ持ッテ居リマス、神田鑛藏君ガヤツテ居ル神田銀行ヲ見ルト、殊ニ是等ハ隨分不思議ナ結果ヲ來スノデアリマス、現行法ニ依テ受クル所ノ課税ハ三萬三千七百九十二圓デアリマス、所ガ今回ノ收益税デ計算スルト、二萬九千七百二十四圓デアルガ、資本利子税ノ方デドレダケ納メルカト云フト三萬九百四十八圓納メルカラ、差引クト寧ロ貰ヒ分ニナル、ソナ答ハナイト思フケレドモ、入費ヲ餘計使ッテ他ノ儲ケガ少ナクテ、公債ヲ持ッテ居ル利益ノ方ガ非常ニ大キイカラサウナリマス、殊ニ甚ダシイノハ、地方税ガ資本利子税ニ課ラヌト云フノダカラ、詰リ政府ハ國稅トシテ資本利子税ヲ其處デ差引クガ、地方税ヲ收益ニ附加スル場合ハ、之ヲ差引カナ

イ、本ニ附加スルコトニ改メナケレバ、地方税ヲ皆免カレル、私ノ調べガ違ッテ居ルト云フナラバ、之ヲ持ッテ行ッテ御覽ヲ願ヒタイ、所デ私ガ斯ウ云フコトヲ言フト惡口ニ聞エテ行カナイガ、實ニ不思議ニ思フ、銀行トカ大會社トカ云フモノハ、アノ位算盤ノ達者ナモノハナイカラ、割ノ惡イ法案ガ出タ日ニハ、運動ニ來テ運動ニ來テ仕方ガナイ、所ガ一向來ナイ、能ク默ッテ居ルナト思ッテ疑問ヲ起シタ位デアル、サウスルト或人ナドハ、ドウカ默ッテ居ッテ貰ヒタイ、コンナ旨イ事ハナイカラト言フノデス、私ハ之ヲ明白ニシナケレバナラヌト思フ、若シ違ッテ居ルノナラバ、私ハ勘定下手ダカラ仰ッシャッテ下サイ、成程ソレハ申譯ガナカッタ陳謝スルヲ憚ラナイ、私ハ確實ニ之ヲ信ズル、斯ウ云フ事ニナルガ、全體政府ハドウ思フカ、斯ウ云フ質問デス

○藤井政府委員 只今ノ御質問ニ私カラ便宜御答ヲ致シマス、今回ノ營業收益税法ノ第十條ノ二項ニ於キマシテ、法人カ各事業年度ニ於テ納メタ地租額又ハ資本利子税額ハ營業收益税額ヨリ控除スルト書イテアリマス、其結果或ル銀行其他ノモノニ付キマシテハ、資本利子税額ノ方ガ營業收益税額ニ匹敵スル、或ハ多クナルモノガ生ズルヤウデアアル、甚ダ不都合デハナイカ、斯ウ云フ御尋ノヤウデアリマス、勿論此法案ヲ起草スル場合ニ於キマシテ、サウ云フ場合ノ生ズルコトモ豫想シテ居タノデアリマス、只今御舉ゲニナリマシタ特殊銀行ニ付テハドウカ存ジマセヌ、ガ、理論上サウ云フ事モ有リ得ルト云フコトハ豫期シテ居ッタデアリマス、サウ云フ事ヲ豫期シテ居リナガラ、何故斯ノ如キ法案ヲ作ッタカト云フ理由ヲ御説明申上ゲテ御了解ヲ得タイト思ヒマス、今回ノ稅制整理ニ當リマシテ、直接税ニ於テハ大體現在ノ體系ノ儘ニスルト云フコトニ重キヲ置イタノデアリマス、所得税ニ付キマシテ第一種所得ト、第二種所得トノ重複ヲ避ケル爲ニ、第一種所得稅ヨリ第二種所得稅ヲ引クト云フコトヲ規定シテ居ルノハ同ジ趣旨デアリマス、ソレト同ジニ、地租、營業、收益税及ビ資本利子税、此三ツハ特ニ之ヲ設ケテ、一般所得稅ノ外ニ、補完ノ目的ヲ達シヨウト云フ趣旨デ出來タノデアリマス、此地租、營業收益税及ビ資本利子税ト云フ三ツハ、所得稅ヲ補完スベキ性質ヲ持ッテ居テ、對等ノ地位ニ立ツモノデアリマス、所デ同ジ人ガ或ル財產ヲ持ッテ居リナガラ、此相對立スベキ補完稅ヲ、二重ニモ三重ニモ課セラレルトハ、理論上不當デアルト考ヘタノデアリマス、今例ニ舉ゲラレマシタ銀行デ云ヘバ、銀行ガ人カラ預金ヲ預カリマシテ、ソレヲ更ニ他ノ方ニ運用シテ居ル、其場合ニ其銀行ニ對シテハ、銀行ノ所得ニ對シテ所得稅ガ課カルコトハ勿論デアリマス、而シテ

其銀行ガ其預金ヲ運用スル、或ハ證券ニ投資シテ居ル場合ニ、其證券利子ト云フモノニ對シテ、更ニ營業税ニ對立スベキ補完稅タル資本利子税ヲ、營業税ノ外ニ課スルト云フコトハ、負擔ノ均衡ヲ得ル所以デナイ、斯ウ考ヘタノデアリマス、其結果トシテ、營業收益税ノ第二項ノ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、同時ニ是ハ屢他ノ機會ニ於テモ議論ガアッタヤウデアリマスガ、稅カラ稅ヲ引クノト所得カラ所得ヲ引クト、云フ二ツノ方法ガアリマスガ、便宜ノ爲ニ稅カラ稅ヲ引クト云フコトニシタ、同時ニ其第十條ノ末項ニ於キマシテ、其控除スベキ地租又ハ資本利子税ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入シナイ、其銀行ノ純益計算ヲスル場合ニ於テハ、經費トシテハ見ナイ、其稅ヲ納メザリシ狀態ニ於テ計算スル、スルト、既ニ法人ガ納メタ所ノ資本利子税トノ二重ヲ避ケラレル、斯ウ云フ事ニナリマス、尙ホ關聯致シマシテ、地方稅ヲ課ケナイ故ニ、甚ダ不當デハナイカト云フ御意見ノヤウデアリマスガ、御承知ノ如ク資本利子税ニハ甲種ト乙種トアリマス、甲種ノ方ハ無記名ノ公債社債ガ大部分デアリマス、此無記名ノモノニ對シテ地方稅ヲ課スルコトハ出來ナイ、若シ第二種所得稅ヲ課セバ三重ニナツテシマヒマス、若シ之ヲ賦課スルト云フコトニナルト大ナル不公平ナ場合ヲ生ズル結果ニナリマスガ故

ニ、斯ウ云フ事ニ致シタノデアリマス、
今回ノ資本利子税ハ、大部分ハ甲種ノ
資本利子税デアリマス、乙種ト理論上
區別シテアリマス、ケレドモ、大部分ハ
甲種デアアル、此甲種ニ對シテ地方税ヲ
課スルコトガ出來ナイトスレバ、全體
ニ對シテ地方税ヲ課セナイト云フ規定
ヲ適當ト爲スト云フコトデ、終リノ方
ニサウ云フ規定ヲ設ケナケレバナリマ
セヌ、地方税ヲ課セナイト云フ事ニ致
シタ結果、甚ダ不公平ナ場合ヲ生ズル
ト云フ御懸念デアリマスガ、事實ニ於
テハサウ云フ場合ガ多少起ルカト考ヘ
テ居リマス

○大口委員 只今ノ理論上ノ話ハ半分
解リマシテ、マダ半分了解出來ナイ所
ガアリマスガ、ソレハ政府ノ理論デア
リマセウ、私ノ理論ハ別ニ持ッテ居ル、
今理論爭ハシタクナイガ、結局理論ニ
拘泥サレテ居ル、ソレデハ社會政策ヲ
ドウスルカ、實ハ第一銅行ト云フ銀行
ハ、割合ニ社債ノ少イ銀行デアアルガ、是
デ差引勘定一年ニ一萬圓ノ得ニナル、
今度ノ法律ニナルト、税金ガ減リマス、
ソレカラ神田銀行ガ三萬三千七百九十
二圓ノ營業税ガ皆零ニナツテシマツテ、
悉ク資本利子税ヘ行クカラ、資本利子
税ヲ三萬九百四十八圓納メレバ宜イコ
トニナル、三千圓モ減ルカラ、三萬三千
七百九十二圓ニ對スル地方税ハ全部免
除サレルコトニナル、其金ガ何處ニ行
クカ、結局出ト入トガ合セテアツテ、收

入ニ増減ガナイト云フコトニナリマ
ス、斯ノ如ク大銀行大會社ガ免税サレ
タモノハ、中産階級ヤ細民ニ行クコト
ハナイ、私ノ社會政策ハ、成ベク金持
方ハ取ツテモ、中産以下ノ者ニ免税シタ
イト心得テ居リマス、政府ハ斯ウ云フ
大キイ者ヲ免除スルノガ社會政策ト
思ハレルカ、マサカサウデハナカラ
ウト思フ、或ハ政府ノ千慮ノ一失デハ
ナイカト思フ、私ガ調ベタ所ガ違ッテ
居ッたら指摘シテ貰ヒタイ、念ニ念ヲ入
レタノデマダ幾ラデモ例ガアリマス、
私ハ此事ハ明瞭ニシテ置キタイ、是デ
ハ社會政策ニモ何ニモナラナイヤウニ
私ハ思フ、モウ一ツソレト似タ事デ、所
得税ニ付テモ一ツ大イナル疑問ガアル
ソレハ所得税ノ第二十一條ノ點デス、
一寸本議場ニ於テ質問シマシタガ、其
時ニ實ハ非常ニ演壇ガ熱カッタモノデ
スカラ、私ハ少シ頭ガ茫然トシテ居ッ
タ見エマシテ、私ノ質問ノ仕方ガ惡カ
ッタヤウニ思フ、所ガ結論ハ、矢張政府
モ私ノ言フ通りニ御認メニナッタヤウ
アル、即チ所得税ノ一種二種ト云フ法
人ノ所得——法人所得ノ一種ト二種ノ
項デス、是ハ矢張二種ノ所得税ヲ一種
ノ下デ引カナイデ、税金ヲ取ルカラ、非
常ナ違ヒヲ生ズル、即チ第二種ノ所得
税ノ方ハ、法人デアリマス、ト百分ノ四
ノ課税ヲ受ケル、所ガ其課税ヲ受ケル
本ガ、第一種所得ノ中ニ綜合サレテ百
分ノ五トナル、ケレドモ百分ノ四ダケ

ガ引イテ貰ヘルカラ百分ノ一ダケハマ
ダ引キ殘ル、是ハ不都合デナイカト云
フコトヲ申上ゲタラ、ソレハ御認メニ
ナツテ、税ノ種類ガ變ルカラ、一殘ッテモ
已ムヲ得ヌト云フ御答デアアル、是ダケ
ナラバ宜イ譯ダガ、又進ンデ調ベテ見
ルト、其結果ハ大會社ハ超過所得ヲウ
ント儲ケテシマウ、超過所得ヲ納メヌ
デ宜イヤウナ事ニナツテシマウ、是ハ保
險會社ガ非常ニ儲ケル、是モ事實ヤツテ
見ルト、ドウモ妙ナ結果ヲ來スノデア
リマス、例ヘテ言フト、是ハ小サイ譬デ
アルガ、私ハ自分ノ小サイモノカラ割
出シテ數字ヲ申上ゲマス、茲ニ資産十
萬圓ノ保險會社ガアル、コンナ小サイ
ノハアリマスマイガ、例ヘバ資産十萬
圓ノモノガアル、其内公債ヲ四萬圓持ッ
テ、是ガ假ニ五分利トスルト、所得ガ二
千圓、此二千圓ト云フモノニ對シテ第
二種ノ所得ガ課ル、ソレカラ其他ノ財
産ガ六萬圓アツテ、之ニ對シテ假ニ一割
二分ノ所得ガアルトスルト、ソレガ七
千二百圓デアリマスカラ、其純益ヲ積
ツテ所得税ヲ納メル時ニナルト九千二
百圓ノ所得、此九千二百圓ノ所得デア
ルト、之ニ對シテ課税ヲサレルノデア
ルツテ、是ハ十萬圓ニ對シテ一割ニナラ
ナイカラ、超過所得ハ取ラレナイ、十萬
圓ノ資産カラ出ル所ノ九千二百圓ノ所
得ハ一割ニ滿タナイカラ、超過所得ハ
取ラレナイ、所ガ公債ノ方ノ二千圓ノ
方ヲ取ツテシマウト云フト、六萬圓ノ資

産ダケニ對スル七千二百圓ダト超過所
得ヲ取ラレル、私ノ言ヒヤウガ惡イカ、
十萬圓アツテ、四萬圓ノ公債カラ來ル五
分ノ利ガ二千圓、其他ノ六萬圓ハ一割
二分ト見テ所得ガ七千二百圓、之ヲ寄
セテ九千二百圓デアアルカラ、超過所得
ハ之ニ對シテ課ツテ來ナイ、普通ノ所得
税ダケデアアル、所ガ公債ノ所得二千圓
ニ對シテ百分ノ二、二十圓ダケノ税ヲ
取ラレル、之ヲ取ツテシマヘバ六萬圓ニ
對スル七千二百圓デアアルカラ、是ハ超
過所得ト云フモノヲ取ラレナケレバナ
ラス、サウ云フコトニナリマスカラ、之
ニ依ルト超過所得ト云フモノハ逃レラ
レルコトニナル、大分減ル、今ノヤウナ
計算デ行クト、公債ノ所得ヲ第二種ノ
所得ノ方デ二十圓ノ税ヲ出シテモ片方
デハ四十八圓ノ税ニナルカラ二十八圓
助カルコトニナル、是ハ矢張全然免税
ニハナラヌガ、約半分近イモノガ少ナ
クテ濟ム、是ハドウ云フ譯デアラウカ、
斯ウ云フノデアリマス

○藤井政府委員 營業所得税カラ資本
利子税ヲ控除致シマシタ結果トシテ、
或モノハ負擔ヲ輕減シナケレバナラ
ヌ、而シテ其理論ハ別トシテ、事實ノ結
果ニ於テハ大所得者ノ負擔ヲ輕減シテ
其輕減サレタモノガ小所得者ノ方ニ負
擔ヲ轉嫁スルヤウナ結果ニナリハセヌ
カト云フ御議論デアッタヤウデアリマ
スガ、決シテ吾々ハサウハナラヌト思
フノデアリマス、若シ營業收益税ノ課

分ノ五トナル、ケレドモ百分ノ四ダケ

方ヲ取ツテシマウト云フト、六萬圓ノ資

税標準ヲ純益ニ取ルコトハ惡イト仰セラレ、バ別デアリマス、現行營業税法ノ規定ハ、營業者ノ負擔シ得ベキカニ副ハナイ、營業ノ利益ニ副ハナイ、課税ヲシテ居ル、是ガ營業税ノ最モ惡イ點デア、之ヲ成ベク公平ナ課税ニ直スガ爲ニ、營業ノ純益ニ對シテ營業收益税ヲ課スト云フコトニ致シマス以上ハ或者ノ負擔ハ輕減シ、或者ノ負擔ハ重クナルト云フコトガ出テ來ルノハ、是ハ已ムヲ得ヌ結果ト思ヒマス、モウ少シ言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、物品販賣業ニ付テ、賣上金ノ多イ割合ニ利益ノ少ナカッタ者モ、今度ノ改正ニ依ル負擔ノ増減ト、賣上金ノ割合ニ利益ノ多カッタ者ノ今度ノ改正ニ依ル負擔ノ關係ト云フモノハ、全然反對ニナルノデアリマス、從來外形標準ノ課税標準ガ比較的多クシテ、利益ノ比較の少ナカッタ者ハ、是ハ負擔ガ輕クナル、反對ニ外形標準ノ割合ニ利益ノ多カッタ者ノ負擔ガ、今度ノ改正ニ依テ多クナルノデアリマス、此多クナルノハ、大營業者デアラウガ、小營業者デアラウガ、其人ノ資産ノ狀態ノ大小ニ變リハアリマセヌトモ、是ハ補完税タル營業收益税ト致シマシテ、其利益ノ大小ニ應ジテ課税スルト云フコトガ適當ナリ、斯ウ云フ見解ノ下ニ營業税ノ改正ヲ致シマシタ、營業收益税ヲ設ケル以上ハ、已ムヲ得ヌ結果デアリマス、銀行デアリマシテモ、只今大口サンノ御述ベニナリマ

シタ數種ノ銀行ハ、或ハ負擔ガ輕クナルノガアルカ知レマセヌ、併シソレニ反シテ今度ノ營業税ヲ廢シ、營業收益税ニ變ヘルガ爲ニ、負擔ノ増加スルモノモアルト云フコトハ明瞭デアリマス、是ハ私共確信シテ疑ハナイノデアリマス、若シ實例ヲ出セト仰セニナルナラバ、今此處ニハ持つテ居リマセヌガ、役所ニ調ベタ材料ガアリマス、其負擔ノ増加スルモノモ、御目ニ懸ケテモ一向差支ナイト思フ、蓋シ今回營業税ヲ廢シテ、營業收益税ニ變ヘタト云フノハ、營業税ノ負擔ヲシテ公平ナラシメルト云フ趣旨ニ過ギナイノデアリマス、決シテ是ガ爲ニ大所得者ノ負擔ヲ輕減シ、小所得者ノ方ニソレヲ轉嫁シヤウト云フコトハ、全然無イト考ヘテ居リマス、ソコデ資本利子税ヲ控除スルナラバ、サウ云フ結果ガ起ルジヤナイカト仰セニナルガ、資本利子税ヲ控除スルト云フコトハ、所得税ニ對シテ補完税タル營業收益税ト、資本利子税ト二重ヲ避ケルニ過ギナイノデアリマス、是ハ先刻理論上申上ゲタ通りデアリマス、ソコデ資本利子税ハ今回設ケタ税デア、營業收益税ノ課税標準ヲ收益ニ變ヘルコトハ、宜イト云フコトヲ御認メ下サイマシマス、ソレニ依テ算出サレタル銀行ナラバ銀行ノ其營業收益税ガ出マス、今度新ニ設ケタ資本利子税ト云フモノハ、是ハ新設スルノデアリマス、其新設スル資本利子税ヲ

營業收益税カラ引クト云フダケデアリマシテ、決シテ其銀行ナラ銀行ノ負擔ハ増減ナイ管デアリマス（「附加税ハドウシタ」ト呼フ者アリ）附加税ハ先刻申上ゲマシタ通り、大體附加税ヲ課スベキ性質ノモノデハナイ、斯ウ認メマシテ、之ヲ課スルコトヲ得ズト致シタノデアリマス、モウ一ツ御尋ニナリマシタ所得税ニ付キマシテ、超過所得税ガ減ルデハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマシタガ、是ハ十分ニ御説明ヲ申上ゲレバ直グ御判リノコトデアリマシテ、何カ御考慮ヒデナイカト思フ

○大口委員 言ヒヤウガ惡カッタノデアリマス

○藤井政府委員 後デ御説明ヲ申上ゲレバ、直グ御諒解下サルコト、確信致シマス、結局大體ヲ申上ゲマスト、法人ノ普通所得ヲ當リ前デ計算シマシテ、超過所得税モ計算シテ出シマス、一方ノ取ルベキ所得税ヲ計算シテ出シテ置テ、若シ其法人ガ第二種所得税ヲ拂ッテ居ルナラバ、第一種所得税カラ第二種所得税ヲ引クノデアリマシテ、是モ所得税ガ輕クナル、多クナルト云フ問題デナイ、若シ税金ヲ控除セズシテ所得ヲ控除スル、課税標準ノ額ヲ動かスト云フコトデアレバ、仰セノヤウナ説ガ出ルノデアリマスガ、此點ニ於テハ兩方ノ數ヲ出シマシテ、サウシテ差引スルダケデアリマスカラ、御心配ニ及ブ事ハ無カラウト思ヒマス

○大口委員 私人言ヒヤウガ足りナカッタ、少シ説明ガ惡カッタカラ、モウ一度説明シマスト、私人言フコトガ分ッテ參ル、前ノ方ノ營業收益税ノ方ハソレハ免除ニナルガ、資本利子税デ取ラレル、其資本利子税ガ減ルノガ多イノデアリマス、營業税ヨリ減ルノガ多イノデアリマス、ソレハ茲ニ調ベテアルカラスッカリ御覽ニ入レマシマス、今迄ノ營業税ヨリモ今回ノ資本利子税ノ方ガ殖エレバ宜イガ、資本利子税ノ方ガ減ルノガ多イ、營業收益税ニ取ラレルノガ多イ、是ハ事實ニ於テ調ベテアルノデ明瞭デア、後ノ所得税ノ方ハ本デ引カレバ無論超過所得ヲ取ラレルモノガ、税デ引カレルノデ超過所得ヲ免レル、何故元デ引カナイカト云フ質問デア、今言フ通り十萬圓ノ資産デ公債ヲ四萬圓持ッテ居ル、之ニ對スル五分ノ利息ヲ所得トシテ二千萬圓、其他ノモノニ放資セルモノガ六萬圓、是ガ一割二分ノ所得ヲ得ルトシテ七千二百圓、之ヲ本ニ一絡ニスルカラ兩方合セテ九千二百圓ノ所得デア、アルカラシテ、十萬圓デ一割ニナラナイ、所ガ本デ公債ノ四萬圓ヲ引落サレルカラ、六萬圓ニ對スル一割二分ハ七千二百圓デ、一割以上ノ超過所得ヲ取ラレル、ソレガ免除サレル、本デ引クカラ免除サレル、ソコ何フノデアリマス

○藤井政府委員 第二ノ方カラ申上ゲテ參リマシマスガ、單純ナ計算ノ問題デアリマシテ、少シ誤解サレテ居ルヤウニ

思ヒマス、今度ノ稅法ニ於キマシテハ、法人ノ所得ヲ普通ノ第二種所得稅ヲ控除スルトセスト別ニシマシテ算出致シマス、從來ノ方法ニ依テ計算致シマシテ稅額ヲ出シマス、其他ニ第二種所得稅ヲ若シ其法人ガ納メテ居ルト、其税金ダケ引イテヤル、超過所得稅ト云フモノト、第二種ノ所得ヲ引クト云フコトノ爲ニ影響ハナイト思ヒマス、只今御話ニナリマシタ十萬圓ノ所デ四萬圓ヲ引クト云フコトハ、何カ御考慮違ガアルヤウニ思ヒマス、此處デ詳シク申上ゲナイデモ、後デ御説明申上ゲレバ大口サンノコトデアリマスカラ、チヨット申上ゲレバ直ニ御諒解アルコト存ジマス

○大口委員 之ヲ聽ケバ分ルノデス、サウスルト最初調ベルトキニ財産ノ中カラ公債ノ四萬圓ト云フモノヲ引イテ超過所得ヲ計算スルノデアルカラ、超過所得ガ出ルケレデモ、ソレヲ一絡ニシテ十萬圓ニシテ計算スルト九千二百圓ニナリマスカラシテ、是ハ超過所得ハ拂ハヌコトニナル

○藤井政府委員 資本ガ十萬圓ト致シマシテ、其中ノ六萬圓ト四萬圓ト御分ケニナリマシテ超過所得ヲ計算致シマスト、實際十萬圓デアリマヌモノ、所得ガ九千二百圓デアレバ其法人ニハ超過所得稅ガ掛リマセヌ、ソレハ第二種所得稅ヲ控除スルトセストハ問題ニ入ラナイ

○大口委員 ソコガ違フ、ソレダカラ第二種所得ヲ免除スルカライケナイ、本デ免除シテ四萬圓ト云フモノヲ引去テヤレバ超過所得ヲ取ラレル、ソレヲ今貴方ノヤウニスルカラ四萬圓ノ公債ヲ持ッテ居ル會社ガ超過所得ヲ免レル、矢張ソレハ眞面目デ私ハドンナ事ヲシテモ負ケヌ積リデアアル、斯ウ云フコトデ時間ヲ潰スノハイカヌガ、公債ノ四萬圓ト云フモノヲ本デ引去レバ残りハ六萬圓ノ財産デアアル、是デヤレバ超過所得ヲ取ラレル、所ガ十萬圓ニ御計算ニナルカラ超過所得ヲ免レル、ソレデ片方ハ第二種ノ方ノ所得ダツテ免レル

○藤井政府委員 或ハ私ガ更ニ考慮ヲ致シテ居ッタカモ知レマセヌガ、若シ假定シタ法人ガ十萬圓ナラ十萬圓ノ超過所得ヲ、資本十萬圓ト云フコトデ計算スルト御説ノ如ク其法人ガ第二種所得稅ヲ例ヘバ社債ヲ四萬圓持ッテ居ル、其資本金ガ六萬圓トシテ計算シロト云フコトデアリマスカラ……

○大口委員 是ハ分リ切ッテ居ルト私ハ思フ、第二種所得ト云フモノヲ本デ引ケバ六萬圓ダケノ超過所得ガ掛カル、本ヲ一絡ニシテ十萬圓トシテ計算スルト、其超過所得ガ掛カル、何故稅デ引クカト云フコト、何故本デ引カナイカト云フコトデス

○藤井委員 現行ノ所得稅法デ超過所得ヲ算出シマスト、法人ガ十萬圓ノ資本デ假ニ九千二百圓ノ所得ヲシテ居ル

是ハ第二種所得稅ヲ控除スルト云フコトハイカヌ、超過所得ガ掛カル其超過所得ノ計算ハ現行法ガ若シ反對ニ之ヲ掛ケテ引キマセヌデ、所得デ引クト云フコトニナリマスト、更ニ反對ノ結果ヲ生ズルデハナイカト私ハ思ヒマス、此稅法ノ書方ニ置キマシテハ、所得デ引ク場合ト結果ヲ同ジクスル爲ニ稅額デ引キマス、其引イタ稅額ト云フモノハ一應損ト出テ居ルカラ、ソレヲ損ト見ザルヲ得ナイ、第二種所得稅ヲ同ジト見テ、法人ノ所得ヲ計算致シマスト、ソレカラ第二種ヲ引クト云フコトニナリマスノデ、御説ノ結果ニナルト思ヒマス

○小川委員 議事ノ進行ニ付テ……

○大口委員 此問題ハ同ジコトニナリマスカラ私ハ止メマスカ、今是ハ聞カナクテモ同ジコトデアリマスケレドモ、之ヲ聞キサヘスレバ分ル、何故稅デ引クノカ、何故本デ引カナイノカト云フ理由サヘ説明ヲ聞ケバ分ル

○元田委員長 今ノ説明ハ取調中デアリマスカラ、其間ニ議事ノ進行ニ付テ

○小川委員 御説ヲ伺ヒマス

○小川委員 此ハ此間答ニ對シテ喩ヲ答ヘル人トのガ違ッテ居ルノデ、何時マデヤッテモ際限ガナイ、ソレデ一寸議事ノ進行ヲ求メタノデアリマス、唯私ノ今感ジタ所ハ、超過所得稅ノ關係ハ同

ジ會社ノ資本十萬圓ナラ十萬圓ト見ルト、ソレニ所得ガ幾ラアル、其所得ガ會社ノ財産、會社ノ資本ニ對シテ一割以上ト云フコトハ假定ノ問題デアリマス、何時マデモ十萬圓ト其會社ノ資本ガ決マッテ居ルモノデアリマセヌカラ、ソレニ對シテ或ハ公債トカ社債トカノ問題ガアッテ、會社ノ資本ガ動カナケレバナラス、今ノ問題ハ私ハ會社ノ資本ト會社ノ所得ト云フモノノ釣合デ決マルノデアアル、其會社ノ財産ガ或ハ公債ニ出タトカ、其他ニ入レタトカ云フ區別ノ問題デ、會社ノ所得關係ガ明カニナルノデアアル、問フ者ト答ヘル者ト違ッテ居ル

○元田委員長 説明ニナッテ居リマスカ、議事ノ進行ガ惡イト云フコトデナケレバ私ハ承ハラヌ

○小川委員 双方ノ考ガ違ッテ居リマスカラ、ソコヲ統一シテ御問答ナサレバ早ク済ムト思ヒマス

○元田委員長 如何デゴザイマセウ、大口サンニ後デ政府委員ガ直接御話ヲシテ解決ガ出來タラ、ソレヲ御報告下サッタラドウデス

○大口委員 ソレデハソレハ保留シテ後ニ致シマシテ、後ヲ進メテ見タイト思ヒマスガ、營業收益稅ト云フモノハ政府ニ於テハ寧ろ今回減稅ニナルト云フヤウニ言ハレル、ドウモ私共ノ考ヘル所デハ營業收益稅ハ減稅ニナラナイト考ヘルノデアリマスカラ、其數字ヲ

先般來根據ヲ要求シテアリマスガ、マ
ダ手許ニ參リマセヌ、併ナガラ大體考
ヘルト斯ウ云フコトニナルト思フガ、

ルニ稅ガ倍ニナル、是ハ中ミ重イト思
ヒマスガ、政府ハドウ考ヘテ居ラレル
カ

此點ニ對スル政府ノ所見ヲ承リタイ、
今回政府ハ營業收益稅ニ對シテ四百圓
ト云フモノヲ之ヲ免稅點ニ改正シタ、
此四百圓ト云フ人ガ假ニ營業收益稅ヲ
納メル時ニハ千分ノ二十八デアルカ
ラ、其稅金ハ十一圓二十錢掛カル、所ガ
現行法デ行クト免稅點ガ二千圓デアリ
マシテ之ニ對シテ千分ノ三デアリマス
カラシテ僅ニ六圓デ濟ム、一等最低度
ノ人ガ現行法デ六圓デ濟ムノガ、是カ
ラ先ニ行ッテ改正法ニ依ルト十一圓二
十錢ノ營業稅ヲ拂ハナケレバナラス、
丁度二倍ニ近キ所ノ營業收益稅ヲ拂フ
ヤウニナルカラ、非常ニ一等低イ程度
ニ居ル人ハ多額ノ增稅ニナルヤウニ私
共ハ思フ、斯ウ云フト政府ハ現行法ハ
二千圓デアアルガ、ソレニ對スル新法ノ
四百圓、是ハ純益デアッテ賣上デハナ
イ、二千圓ノ賣上ノ人ハ或ハ四百圓ノ
利益ハナイカモ知レヌノデアアルカラ、
四百圓トサレタコトハ現行法ニ較ベテ
餘程免稅點ヲ引上ゲタ所以デアルト言
ハレルカ知レマセヌガ、併ナガラ二千
圓計リノ賣上ヲスル人デアッテ見レバ、
二割ヤソコラノ純益ガナケレバ食ッテ
行ケル譯ガナイカラ、現行法ニ於ケル
二千圓ノ免稅點ハ新法ノ四百圓ト云フ
純益ニ對照シテ、殆ド對照ノ出來ル位
ナ程度デハナカラウカト私ハ思フ、然

○黒田政府委員 御答致シマスガ、只
今營業稅ノ免稅點ガ四百圓ニナレバ、
現在販賣業デ例ヲ取ッテ見ルト、販賣業
ノ二千圓ト云フモノ、免稅點ニ比較シ
テ却ッテ重クナリハシナイカ、少クトモ
同ジ程度デアッテ、少シモ引下ゲラレテ
居ラスト云フ御話デアリマスガ、二千
圓賣上ガアリマスモノガ純益ニ割ト致
シマスレバ、成程四百圓ニナルノデア
リマス、併ナガラ現在稅務署ニ於テ課
稅シテ居リマス所ノ實例カラ申シテ
モ、二千圓ノ賣上ニ對シテ色々業體ニ
依テ其ノ收益ヲ見マスル上ニ於テ違ハ
アリマスガ、大體カラ申シマスレバ左
様ニハナラナイノデアリマス、決シテ
二千圓ノモノニ對シマスル課稅ガ四百
圓ニ對スルモノト比較致シマスレバ、
同ジ若クハ重クナルト云フコトハナイ
ノデアリマス、寧ロ四百圓ニ引上ゲマ
スル方ガ却ッテ今迄課稅ヲ受ケテ居ル
者ガ免稅サレル者ガ出來テ參ル結果ニ
ナッテ居ルノデアリマス、隨ッテ此計算
ヲ致シマシタ上ニ於キマシテモ、四百
圓ニ致シマシタ結果、稅額ガ幾分減少
スルト云フ風ニ政府ハ見テ居ルノデア
リマス

○大口委員 今ノデハ解ラナイノデア
リマス、今回免稅點ガ純益デ四百圓ニ
ナレバ、假ニ今マデ二千圓デアッタモノ
ノ中ニ免除サレル人ガ出來ルト政府ハ
見ルノデアアル、吾々ハ出來ナイト見ル
ガ、政府ノ言フヤウニ出來ルトシタ所
デ、免稅ニナッタ人ハ地方稅ヲ負擔スル、
ソコデ四百圓ト云フ最低ノ人ハ千分ノ
二十八課セラル、カラ、十一圓二十錢
掛カル、所ガ今迄ノ最低ノ人ハ六圓デ
濟ム、サウスルト非常ナ違ヒヲ生ズル、
倍額ニ近キ增稅ニナルコトニナルガ、
是ハドウ云フ譯カ、甚ダ重クナルデヤ
ナイカト云フノデアリマス

○黒田政府委員 一寸終ノ所ヲ實ハ十
分拜聽致サナカッタノデ、答辯ガ御趣意
ニ副ハナイカモ知レマセヌガ、四百圓
以下ノモノヲ免稅致シマス申シマス
ノハ、勿論御尋ノ通り國稅營業稅ハ課
セナイノデアリマシテ、ソレニ對シマ
シテハ地方稅ガ營業者ニ掛カルコトハ
申ス迄モナイノデアリマスガ、併ナガ
ラ地方稅ヲ課シマス上ニ於テハ、矢張
國稅ト權衡ヲ取ッテ參リマシテ、國稅以
上ニ負擔ヲサセルト云フコトハナイコ
トト考ヘテ居ルノデアリマス、自然國
稅ヨリモ多クナリマス云フト、此前
モ御質問ガアリマシタヤウニ、地方稅
カラ殊更ニ國稅ニ移ルコトモ生ジテ參
ルノデアリマス、サウ云フ事ノナイヤ
ウニ地方稅ニ於テ勿論國稅ニ準ジテソ
レヨリ幾分輕ク——勿論地方稅ノ課稅
ガ國稅ノ標準トハ違フ場合ガアリマス
ガ、併シ大體ニ於テ其負擔ハ國稅ニ比
較スレバ段々輕クナルコトニナッテ居

ルノデアリマス
○大口委員 私ノ質問トハマルデ違ヒ
マス、私ノ質問ハ簡單ニ言ヘバ現行法
ノ營業稅ノ一等級イ人ハ二千圓デア
ル、此人ハ千分ノ三ノ課稅デ六圓ノ國
稅デ濟ンデ居ルガ、新法ニ依ル純益四
百圓ト云フ免稅點ノ人ハ千分ノ二十八
デ、十一圓二十錢課稅ヲ受ケル、最低度
ノ人ガ今迄ノ倍ノ稅ヲ負擔スルヤウニ
ナルノハ非常ニ重イト思ヒマスガ、ド
ウデスカ、ソレニ理由ガアリマスカト
云フ問デアリマス

○黒田政府委員 私ノ御答シタノガ御
趣意ニ副ハナカッタヤウデアリマス、二
千圓ノ賣上ノモノガ只今千分ノ三ヲ御
取リニナリマス云フトサウ云フ風ニ
ナルノデアリマスガ、併ナガラ是ハ營
業稅ノ課稅標準ヲ根本的ニ改正ヲ致シ
タノデアリマスカラ、自然ニ各業體ニ
依リマシテ多少變更ヲ來スコトハ免レ
ナイノデアリマス、隨テ販賣業ノ中ニ
於キマシテモ、或ル業體ニ於テハ多少
今度ノ課稅標準變更ノ結果幾分増スモ
ノモ出來テ參リマス、併ナガラ全體カ
ラ申シマスト減ッテ參ルノデアリマス、
從業所ノ關係モアリマスシ、又純益ノ
歩合ノ關係ニ依テ非常ニ違フノデアリ
マス、一割儲カリマスモノト、一割五分
イ所ノ五分若クハ三分ト云フ風ナモノ
ニ付キマシテハ、純益ニシマス際ニ於
テ非常ニ違フノデアリマスカラ、單純

ニ二千圓ニ割ノ所得ノアルモノトシテノ御比較ニナリマス云フト、或ハサウ云フ結果ヲ生ズル場合ガアルノデアリマス、併ナガラ全體ヲ通ジマシテハ政府ガ計算シテ居ルヤウナ茲ニ減税ニナル——デアリマスカラ、隨テ大正十五年度ニ於キマシテモ、現行法ニ於テ算出シタモノカラシテ百分ノ八ヲ引クト云フコトハ、即チ其點カラ見テ居ルノデアリマス、業體ニ依テ多少ノ違ガアルコトハ是ハ勿論御尋ノ通りデアリマス

○大口委員 ソコガ大分マダ私ノ質問ノ要點ニ當ッテ居ラスノデス、私ハ是ハ物品販賣業デ言フノデス、物品販賣業者ハ最も多數デアアル、營業者ノ中デ多數ノ者ハ物品販賣業者デアアル、ソレノ一等現行法デ低イ所ノ人ハ六圓デ濟ンデ居ル、所ガ新法ノ一等低イ人ハ十一圓二十錢ニナルカラ非常ニ上ルト云フノデアリマス、其高イト云フコトヲ認メルカ、ドウカト云フノデアリマス、所ガ四百圓ハ純益デ、又二千圓ハ賣上デアアルカラ、其比較對照上カラ見テ高クナラヌト云フコトデアルト、現行法ノ二千圓ト云フ免稅點ヲ四千圓ニシテ、始メテ四百圓ノ收益ト匹敵スルコトニナルト、一割ノ利益ヲ見ル譯デアリマスカ、ソシテ道理ハ無イト思ヒマス、要スルニ現行法ノ一等下ト改正法ノ一等下トデハ、改正法ハ物品販賣業者ニ對シテ倍ノ稅ヲ取ルノハ明カナコトデ、

此高クナルコトヲ認メルカト云フノデアリマス

○黒田政府委員 私モ物品販賣業ニ付テ御答ヲ申シマシタガ、物品販賣業ノ中デモ、所得ノ歩合ガ違フト思ヒマス、ソレ故ニ先日三土サンデアッタカ御質問ガアリマシタガ、物品販賣業ノ中デモコレ——ハ上リコレ——ハ下ルト云フコトガアッタヤウデアリマス、物品販賣業ノ業體ニ依テ所得歩合ノ少イモノガアリマスノデ、一割ドコロデハナクモット少イモノモアリ、隨テ又一割ヨリ多イモノモアリマスカラ、物品販賣業ノ種類ニ付テハ勿論上ルモノ、アルコトハ事實デアリマス、併ナガラ或物ニ付テハ五千圓ノ賣上、或ハ四千圓ノ賣上ト云フコトニナッテ、却テ現在ヨリ負擔ノ輕イモノモアルカラ、全體ヲ通ジテ輕クナルト云フコトヲ申シタノデアリマス

○大口委員 今ノハ全ク要領ヲ得マセヌケレドモ、押問答ヲスルコトニナルカラ止メマスガ、此位要領ヲ得ヌ答辯ハナイト思ヒマスカラ私ハ是ハ中止致シマス、次ニ間接稅全體ニ涉ッテ聽キタイト思ヒマス、酒ト煙草ノ問題デアリマスガ、煙草ニ付テハ同僚ノ方カラ質問ガアルト思ヒマスガ、酒ニ付テノ政府ノ根本方針ガ承ッテ置キタイト思ヒマス、酒ハ嗜好品デアッテ、生活上直接必要ハ無イカラ之ヲ飲マヌデモ人間ハ活キテ居レルモノデアルト云フマデノ

御明言ガアッタノデアリマスカ、然ラバ今ノ政府ノ方針トシテ、酒ハ衛生上善クナイカラ成ベク飲ムコトヲ減ラスヤウニスルト云フ、社會政策ト言ヒマスカ、サウ云フ政策ヲ執ッテ居ラル、カ、或ハ酒ハ善クナイモノデアアルガ廢メラレヌカラ相當ニ之ヲ用ユルコトヲ認メルト云フコトカラ來テ居ルカ、ドチラニ方針ガアルヤト云フコトヲ御聽キシタイ

○濱口國務大臣 御答致シマス、酒ハ有害品デアアルカラ、不必要品デアルト云フ故ヲ以テ其使用ヲ止メサセル方針デアアルカ、或ハ又サウ云フ有害ナモノデアアルケレドモ嗜好品デアアルカラ仕方ナシニ用ヒサシテ置クト云フ方針デアアルカト云フコトデアリマスカ、此度ノ稅制整理ニ於テハ、左様ナルコトハ考ヘマセヌ、有害デアアルカラ使用ヲ止メサスト云フコトハ、少シモ考テ居リマセヌ、又有害デアアルケレドモ、用ヒテ居ルカラ仕方ガナイト云フコトモ考ヘテ居リマセヌ、唯國民ガ嗜好品トシテ習慣上之レダケノ消費ヲ致シテ居ルト云フ事實ハ認メマス、其事實ヲ認メタ上デ、ソレニ對シテ是ダケノ率ヲ増加スレバ是ダケノ增收ガアルト計算ヲ立テテ此度ノ稅制整理ニ於テ計上シタヤウナ次第デアリマス

○大口委員 サウ云フ意味デハアリマセヌ、今度增稅ヲスルニ當ッテ、酒ヲ飲セルカ禁ズルカト云フコトデアッテ、稅

ヲドウスルカト云フコトデハナイ、凡ソ政府ハ國民ニ向ッテ社會政策ヲ用ユル上ニ於テ、平素酒トカ煙草トカ云フヤウナ、一般國民ノ用ヒル嗜好品ニ對シテハ相當ノ政策ガ無ケレバナラヌト思フ、今日亞米利加デハ禁酒法ヲ行ッテ居ル、日本ハドウ云フ風ニ考ヘテ居ルカ、此酒ニ對シテ政府ニ矛盾ガアルヤウニ思ヒマス、內務省ノ方デハ酒ハ性質ヲ良クシナケレバナラヌ、又餘リ餘計ニ飲ンデハイカヌト云フコトヲ衛生ノ方カラ言ウテ居ルガ、一方稅ヲ取ル方カラ云フト、稅ヲ餘計取ルヤウニ組立ラヌルト云フコトデアリマスカ、政府ハ國民多數ノ用ユル嗜好品タル酒ニ對シテ、保健衛生上、又國民ノ元氣ヲ保ツ上ニ於テ、ドウ云フ政策ヲ執ッテ居ルト云フコトガナケレバナラヌ、ソレガアッテ初メテ稅ノコトヲ考ヘナケレバナラヌ唯漫然政府ハ國家ヲ率ベテ居ッテ、是ダケ國民ノ飲ム酒ヲ、何デモ構ハヌト云フヤウナコトデ之ヲ見テ居ル譯ノモノデハナイト思フ、殊ニ重稅ヲ課スル上ニ於テ政府ニ一定ノ政策ガ無ケレバナラヌ、其政策ノ如何ヲ言フノデアリマス

○濱口國務大臣 酒ニ對スル政策ノ御質問デアリマスカ、政府ト致シマシテハ只今申シマシタ通り、國民ガ之ヲ消費シテ居ルト云フ事實ヲ認メテ、之ニ向ッテ稅ヲ取ル、但シ此酒ガ有害ナモノデアレバ無論相當衛生保健上設備ヲス

ルノデアリマスガ、然ラザル限リニ於テハ、其事實ヲ認メルト云フコト以上ニ申上ゲルコトハアリマセヌ

○大口委員 政府ハ日本人ノ大多數ノ用テ居ル酒ニ對シテ一向政策ヲ持ッテ居ラヌ、唯漫然ト成行ヲ見テ居ルト云フノデアッテ、之ニ對スル政策無シト云フノデアリマスガ

○濱口國務大臣 酒ニ對スル政策ト云フコトハ私ニハ分リマセヌ、酒ヲ飲ンデ居ルト云フノガ事實デアリマス、ソレニ向ッテ稅ヲ取ルト云フコトデアリマス

○大口委員 御分リニナラナケレバモウ一應説明致シマス、酒ヲ飲ムト云フコトハ保健上宜シクナイト云フコトデアルナラバ、政府ハ成ベク酒ヲ飲マセナイヤウニ之ヲ導カナケレバナラヌ、又酒ヲ飲マセルノガ國民ノ保健衛生上宜イト思ヘバ、成タケ酒ヲ飲マセルヤウニ衛生ノ方針ヲ樹テナケレバナラヌ之ヲ加味シテコノ社會政策ヲ加味シタト云フコトガ出來ルト思フ、之ニ對スル政府ニ一定ノ所見ガナケレバナラヌト思ヒマス

○濱口國務大臣 是ハ初メニ御答シタ通りデアリマス、酒ヲ飲マセヌヤウナコトモ考ヘテ居リマセヌ、又飲マセルヤウニモ考ヘテ居リマセヌ、唯現在國民ノ消費シテ居ル事實ヲ認メテ居リマシテ、衛生上有害ト認メル點ハ保健衛生上相當取締ヲシテ居ルト思ヒマス

○大口委員 是ハ一口ニ言ヘバ政府ハ酒ニ對スル政策無シト私ハ考ヘザルヲ得ヌ、茲ニ矛盾ヲシテ居ルノハ、酒ヲ多ク用ヒルコトハ國民ノ衛生上宜シクナイ、併シ或ル程度マデ使フ必要ガアル、ソレデアルカラ成ベク酒ヲ適當ニ用ヒルヤウニシナケレバナラヌト云フ所ニ政策ガ行ハレテ居ルノデアアル、所ガ稅ノ方カラ云フト成タケ飲マセルヤウニ仕込ム、飲マナケレバ稅ガ取レナイノデアアル、現ニ去ル二十七日ニ土屋清三郎君ノ質問ニ對シテ濱口大藏大臣ハドウ答辯サレタカト云フト、清涼飲料水ニ高イ稅ヲ課スルト云フコトハ、麥酒ノ賣行ヲ保護スル爲メト云フヤウナ事デアリマシタガ、吾ミカラ言ヘバ清涼飲料ト云フモノハ寧ロ國民ノ保健衛生上宜シクアッテモ害ハナイト思ッテ居ル、成ベク「アルコール」分ノ少イヤウナモノヲ飲マセルヤウニ導クナラバ、清涼飲料水ノヤウナモノモ比較的多ク用ヒルヤウナ政策ヲ執ルベキデアアル、サウ云フ風ニ内務省アタリハ取締ルベキデアラウト思フ、内務省ノ衛生ノ方ノ關係法規ハ總テサウ云フ方針ヲ以テ國民ヲ指導セントスル傾向ガアル、所ガ大藏大臣ノ方ハ——稅ヲ取ル方カラ云ヘバ成タケ餘計飲マセルト云フ方針ヲ執ルカラ政府ノ方針ニ非常ニ矛盾ガアル、大藏大臣ハ成ベク國民ニ麥酒ヲ飲マセルト云フ所ノ方針デアアルノカ、ドウ云フ點カラ清涼飲料水ニ稅ヲ課ケ

麥酒ヲ保護スルト云フノデアアルカ、是ハドウシテモ私ニハ了解ガ出來マセヌ

○濱口國務大臣 清涼飲料稅ヲ新ニ設ケマシタ理由ハ、私ノ稅制案ノ説明ニ於テモ申上ゲテ置キマシタ通り、第一ニ、財源ヲ得ル爲メ、第二ニハ麥酒ノ稅源ヲ涵養スル爲メト申シタノデアリマス、財源ヲ得ル爲メト云フノハ改メテ説明ヲ要シマセヌガ、麥酒ノ稅源ヲ擁護スルト申シタコトニ付テ、ソレニ關シテノ御質問ガアリマス、政府ノ考ハ進ンデ積極的ニ麥酒ヲ多ク飲マセルト云フ政策ハ少シモ執ッテ居リマセヌ、唯此場合麥酒ノ稅ヲ四割増シタノデ、特ニ麥酒ノ消費ガ減ルト云フ爲ニ此清涼飲料稅ヲ課シタノデアリマス、清涼飲料水ノ課稅ハ前ニモ申シマシタ通り稅制整理ニ依テ生ズル歳入ノ缺陷ノ一部ヲ補填スル爲ニヤッタノモ一ツノ理由デアリマス

○大口委員 是ハ私非常ニ疑問ガアルノデアリマスガ其位ニシテ、次ニ家屋稅ノ問題ヲ一ツ質問致シタイト思ヒマス、此頃ドナタカノ御質問モアリマシタガ、家屋稅ト云フモノヲ地方ニ課スルノハ、村落部ニ對シテハ非常ニ困難デハナイカト云フコトヲ述ベラレタ時ニ、政府委員ノ答ニ依ルト、自分モ村落ニ生レタ者デアルガ、此家屋稅ト云フモノハ富者ハ大キイ家ニ居ル、貧者ハ小サイ家ニ居ルカラ工合ヨク行ケルデアラウト云フ御答辯ガアッタヤウニ思フ

ガ、現在ノ日本ノ狀態ハドウデアルカト云フト、吾ミ考ヘテ見マスルト、市町村長ト云フヤウナ人ハ、今ノ戶數割ヲ賦課スルコトハ面倒デアアル、面倒デアラカラ困難ヲ感じテ居ル、ソレ故出來ルナラバ家屋稅ヲ課ケタイト云フコトヲ——家屋稅ニ代ヘタイト云フコトヲ今モ思ッテ居ル、所ガ之ガ行ハレヌ所以ハドウデアアルカト云フト、家屋稅ト云フモノノ賃貸價格ナリ或ハソレニ對スル課稅標準ヲ得ルニ非常ニ困難ヲ感ズル爲ニ之ガ行ハレテ居ナイ、日本全國デ市ガ百程モアッテ、家屋稅ノ行ハレテ居ル所ハ四分ノ一デ僅ニ二十六市デアアル、他ハドウシテ行ハレヌノデアアルカト云フト、大體ニ於テ貧富ノ間ノ懸隔、之ヲ調査スルニ家屋稅ト云フモノハ非常ニ困難デアルト云フ事實ニ遭遇シテ居ル爲メデアラウト思フ、府縣ハドウデアルカト云フト、大キイ町村デアルトカ云フ所ノ一部ニミ此家屋稅ガ行ハレテ居ル、何故之ガ行ハレナイカト、云フト標準ヲ作ル所ノ源ノ調査ガ困難デアルト云フコトカラ來テ居ルト思フ、ソレ故ニ吾ミハ此府縣ノ戶數割ト云フモノヲ全廢スル結果トシテ、其補填トシテ府縣ニ家屋稅ノ極メテ小サイ程度ノモノヲ設ケルト云フナラバ大ナル苦痛ヲ感ゼズニ濟ムカモ知レヌノデアアルガ、之ヲ三千萬圓ト云フ多額ナルモノヲ府縣ニ課ケ、更ニ市町村ヘ持ッテ來テ三千萬圓ノ附加稅ヲ賦課スルコトニナ

ルト、合計六千萬圓ノ家屋稅ニナルノデアツテ、其結果ノ及ブ所ハ非常ニ是ハ困難ナモノニナルト私ハ考ヘル、殊ニ之ガ山間僻地ヘ參リマス、農民ノ間ニ非常ニ困難ヲ生ズル、農民ハドウデアカト云フト、言フマデモナク富豪ハ比較的大キイ家ニ居ルニ違ヒナイガ、貧者デアツテモ農業ヲ營ンデ居レバ物置モアリ、牛小屋モアルト云フ風デ、比較的家屋ヲ廣ク造ツテ居ルカラ、大キイ家屋モ其割合ニ大ナル賃貸價格トハ見ラレヌト云フコトニナツテ居ル、ソレヲ委員ヲ舉ゲテ貧富ノ度ニ依テ其家ノ賃貸價格ヲ査定スルト云フコトニナレバ、取りモ直サズ財產稅ヲ課スル道理ニナル、又見立割モ同ジコトデ、斯ウ云フ點ハ餘程困難ヲ感ズルモノト思ヒマスガ、其邊政府ノ今日見テ居ル所ハ如何様デアカト云フコトヲ先ヅ私ハ承リタイ、次ニ今日マデノ經驗ニ依ルト家屋稅ヲ布イテ一番多ク壓迫ヲ受ケルノハ中産階級デアリマス、是ハ面白イ數字ヲ示シテ居ル、今日マデノ經驗デハ比較的中産階級ガ家屋稅ノ爲ニ壓迫ヲ受ケル、是ハ今マデノ事實デアリマス、之ヲ政府ハドウ見ルカ之ヲ承リタイ

ノデアリマス、併ナガラ前日モ申上ゲマシタヤウニ、今回家屋稅ヲ施行スルニ付テハ相當地方ノ事情ニ通曉致シマシタ各方面カラ委員ヲ出シテ、其委員ノ間ニ比較權衡ヲ取ツテ賃貸價格ヲ定メルナラバ大體ニ於テ施行困難デナイ、而モ即刻此法律ヲ施行致シマスト尙ホ困難ガ伴ヒマスカラ、數年ノ間ハ他ノ方法ヲ變態トシテ許ス、其間ニ正確ナル賃貸價格ヲ設ケテ大正十九年度カラ之ヲ實施シタイ、ソレダケノ餘裕ヲ以テマシテヤツテ行クナラバ大ナル困難ハナイト思ッテ居リマス、農村ニ於テハ假ニ調査ガ出來テモ、或部分ニ於テハ貧富ノ現狀ニ正比例シテ居ラヌト云フヤウナ御尋モゴザイマシタガ、是ハ先日赤間サンノ御尋ノ時ニモ申述ベタ通り、或ハサウ云フモノモアラウト存ジマス、例ヘバ古イ庄屋デアルトカ其他ノ舊家等ニ於テハ、今日現ニ住ツテ居ル所ガ、必シモ其家ノ貧富ニ比例シテ居ルト云フコトハ申上ゲ兼マス、併ナガラ其點ハ申サバ例外ノ場合デアリマシテ、大體地方ニ於テハ矢張其人ノ懷トノ關係デ家屋ノ賃貸價格、大小、良否ト云フモノガ略決スルモノト思ヒマスカラ、大ナル支障ハアルマイト考ヘルノデアリマス、ソレカラ又固ヨリ御意見ノ通り此人ハ貧者デアアル、此人ハ富者デアアルカラト云ツテ家屋ノ賃貸價格ヲ人ニ依テ差別ヲスルコトハ出來ヌカモ知レマセヌケレドモ、家屋稅

ノ方ニ於キマシテハ、極ク細民等ノ這入リマス家屋ニ付テハ、一定額以下ノ賃貸價格ト云フモノハ賦課免除ヲ致ス規定モ設ケテアリマスノデ、又サウデナクシテ一旦賦課致シマシテモ、眞ニ困ルト云フ事情ガゴイマスレバ、地方制度ノ方デ特別ノ事情ガアルモノトシテ減免ヲ爲シ得ル規定モアリマスノデ、ソレ等ノ法規ノ運用、又實際ノ調査委員ノ善用ニ依リマシテ、大體家屋稅ヲ施行スルト云フコトハ不都合ハアルマイト考ヘテ居リマス、ソレカラ中産階級ヲ壓迫スルト云フ御話デアリマスルガ、是モ素ヨリ十分ニ考慮致サナケレバナラヌ問題デアリマスガ、一方ニ中産階級及ソレ以下ノ貧シキ生活ヲ致シテ居リマスル分ニ付キマシテハ、今日殆ド細民ト申シテ宜シイ者ニマデ一方ニハ府縣稅ノ戶數割ガ課セラレテ、新ニ家屋稅ヲ設ケラレマスケレドモ、矢張戶數割ト云フモノハ府縣ニ於テハ無クナツテモ市町村ニ全然讓ラレルノデ、一方ニ殘ルノデ、ソレ等ノ負擔モ考ヘナケレバナリマセヌガ、家屋稅ガ新設サレマシテ、ソレガ爲ニ中流以下ノ者ガ特ニ負擔ヲ増加セラレルデアラウトモ認メラレマセヌ

○大口委員 先ヅ私ノ考ヘマス所ニ依ルト、此農村ト云フヤウナモノハ先刻モ申ス通り例外デハナイノデアツテ、大概ノ家ガサウナツテ居ルト思フ、貧富ニ依テ綺麗ナ家ニ住ンデ居ルト見苦シイ家ニ這入ツテ居ルトノ差ハアルガ、割合ニ小サイ家ニ居マセヌ、坪數其他ニ於テサウ十坪モ二十坪モ違フ筈ハナイ、是ハ農村ノ狀態ヲ見レバ明瞭デアル、其所ヘ委員ヲ以テ之ヲ調べサセルコトニナルト、坪數ヤ其見タル所ノ外形ニ依テ調べルト云フコトニナレバ、ソレ等ノ貧富ノ間ノ差ガ少クナルノハ當然デアアルカラシテ、見立ヲ加味シテ行カナケレバ是ハ治リガ着カヌコトニナル、政府委員ノ御答ノヤウニ委員ヲ舉ゲテ調べサシテ適當ニ行ケルト云フコトニナリマス、サウ云フ事實ガ起ル、現在ノ家屋稅ガ戶數割ノヤウニナツテ居リマス、今回ノ家屋稅モ矢張事實ハ戶數割ト同ジ結果ヲ見ル、サウナルト戶數割ヲ一方ニ廢シテ家屋稅ヲ起シテ見タ所ガ、サウ云フ結果ヲ私ハ見ハシナイカト云フコトガ一ツノ疑問デアル、疑問デヤナイ私ハサウ信ズル、ガ政府ハ如何様デアアルカ、尙ホ私ハ進ンデ申シタイノハ、市制地ノ如キデモ此家屋稅ガ今日行ハレヌ所ハ先刻申シタ通りノ結果デアアルガ、若モサウ云フ所ニ強ヒテ家屋稅ヲ行ヘバ、却テ此細民ヲ小サイ家、借家ヲ借リテ居ル人ニ家賃ヲ上ゲシムル所ノ口實ガ明ニ付イテ、家賃ニ影響スルコトハ明瞭デアルト思フガ、政府ハ之ヲ何ト考ヘラレルカト云フ、先ヅ此二ツノ點ヲ伺ツテ見タイト思ヒマス

○潮政府委員 第一ノ御尋ハ結局戸數割ヲ廢シテ家屋稅ヲ設ケルト云フコトガ、見立等ノ方法ガ其所ヘ這入ッテ來テ、事實ハ戸數割ヲ殘シタト同ジ家屋稅ニナルデハナイカト云フヤウナ御尋デアルト存ジマスルガ、私共左様考ヘマセヌ、御承知ノ通り戸數割ニ付キマシテハ、所得トカ人家ノ坪數トカ、其他見込ヲ用ヒマシテ相當ニ決定シマスガ、家屋稅ノ性質トシマシテハ左様ナ單純ナル見立ヲ許スベキ筋ノモノデハナイト思ヒマス、先程申シマシタノハ眞ニ貧困デ困ル人ニハ地方制度ノ規定ヲ適用シテ減免ヲ致シ得ル場合モアリマス

ル、或ハ又極ク貧民デアッタラバ、一定額以下ノ家屋ハ賦課免除ヲスルト云フコトモアリマス、戸數割ノ付イテ居リマスルヤウナ新謂上級ノ身上、サウ云フ見立ト云フモノハ家屋稅ニ於テハ爲サセナイ趣意デアリマス、ソレカラ市制地ノ制度ニ於テモ隨分困難ナ事情ガアル、家屋稅施行地ニ現在モナリ兼テ居ル、サウ云フコトハ結局ガ家賃ノ値上ニナルカラデヤナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスケレドモ、之ニ付キマシテモ戸數割ノ施行地、及家屋稅施行地トノ現狀カラ色々數字ニ打算ヲ致シテ見マシテモ、一方ニ於ケル戸數割ノ計算等ニ依リマシテ、假ニ家屋稅ガ設ケラレマシテ、理論トシテハ或ハ家屋稅ト云フモノハ借家人ニ轉稼スベキモノデナイト云フ議論モ立ツカモ知レ

マセヌケレドモ、私ハ其所マデ極端ニハ考ヘテ居リマセヌ、實際ニ於キマシテハ仰セノ通り家賃ト云フモノニ或ハ轉稼ヲサセルデアラウケレドモ、其一部分ノ轉稼ヲサセルガ如キコトガ假ニアリマシテモ、ソレハ戸數割其他ノ減免ニ依リマシテ負擔ノ輕減ヲサレテ居ルノデアリマスカラ、是ハ決シテ中産以下ノ者ニ向ッテ負擔ヲ過重スルト云フ趣旨ニハナルマイト思ヒマス

○大口委員 只今ノ御方針デアレバ、是ハドウシテモ大多數ノ農村ハ非常ニ困ルコトニナリマス、必ズ富者ガ割合ニ利益ヲシテ、中産階級並ニ低イ人、殊ニ中産階級ガ大ナル負擔ヲセネバナラナイコトニナルコトハ、今マデノ全國ニ行ッタ家屋稅ノ實例ニ徴シテ私ハ明瞭デアルト思ヒマスガ、所見ガ異ナルナラバ追テ論ズル場合ニ論ズルコトニシテモ、進ンデ茲ニ承リタイノハ、今度ノ地方稅ノ改正ノ遣方デ行クト、或ハ府縣稅ノ方デハ稍調和ガ取レテ行クカモ知レナイケレドモガ、市町村ハ非常ナ窮地ニ陥ルト云フコトヲ私ハ確信シテ居ル、何故ト言ヘバ、今マデ取ッテ居ッタ所ノ所得稅附加稅ト云フモノヲ一切府縣ニ取上ゲラレテシマフ、是ガ約一千八百萬圓、殊ニ是ハ市制地ガ最も多ク課ッテ居ル譯デアルカラ、市制地ノ九ニ對シテ町村ハ八位ノ割合デアッタト私ハ記憶スル、ソレデアルカラ市制地

ノ方ガ多ク府縣ニ對シテ稅源ヲ提供スル譯ニナルカラ、隨テ町村ト雖モ此所得稅附加稅ヲ取ラレテシマフト云フコトニナレハ、割合ニ取易イ所ノ稅源ヲ府縣ニ取ラレルノデアルカラ、市町村ハ是ハ一ツノ大打撃デアリマス、其所ヘ持ッテ行ッテ之ニ代ッテドウ云フモノヲ課ケラレルカト云フト、今御話ノ家屋稅ノ附加稅ヲ以テ之ヲ埋メヤウ、斯ウ云フコトニナッテ來ルノデアルカラシテ、是ハ非常ナ迷惑ヲ市町村ハ感ズル、サウシテ一面ニハ今マデト同ジヤウニ市町村ニハ戸數割ガ殘ル、吾々ハ市町村ニ多少戸數割ノ殘ルコトハ敢テ異議ハナイ、府縣ニ戸數割ガアルト云フコトハ之ヲ廢止シタイト云フ考ヲ有シテ居ルノデアリマス、併シ多額ノ家屋稅ト換ヘルト云コトナラバ選ブ所ガナイ位ニ吾々ハ思ッテ居ル、ケレドモガ、此市町村ニアッテハドウスルカト云ヘバ、戸數割ト云フモノガ今マデ通り殆ド殘ル、サウシテ其上ニ新ニ家屋稅ト云フモノノ附加稅ヲ課ケテ行カクテハナラヌ、此苦痛ト云フモノハ市町村ハ恰モ戸數割ガ増額サレタト選ブ所ハナイ、結果ヲ私ハ來スト確信スルノデアリマス、市町村ハ良イ財源ヲ失ッテ、惡イ財源ト換ヘラレ、恰モ府縣ニ於テ戸數割ガ無クナル結果、市町村ニ於テ戸數割ヲ増徴サレルト同ジ結果ヲ見ルコトハ私ハ明瞭デアルト思フ、議論ハ致サナイガ、是ダケ言ヘバ日本全國ノ國民ハ

直ニ私ノ言フ通り感ズルコトト私ハ思ヒマス、是ハ實際市町村ノ稅務ニ當ッタ人ナラ明瞭ニ分ルコトト思フ、ソレデ愈金ガ足ラナイ場合ニハドウデアアルカ、斯ウ云フコトニナルト、此頃モ御話ガアッタ通り義務教育費國庫負擔金ノ中カラ之ヲ補ヘル其市町村ノ金ヲ計算シテ見ルト、五百萬圓デアルカ七百萬圓デアアルカ、其處ニ一旦穴ヲ生ジテ居ル、今此表ヲ見レバ直グ分リマスガ、政府デ寄越サレタ此表ガサウデアアル、其缺陷ヲ何デ補フカト云フ質問ニ對シテ教育費國庫負擔金ヲ増額スルカラソレデ補ッタ宜イト云フ御答辯デアアル、一體教育費國庫負擔金ヲ國民ガ國家ニ要求スル所以ハ何デアアルカ、一面ニ國民教育ト云フモノガ市町村ニ金ガナイ結果完全ニ行カナイ、之ヲ完全ニシタイト云フノガ一ツ、假令完全ニ行ケル市町村デアッテモ、教育費ニ金ヲ要スル結果一面市町村デ當ニナサナケレバナラヌ仕事ニ支障ヲ來シテ居ルカラ、此支障ヲ取除キタイト云フ意味ヲ以テ之ヲ要求シテ居ル、併シ其増額スル所ノ金モ、稅制整理ニ依テ一方ニ明イタ穴ノ跡ヲ埋メナケレバナラヌ、其穴ハ市町村ガ埋メナケレバナラヌ、市町村ガソレヲ埋メレバ詰リ一方ニ與ヘラレテ一方デ取ラレルト同ジデ、二千萬圓ノ國庫負擔金ガ殖エタノハ名前ダケデ、事實ニ於テハ千三百萬圓カラ千四百萬圓ノ負擔金ヲ仰付カッタ結果ニナッテ居

ル、是位不條理ナコトハナイト思フガ、之ニ對シテ政府ノ辯明ヲ承リタイト思ヒマス

○潮政府委員 市町村ノ例ニ付キマシテ御質問ガアリマシタ、是ハ唯戸數割、家屋稅ノ問題ダケデハ御説明申上ゲ兼ルノデアリマス、私共ガ立テマシタ案ハ、先ヅ第一ニ府縣ノ戸數割ハ廢シマスシ、亦一方ニ於テ府縣ノ所得稅ハ率ヲ低クスル、ソレ等ノ關係カラ市町村ノ所得稅附加稅ハ之ヲ府縣ニ委讓スルコトガ主體ノ問題ニナツテ居リマス、ソレニ代ヘル爲ニハ一面府縣戸數割ヲ廢シテ市町村ニハ存シテ置クト云フコトニナツテ居ル、又所得稅ヲ都市カラ取上ゲルト云フコトノ論モアリマスガ、都市ハ成程所得稅ノ稅源ガ豊富デアルカラ之ヲ取上ゲルガ、農村ヨリ所得稅附加稅ヲ取上ゲルト云フコトハドウデアラウカ、ソレハ事ノ是非善惡ハ別トシテ今日ノ我國ノ都市ト農村デ云ヘバ、都市ニ所得稅ノ稅源ノ多イコトハ事實デア、若シ所得稅附加稅ノ委讓ヲ否認スレバ兎ニ角、所得稅附加稅ノ委讓ヲスルト云フナラバ、自然都市ノ多イ所カラ取上ゲルコトハ已ムヲ得ナイコトデハナイカ、其代リニハ家屋稅附加稅モ賦課出來マスカラ、決シテ是ガ爲ニ都市ノ財政ヲ壓迫スルモノデハアルマイト思フ、又農村ニ於テハ必シモ戸數割ガアルノニ更ニ家屋稅附加稅ヲ増徴スルト云フ風ニモ考ヘテ居リマセヌ、

大體此整理案ハ從來ノ標準ヲ基礎トシテ其範圍ニ於テ計算致シテ居リマスカラ、此意味ニ於テモ農村ハ相當困難ヲ感ジテ居ナイト考ヘマス、教育費國庫負擔金ノ問題ハ是ハ頗ル重大デアリマスカラ、一應私カラ御答ハ致シマスガ、或ハ間違ッテ居リマシタラ大藏大臣ナリ其他カラ是正ヲ願ヒマス、又不足ノ所ガアレバ大臣カラ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス、教育費國庫負擔金ガ初メテ設ケラレタ際ニハ、又先年三千萬圓ニ増額サレタ際ニモ、歷代ノ内閣ハ之ヲ以テ一面ニハ普通教育ノ改善ニ充テ、一面ニハ地方負擔ノ輕減ニ充テルト云フ御趣意ノヤウデアリマシタ、當時ノ書類ヲ出シテ見マシテモ其通りデアリマシテ、矢張戸數割ノ如キモノハ成ベク輕減スルヤウニト云フコトガ書イテゴザイマス、其意味ニ於テ此度ノ教育費國庫負擔金ノ増加カラ因ッテ生ズル市町村財政ノ餘力ヲ何處ニ廻スカト云フコトニナリマスレバ、此稅制整理ニ依テ、戸數割ノ輕減ノ出來ルモノハスル、ソレカラ又之ニ依テ補ヒ得ルモノハ其方ニ充當シテモ、申スマデモナク從來ノ方針ヲ變更シタモノデハナイト思ッテ居リマス、唯國稅徵收交付金ト云フ、此交付金ノ減額ニ對シマシテハ、是モ消極ト申シタラ宜シイカト存ジマスガ、若シ此教育費ノ國庫負擔金ニ依テ生ズル餘力ヲ之ニ向ケルトスレバ、矢張積極的ニ負擔ガ増加シテ行キマス

ノデ、ソレデ二百三十萬圓ノ交付金ノ減額ハ教育費カラ因ッテ生ズル負擔ノ餘力ヲ充テル、其點ダケハ違ッテ居リマスガ、其他ニ於テハ前來ノ方針ト一ツモ變ッテ居リマセヌ、今ノ交付金ノ問題ニシテモ積極消極等ノ差ハゴザイマセウケレドモ、矢張市町村ニ於ケル負擔ヲ輕減スルコトニナルト思ヒマスカラ、左様ナ方針ヲ執ッテ居ルノデアリマス

地價デアッテ、爾來河川改修若クハ交通機關、或ハ耕地整理、港灣治水事業等ニ於テ實際問題トシテ大變ナ異動ヲ來シテ居ルノデアリマス、而巳ナラズ大都會ノ附近ノ土地ト云フモノハ、今日名稱ハ耕地デアルト雖モ、其實前途ノ地價暴騰ヲ見越シテ居ルモノデゴザイマシテ、是ハ實際ニ於テハ一坪何十圓ト云フ如キ狀態デアッテ、是ヲ所有シテ居ル人々ガ此免租ノ恩惠ニ浴スルト云フガ如キコトハ以テノ外ノコトデア、一而ニ於テハ社會政策ト云フコトニ重キヲ置イテ之ヲ立脚點トシテ斯ウ云フ法案ヲ立テラレマスノハ全ク意味ヲナサナイノデア、殊ニ社會政策ト言ハレ

テ市町村ニハ存シテ置クト云フコトニナツテ居ル、又所得稅ヲ都市カラ取上ゲルト云フコトノ論モアリマスガ、都市ハ成程所得稅ノ稅源ガ豊富デアルカラ之ヲ取上ゲルガ、農村ヨリ所得稅附加稅ヲ取上ゲルト云フコトハドウデアラウカ、ソレハ事ノ是非善惡ハ別トシテ今日ノ我國ノ都市ト農村デ云ヘバ、都市ニ所得稅ノ稅源ノ多イコトハ事實デア、若シ所得稅附加稅ノ委讓ヲ否認スレバ兎ニ角、所得稅附加稅ノ委讓ヲスルト云フナラバ、自然都市ノ多イ所カラ取上ゲルコトハ已ムヲ得ナイコトデハナイカ、其代リニハ家屋稅附加稅モ賦課出來マスカラ、決シテ是ガ爲ニ都市ノ財政ヲ壓迫スルモノデハアルマイト思フ、又農村ニ於テハ必シモ戸數割ガアルノニ更ニ家屋稅附加稅ヲ増徴スルト云フ風ニモ考ヘテ居リマセヌ、

○大口委員 私家屋稅ニ付テ議論ガアリマスガ、議論ハ避ケマシテ私ノ質問ハ是デ打切りマス

○三輪委員 私家地租案ノ地價二百圓以下、即チ第十三條ヲ追加サレル點ニ付テ先ヅ以テ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、政府ハ屢負擔ノ均衡ヲ計リ若クハ社會政策ヲ施スト云フコトヲ聲明サレテ居ルノデゴザイマスガ、此免稅點ヲ地價二百圓ト限ラレタルコトニ付テハ、此項中是ニ對シマシテ質疑モアリマスガ、全ク政府ガ斯ウ云フ法定地價ニ基カレタト云フノハ多少ノ不公平ト云フコトハ認メテ居ラレルヤウデハアルガ、實際問題トシテハ甚ダ失禮ナルコトヲ申サウデア、此不公平ノ程度ヲ少ク見テ居ラレル結果ガ茲ニモッタノデハアルマイカト思フノデアリマス、此地價ノ不公平ナルコトハ今日吾々ガ唱ヘルバカリデナクシテ當局モ能ク御承知デアリマセウ、殆ド五十年前以前ノ明治九年ノ時ニ定メラレタ法定

地價デアッテ、爾來河川改修若クハ交通機關、或ハ耕地整理、港灣治水事業等ニ於テ實際問題トシテ大變ナ異動ヲ來シテ居ルノデアリマス、而巳ナラズ大都會ノ附近ノ土地ト云フモノハ、今日名稱ハ耕地デアルト雖モ、其實前途ノ地價暴騰ヲ見越シテ居ルモノデゴザイマシテ、是ハ實際ニ於テハ一坪何十圓ト云フ如キ狀態デアッテ、是ヲ所有シテ居ル人々ガ此免租ノ恩惠ニ浴スルト云フガ如キコトハ以テノ外ノコトデア、一而ニ於テハ社會政策ト云フコトニ重キヲ置イテ之ヲ立脚點トシテ斯ウ云フ法案ヲ立テラレマスノハ全ク意味ヲナサナイノデア、殊ニ社會政策ト言ハレ

此處ニ各府縣ノ田畑ト云フモノノ其
一縣毎ニ平均ヲ取ツタ表ヲ御廻シマ
タガ、尙ホ政府ニ於テモ私共ノ調ベ
ガ違ッテ居ルカドウカ、政府ノ御手許ヘ
差出シマスカラ御調査ヲ願ヒタイモノ
デアル、今一ツ私ハ申上ゲタイノハ、一
昨日ノ大藏大臣ノ御話ニハ營業稅ニ對
シテハ勤勞モ加ハル爲ニ其收益ノ免稅
點ヲ四百圓ト定メタノデアル、土地ニ
對シテハ二百圓ト定メタノハ、法定地
價百圓ニ付テ其收益ハ約百圓ニ當ルガ
故ニ二百圓ト定メタモノデアル、營業
稅ノ免稅點ヨリ之ヲ半額ニシタノハ、
即チ財產稅デアル、資產稅デアルガ故
ニ半額ニシタモノデアルト、斯ウ云フ
御說明ニ承ツタノデゴザイマスガ、是亦
甚ダシイ政府當局ノ杜撰ナル調ベデア
ラウト思ヒマス、之ニ付テモ實ハ私ハ
今日ハ到底質問番ガ廻ラヌト思ッテ居
リマシテ地價ト收益ノ調査表ノ謄寫ガ
遅レマシダガ、今刷リツツアルデ大概
ハ二三十分ノ間ニ私ガ御尋シテ居ル間
ニ出來テ來ヤウト思ヒマスカラ、各委
員及政府ニ出サウト思ヒマスガ、今原
本ハ刷リニヤッテ居リマスカラアリマ
セヌガ、大體ニ於テ私ガ申上ゲテ見マ
スレバ、此地價ト今日ノ收益ト云フモ
ノトヲ對照シテ見マスレバ、田ニ於テ
地價ヨリモ收益ノ多イト云フ府縣ト云
フモノハ全國各府縣ヲ通ジマシテモ僅
ニ十縣ヨリナイノデアリマス、畑ニ付
キマシテモ地價ヨリモ收益ノ多イト云フ

モノハ十四縣ヨリナイ、一道三府四十
三縣ノ間ニ於キマシテ右ニ申述ベタ其
以外ノ府縣ハ地價ヨリモ收益ハ半額若
クハ六分、七分、八分ニ當ル、斯ウ云フ
モノデアリマシテ、地價ト收穫ト對照
シテ全國ヲ平均ヲ致シテ見タナラバ收
益ハ地價ノ七分以上ニハ決シテ當リマ
セヌ、之ヲ政府當局ハ地價百圓ニ付テ
百圓ノ收穫ガアル、斯ウ見ラレテ、尙ホ
其上ニ營業稅ニハ四百圓ヲ免稅點トセ
ラレ、農民ニ對シテハ其半額ト云フ立
案ヲサレタト云フモノハ餘リ偏頗デア
ルマイカト思フ、數字ノ違ヒヨリモ既
ニ根本ニ於テ半額ト立テラレタコトガ
甚ダ不公平デアルト思フノミナラズ、
實際トシテ斯ウ云フ數字ガ現レル以上
ハ、營業稅ノ免稅額ノ三分ノ一ニモ當
ラナイノデゴザイマス、今一ツ之ヲ具
體ニ申シテ見レバ、今申タ調ハ各府
縣ノ比例デアアル、實際之ヲ各町村若ク
ハ各郡ニマデ細ニ當ツタナラバ、全國中
田ニ七十圓若クハ六十圓以上ノ地價ヲ
法定サレタルモノガ澤山アル、之ニ
引替ヘテ田ニ十圓内外ノ地價ノ所モア
ル、畑モ同様デアッテ洵ニ不公平ニナ
テ居ル、此方モ大體ノ地價ノ各府縣別
ヲ茲ニ御參考ニ申シマスルガ、各府縣
毎ニ平均シタモノニ因ッテ申シテ見レ
バ、田租ニ於テハ一段歩當リノ地價ガ
五十圓以上トナル府縣ハ一府ヨリアリ
マセヌガ、五十圓以下四十圓以上ト云
フ府縣ハ十四府縣アリマス、四十圓以

下三十圓以上ノ府縣ガ二十一府縣ア
ル、三十圓以下二十圓以上ト云フ府縣
ハ九縣アル、二十圓以下ノ縣ハ二縣ア
リマス、畑ハ是ハ大體其地價ガ低イ爲
ニ私ハ五圓毎ニ區別シテ調ベテ見マシ
タガ、二十圓以上ノ府縣ト云フモノハ
僅ニ二府縣デアリマスルガ、十五圓以
上ト云フモノガ五縣アル、十圓以上ト
云フモノガ十六縣アリマス、五圓以上
ト云フモノガ十八縣アル、五圓以下ノ
モノガ六縣アル、是ハ大體ノ縣別デア
アル、今申ス如ク市町村ニ之ヲ區別ラシ
テ見マスルト非常ナ違ヒデアアル、此頃
中承ッテ居レバ隣村ノ關係等ヲ指摘シ
テ尋ネラレテモ是ハ特例デアルトカ何
トカ仰シヤイマスガ、事實ハサウデナ
イ、全ク是ハ不公平デアッテ、之ヲ言換
ヘテ見レバ此恩惠ニ浴スルコトノ出來
ナイモノハ即チ高イ地價ヲ法定サレテ
居ッタ農民デ五十年ノ間不公平ナ重キ
負擔ヲ蒙ッテ重稅ニ苦ンデ居タモノデ
アル、政府モ此不公平ヲ認メラレテ十
七年度ヨリ貸賃價格ニ改メルト云フコ
トヲ聲明サレタ以上ハ、現在ノ地價ノ
不公平ナルコトハ吾々ト同様ニ認メテ
居ラルデゴザイマセウ、此場合ニ於
テ其不公平ナル地價ヲ基礎トシテ茲ニ
免稅點ヲ設ケラレタト云フコトハ、多
年ノ間苦ンデ居ッタ者ガ尙ホ重ネテ又
今度其恩惠ヲ蒙ラズ、却テ輕イ負擔ノ
利益ヲ得テ居ッタ者ガ重ネテ多クノ段
別ノ負擔ヲ免ゼラルルト云フ結果ニナ

アルノデアリマス、是ハ實際問題デア
カラシテ私ハ全國中ノ地價ト貸賃價格
ト對照シタ調ベノ二通ヲ政府ニ差出シ
マスカラ、今直チニ此處ニ此點ニ付テ御
答辯ヲ求メルノデハナイガ、大體ノ趣
意ハサウ云フ譯デアッテ、都會ノ附近ノ
地所ト云フモノハ全ク高イ、ソレカラ
モウ一ツ私ハ申上ゲテ置クノハ、過日
來此政府案ニ依リマス居住村ノ所有
地地價二百圓ト云フコトニ付キマシ
テ、隣村デ持ッテ居ルト云フ點デ議論ガ
アリマシタガ、是ハ藏相ハ例外デヤト
仰シヤルガ、理窟ハ能ク分ツタ話デ、大
キイ村ナラバ大キイ村デ此周圍ト云フ
モノノ延長ハ長イ間デ、其隣村境ノ住
民ハドウシテモ矢張隣村ニ所有地ハ澤
山アリマス、小村ナレバ小村ナリニ隣
村ニ農業者ガ持ッノデアアル、是ハナカ
ナカ多イノデアリマス、實際問題デア
ルカラ社會政策及一面ニ於テ自作農獎
勵ヲ御考ヘ下サレルナラバ、ドウカ御
再考ヲ願ヒタイモノデアアル、私ハ質問
トシテハ今直ニ茲ニソレヲ善イ惡イト
云フコトノ御答辯ヲ得ヤウトハ思ハス
ノデアリマス、實際問題トシテ御取調
ニナレバ是ハ自ラ分ルコトデアルト思
フ

○元田委員長 貴方ハオキデアリマ
シタカドウカ存ジマセヌガ、昨日ノ政
府ノ御返答中ニ二箇年ノ經過法デアッ
テ、其後ニハ貸賃價格ニ依テヤルト言ッ
テ、政府ハ十分不公平ハ認メラレテ居

ルヤウニ私ハ聽イタ譯デスガ

○三輪委員 御尤デス、併シ二箇年ノ間ト雖モ、十七年迄是ヲ俟タズニ、政府ガ免租案ヲ出サレルト云フ以上ハ、二箇年ノ間ト雖モ法ノ立テ方ニ依テ公平ニ出來ルデアアリマセヌカ、二箇年ナルガ故ニ杜撰デモ不公平デモ宜イト云フ議論ハ、私ハソレニ服從スルコトハ出來ヌ、政府ガサウ云フ論法デアレバ、私ヲシテ言ハシメタナラバ、第一地租ノ一分減ト云フコトヲ言ヒ出サレタコトガ甚ダ私ノ不可解デアアル、此一分減ト云フモノハドウデアラウカ、二箇年ノ間ニ一分減ジテ戴イテ、而モ減ズル標準ハ、今申ス如ク不公平ナモノニ依テ減ビラレルノデアアルノミナラズ是ガ爲ニ減ゼラレル地主ハ喜ブカト言ヘバ、實際減ゼラレテ迷惑ニ感ジマス、何トナレバ斯ウ云フ小作爭議ノ到ル處ニ連發スル時代ニ一分ノ地租ヲ減ゼラレタナラバ、之ヲ理由トシテ定マツテ居ル、掟額ニマデモ影響ヲスルノデアアルカラシテ、一分減ヲサレタナラバ地主ハ有難迷惑ヲ感ズルノデアアル、ノミナラズ帳簿等ノ整理費ヲ要シ、一向詮ノナイコトデアアル、是ハ忌憚ナク申上ゲマスレバ、現内閣ガ野黨ノ時代ニ二分減ヲ主張サレタ行懸リニ因ハレテ居ルカノ如ク思フノデゴザイマシテ、二箇年ナルガ故ニ不公平デモ忍バナケレバナラヌト云フ議論ハ、寧ロ撤回ナサタ方ガ宜クハナイカ、此點ニ付テハ全ク私

ハ御尋トシテハ——地價二百圓以下ヲ免ズルト云フ意味ハ、唯社會政策ノミデアアルカ、若クハ農業獎勵即チ自作農獎勵ノ意味ヲ含ンデ居ルカト云フ點ニ付テ、只今御答ヲ願ヒタイノデアアル、又私ノ調ベガ杜撰カドウデアアルカ、尙ホ政府ノ御調ベノ物ガアレバ、ソレモ伺ヒタイト思フノデゴザイマス

○濱口國務大臣 只今ノ御質問ニ御答ヘ致シマスガ、免稅點ヲ二百圓ト致シマシテハ、過日本會ニ於キマシテ中村啓次郎君ノ御質問ノ際御答ヘ致シテ置キマシタ如ク、其大體ノ趣意ハ小農、殊ニ小農タル所ノ自作農、ソレヲ獎勵スルノ點ニアリマス、又社會政策ト云フコトヲ申シマスルガ、其社會政策ト云フコトハ、即チ小農ヲ保護スルト云フコトト全ク一致スルト考ヘテ居リマス、之ヲ約メテ申セバ趣意ハ一ツデアリマスガ、小農タル自作農ヲ保護スルト云フ點カラ此免稅點ヲ設ケタ譯デアリマス、二百圓ト云フ點ニ付キマシテハ、段々御議論モアルヤウデアリマスカラ、後カラ能ク拜見ヲ致シマシテ、其上ニ尙御尋ヲスル場合モアラウト思ヒマス、能ク拜見ヲ致シテ其後ニ致ス積リデアリマスケレドモ、二百圓トシマシタノハ、大體大藏省ノ調トシテ全國ノ平均ガ公租地價百圓ニ付キマシテ百圓ノ純益ガアルト云フ調ガ出來テ居リマス、即チ地價二百圓ト申シマスレバ、

マセヌガ、大體論ト致シマシテハ不公平デアリマス、其不公平ヲ除キマスル爲ニ賃貸價格ニ十七年度カラ改メルト云フ方針デアリマス、然ラバ賃貸價格ニ改メル間ノ二箇年ト云フモノハ、免稅點ハ置カヌ方ガ宜シイデヤナイカト云フ御質問ノヤウデアリマスケレドモ、是ハ少シ私ハ考ガ違ヒマスノデ、假令多少ノ不公平ガゴザイマシテモ、今日ノ場合ニ於テ社會政策ヲ行ヒ、小農殊ニ小農タル自作農ノ維持創設ヲ獎勵スルト云フコトハ目下ノ急務デアルト考ヘマシテ、取敢ズ經過法ト致シマシテ、二百圓ヲ標準ニ致シテ免稅點ヲ設ケ免稅スル方ガ、經濟ノ狀態、殊ニ農村ノ實況ニ鑑ミテ有用且ツ緊切デアラウト云フ考カラ、取敢ズ此案ヲ出シタ次第デアルト御承知ヲ願ヒマス

ハ御尋トシテハ——地價二百圓以下ヲ免ズルト云フ意味ハ、唯社會政策ノミデアアルカ、若クハ農業獎勵即チ自作農獎勵ノ意味ヲ含ンデ居ルカト云フ點ニ付テ、只今御答ヲ願ヒタイノデアアル、又私ノ調ベガ杜撰カドウデアアルカ、尙ホ政府ノ御調ベノ物ガアレバ、ソレモ伺ヒタイト思フノデゴザイマス

○濱口國務大臣 只今ノ御質問ニ御答ヘ致シマスガ、免稅點ヲ二百圓ト致シマシテハ、過日本會ニ於キマシテ中村啓次郎君ノ御質問ノ際御答ヘ致シテ置キマシタ如ク、其大體ノ趣意ハ小農、殊ニ小農タル所ノ自作農、ソレヲ獎勵スルノ點ニアリマス、又社會政策ト云フコトヲ申シマスルガ、其社會政策ト云フコトハ、即チ小農ヲ保護スルト云フコトト全ク一致スルト考ヘテ居リマス、之ヲ約メテ申セバ趣意ハ一ツデアリマスガ、小農タル自作農ヲ保護スルト云フ點カラ此免稅點ヲ設ケタ譯デアリマス、二百圓ト云フ點ニ付キマシテハ、段々御議論モアルヤウデアリマスカラ、後カラ能ク拜見ヲ致シマシテ、其上ニ尙御尋ヲスル場合モアラウト思ヒマス、能ク拜見ヲ致シテ其後ニ致ス積リデアリマスケレドモ、二百圓トシマシタノハ、大體大藏省ノ調トシテ全國ノ平均ガ公租地價百圓ニ付キマシテ百圓ノ純益ガアルト云フ調ガ出來テ居リマス、即チ地價二百圓ト申シマスレバ、

純益カ二百圓ト大體ナルデアラウト云フ所カラ、營業稅ノ四百圓ト均衡ヲ取ツテ定メタト云フノガ一ツノ理由、今一ツハ歳入ノ關係カラ來テ居リマス、政府ノ地租ニ對スル改正案ハ、第一二百ヲ減ジマシテ、是ガ九百六十萬圓ノ歳入減、更ニ今一ツハ免稅點ヲ二百圓ト致シマスルト云フト千二百萬圓ノ減ヲ生ズル、合計二千百數十萬圓トナル、先ヅ地租ニ對スル所ノ減稅ハ其程度デ相當デハナイカ、ト云フ考カラ致シマシテ、免稅點二百圓ト定メタノモ一ツノ理由デアリマス、兩方ノ意味ヲ以テ定メタノデアリマスカラ、是ハ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、昨日モ小川君ノ御質問ニ對シテ御答ヘ致シテ置キマシタガ、今日ノ所地價ノ不公平デアルト云フコトハ、政府ニ於テモ十分ニ認メテ居リマス、其不公平ナル地價ニ依テ免稅點ヲ極メルトコトハドウデアラウト云フ御疑ノヤウデアリマスガ、御疑ノミナラズ、現在ハ總テ不公平ナル地價ニ依テヤツテ居リマス、其地價ニ依テ免稅點ヲ設ケマシテモ、別ニ不公平ヲ重ネルモノトハ考ヘテ居リマセヌ、若シ増稅ヲヤリマス時ニ於テハ、不公平ヲ重ネルモノデアリマスケレドモ、免稅點ヲ設ケマシテ、二百圓以上ノモノハ免稅ノ恩典ニハ與リマセヌカラ、其負擔ガ從來ヨリ多少増加スルコトニナリマセウガ、別ニ不公平トハ——其點ニ於テ不公平ヲ重ネルモノトハ考ヘテ居リ

マセヌガ、大體論ト致シマシテハ不公平デアリマス、其不公平ヲ除キマスル爲ニ賃貸價格ニ十七年度カラ改メルト云フ方針デアリマス、然ラバ賃貸價格ニ改メル間ノ二箇年ト云フモノハ、免稅點ハ置カヌ方ガ宜シイデヤナイカト云フ御質問ノヤウデアリマスケレドモ、是ハ少シ私ハ考ガ違ヒマスノデ、假令多少ノ不公平ガゴザイマシテモ、今日ノ場合ニ於テ社會政策ヲ行ヒ、小農殊ニ小農タル自作農ノ維持創設ヲ獎勵スルト云フコトハ目下ノ急務デアルト考ヘマシテ、取敢ズ經過法ト致シマシテ、二百圓ヲ標準ニ致シテ免稅點ヲ設ケ免稅スル方ガ、經濟ノ狀態、殊ニ農村ノ實況ニ鑑ミテ有用且ツ緊切デアラウト云フ考カラ、取敢ズ此案ヲ出シタ次第デアルト御承知ヲ願ヒマス

ノデアリマス、サウシテ只今ノ御話ニ依テ見マスルト、益私ハ諒解ニ苦シムノハ、農業ヲ獎勵スル意味モアル如ク御説明デゴザイマシタガ、政府ハ常ニ其稅務官ノ實際ニ其職務ヲ扱フ上ニ於テ便否ヲ餘程御考ニナツテ居ルヤウデモゴザイマスガ、是ハ私ヲシテ言ハシメテ見レバ、此公平ヲ持ツニハ一方ノ地價ノミナラズ、今一ツハ段別ト云フモノニ基イテ、兩方面ヨリ免稅點ヲ設ケタナラバ、茲ニ始メテ公平ナルモノガ出來ヤウト思フノデアアル、此政府ノ案カラ見ルト、先刻申スガ如ク一部ニハ却テ富豪階級ノ者ヲ救済スル意味ニナツテ、眞ニ農業ヲ獎勵スル、即チ土ニ親ム者ニ免稅スルト云フ意味ニハ適ツテ居ナイ、一部ニハ小農ヲ保護スル點ニ於テ社會政策ノ意味ニハ適フニ違ヒアリマセヌガ、地價ニ基カレタ結果自作農ヲ獎勵スルト云フ意味ニハ適ハナイノデゴザイマス、全ク今日大都會附近ノ耕地ト云フモノハ農業ガ目的デナクシテ、何レモ前途暴騰スルノヲ目的トシテ買収シテ居ル者ガ澤山アルノデゴザイマス、ノミナラズ先刻申ス如キ郡村ニ至リマシテモ、周圍ニ住居スル農民ハ即チ隣接町村ノ耕地ヲ所有シテ居ルガ事實デアリマス、ソレヲ自ラ自作シ、所有シテ居ル僅ナ小地主デモ、他町村ニ持ッテ居ル爲ニ免稅ニ浴シナイト云フコトハ、實際農業ヲ獎勵スル意味ニ適ハヌ、之ヲ公平ニ

スルニハ地價ト段別ト兩方面ヲ取ツテ免稅サレルノガ眞ニ公平ニナラウト思フノデアリマス、是ハ私ノ愚見デゴザイマスルガ、政府ニ於テモ宜シク御考慮ヲ願ヒタイノデアリマス、今一ツ御尋センケレバナリマセヌノハ、斯ウ云フ二百圓ト地價デ限定サレタ結果トシテハ、却テ自作農獎勵ヲ妨ゲル結果ニナリハセヌカト私ハ思フノデアリマス、今日ノ全國ノ耕地段別ト農家戸數ト云フモノト、自作農若クハ小作農ノ區別ハ措キマシテ、大體ノ上カラ見マスルト、全國のニ算出シテ見ルト、農家一戸當リハ一町一段二畝歩程ニ當ッテ居リマスガ、政府ノ平均ノ計算カラ行キマス、二百圓ノ地價ニ當リマス段別ハ平均九段八畝程ニナリマス、所デ今日ノ此趨勢カラ考ヘマス、自作農ハ戸數ハ年々減リマスガ、作付スル段別ハ年々増加シテ居ル、實際問題カラ言ヘバ、今日ノ自作農ノ段別ハ一町二段乃至一町五段位ニナツテ居ルガ茲ニ二百圓ト限定サレタ爲ニ、二百一圓ノ地價ヲ持ッテ居レバ、之ガ爲ニ免稅ノ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイコトニナル、或ハ二百圓ノ地價ガ假ニ一町一段ニ當ル地方デアレバ、一町一段一畝ヲ持ッテ居レバ矢張免稅ノ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイ、併シ總テ地租ニ限ラズ、所得稅デアロウガ何デアラウガ、免稅點ヲ設ケラレタ此ノ際ノモノハ不利益ニハ違ヒアリマセヌガ、今ヤ農業ヲ獎勵セ

ントスル斯ウ云フ場合ニ於テ全ク自作農ト云フ事ヲ樂ンデ、少シジツ田地ヲ殖シテ土ニ親ンデヤッテ居ル農業者ノ自作農ト云フモノヲ、斯ウ云フ政策カラ行ケバ、ドウシテモ沮止スル結果ニナル、自作農ト云フモノハモウ發展シナイ、ソレデ之ヲ地價ノ上カラ行ケバ、眞ニ自作ノ出來ル程度ハ私共ガ見ルノニ、地價ナレバ、三百圓、段別ハ一町五段程度位ニ之ヲシタナラバ、自作農ノ獎勵ノ途ニ適フデアラウガ、只今政府ノ提案サレタ此案カラ見マスルト、寧ろ自作農ノ獎勵デナイ、今後ハ自作農ヲ沮止スル結果ニナラウト思フガ、或ハ私ノ考ガ違ッテ居ルカ、政府ノ御所見ヲ承ッテ見タイト思フノデアリマス

○黒田政府委員 只今御述ベニナリマシタ通り、大體二百圓ト申シマス、私共ノ調ベテ居リマスノデハ平均一町歩位ニナツテ居ルノデアリマス、御意見ノヤウニ、或ハ之ヲ一町五段トスルガ宜イカ、或ハ一町歩ニスルガ宜イカト云フコトハ、是ハ意見ノ岐ルル所デアラウト思ヒマスガ、大體一町歩以下ノモノ、即チ地價二百圓以下ノモノヲ免稅ト致シマスレバ、多クノ自作ヲシテ居ル小地主ハ免稅ノ恩典ニ浴スルコト云フ風ニ考ヘテ居マシテ、若シ増稅デモシタト云フコトナラバ、自作農ヲ妨ゲルト云フコトニモナリマセウガ、兎ニ角或部分ヲ輕減スル、小地主ノミナラズ負擔ヲ輕減スルト云フコトデアリマシテ、其負擔ヲ輕減スルト云フ事ガ自作農ノ獎勵ニ反スルト云フコトハ無イデアラウト考ヘテ居リマス

○三輪委員 藏相モ、只今黒田政府委員モ同シ論法デアリマスガ、今後課稅スルモノデナイ免稅スルモノデアアルカラシテ、負擔ノ均衡ヲ保ツト云フ其聲明ヲシテ居ルル意味ニハ何等關シナイト云フ御議論ノヤウニ思ハレマスガ、免稅ト云フノハ即チ負擔ヲ免稅スルノデアアッテ、是ハ物事ヲ表カラ言フテ裏カラ言フト同様デアッテ、矢張其恩恵ヲ被ルト云フコトハ、是マデ負擔ヲ受ケテ居ルモノヲ小農ニ對シテ免稅サレルト云フコトハ、言換ヘレバ負擔ヲ免減スルト云フノデアアルカラ、負擔ノ均衡ヲ保ツト云フ聲明ニハ矢張同一ナモノデアラウト思フ、文字ニ書ケバ負擔デアリ、コチラハ免稅デアアルカラ、負擔ノ均衡ト云フ意味ニハ當ッテ居ラヌト云フ御答辯ノヤウニ聞エマスガ、是ハ少シ失禮ナガラ無理ナ御答辯デアアルマイカト思フ、免稅ハ即チ負擔ヲ免稅スルノデアリマス、負擔ノ均衡ヲ保ツト云フノハ、免稅スルノモ結論トシテハ同様デアッテ、サウ云フ御答辯ハ了解ニ苦ムノデアリマス、政府ニ於テサウ云フ御考デアアルカラ茲ニ新ク免稅ヲシ、恩恵ヲ被ラシムルモノデアアルカラ、ソレデ一向均衡ヲ保タナイデモ宜イト云フ御議論ハ、政府トシテドウデアラウカト思フ、尙ソレニ付テノ御所見ヲ伺

ヒタイ

○黒田政府委員 只今御答致シマシタノハ、一町歩以下位ノ者ノ免税デハ自作農ノ獎勵ニナラナイ、一町五反位、即チ約三百圓位以下ノ者ヲ免税シナケレバ自作農ノ獎勵ニナラナイ、二百圓以下ノ者ヲ免税スルト云フコトハ獎勵ノ趣旨ニ反スルト云フヤウナ御質問ト考ヘマシタカラ、先程申上ゲマシタヤウニ、ソレハ三百圓以下ノ者ヲ免税スレバ、ヨリ宜シイカモ知レマセヌガ、大體二百圓位、一町歩位ノ者ヲ免税スレバ、ソレ等ノ小地主ノ負擔ヲ輕減シテ、即チソレ等ノ人々ノ自作ヲ獎勵スルト云フコトニナツテ、決シテ自作農獎勵ノ趣旨ニ反シナイト云フ意味ヲ申上ゲタノデアリマス、只今ノ御質問ハ更ニ免税スルコトハ負擔ノ均衡ヲ得ル、決シテ負擔ノ均衡ヲ失シテ居ルモノガ、今日其免税ニ依テ負擔ノ均衡ヲ得ル如ク政府ハ考ヘテ居ルト云フ風ノ御議論デアッタヤウニ思ヒマスガ、ソレハ先程大藏大臣ノ申サレタ通り、決シテ免税ニ依テ負擔ノ均衡ヲ得ヤウト云フ趣旨デハナイノデアリマス、ソレハ貨賃價格ノ調査ヲシテ、其貨賃價格ニ改正ヲ致シマセヌケレバ、今日ノ地價ヲ標準ト致シマシテハ、其間ノ均衡ハ勿論取レナイノデアリマス、唯地租ト營業稅ノ四百圓トノ間ノ均衡ハ今日ノ營業稅ノ四百圓、地價ヲ二百圓トスルト稍其均衡ヲ得ルト先程大藏大臣ガ申上ゲタノデ

アリマス、負擔者ノミカラ見マスレバ今日二百圓以下ヲ免税シタカラト云ツテ、地租ノ負擔割ノ間ニ均衡ヲ得タトハ政府ハ考ヘテ居ラスノデアリマス

○三輪委員 ソレハ黒田政府委員ノ御答辯ハ私ノ申シタコトガ御了解ニナツテ居ラヌノデアアル、只今私ノ申シタノハ先程ノ御答辯ハ免税スルモノデアアルカラシテ、負擔ノ均衡ニハ關係シナイト云フヤウナ口吻ヲ持ツテ御答ニナツタノデアアルカラシテ、其點ニ付テ私ハ御尋ヲシタノデアアル、成程此度ハ免税ノ負擔ヲシテ居ルノ者ヲ免税スルノデアアルカラ、此場合免税スルト雖モ之ニ不公平ガアレバ、即チ政府ノ御聲明ニナツテ居ル負擔ノ均衡ヲ保ツト云フ意味ニハ副ハスノデアリマス、此點ニ付テノ私ハ政府ノ御所感ヲ問フタノデアアル、而シテ私ハ自作農獎勵ヲ妨ゲルト云フ意味ハ只今申上ゲル如ク、二百圓ト茲ニ限定サレテ居ル、ソレ以下ノ所有者ニ對シテ免税スルコト云フコトデアレバ、是ハ二百一圓、之ヲ段別ニ直シテ見レバ一町以上、假ニ二百圓ヲ一町トスルナラバ、一町以上ヲ持テ全部ノ免税ヲ受ケルコトガ出來ナイカラシテ、從來其以上ヲ多少持ツテ居ル者デモ之ヲ他ヘ賣却シ、若クハ今後買入レントスル者デモ其以上ハ差控ヘルヤウニナツテ、全國ノ今日ノ自作農ハ先ヅ耕地整理若クハ機械ノ改良等ニ依テ漸次進ミツツ

アルカラシテ、一町五段位マデハ自作ヲシテ居ル譯デアアル、所ガ茲ニ二百圓ト限定サレシ其結果トシテ、段別ガ一町ト假定スレバ、一町以上買ヘバ免税ノ恩惠ヲ被ムルコトガ出來ヌヤウニナルカラシテ、自作農獎勵ノ意義ニ適ハヌ、却テ自作農ノ進歩スベキモノヲ阻止スル結果ニナリハシナイカ、斯ウ云フコトニ付テノ御所見ヲ私ハ伺ッタノデアアル、モウ一度之ニ付テ御意見ヲ伺ヒタイ

○濱口國務大臣 政府ハ小地主、殊ニ小地主タル自作農ニ對シテ之ヲ保護獎勵セムガ爲ニ免税點ヲ設ケタ、是ハ負擔ノ公正ヲ期スルト云フ趣意モアルデアラウト思フガ、今日政府ガ自ら不公平ト認メテ居ル所ノ法定地價ヲ標準ト致シマシテ、免税スルト否トヲ決スルノデアアルカラ、其點カラ申シマスレバ負擔公正ノ目的ヲ達シナイ、斯ウ云フ御質問デアリマス、如何ニモ御尤デアリマス、ソレハ其通りデアリマスガ、大體ニ於キマシテ如何ナル小地主ニ對シテモ、依然トシテ同一ノ地租ヲ徵收シテ居ル場合ト、多少ノ境界ニ於テ不公平ハアリマシテモ、其以下ノモノヲ免税スル場合ト比較致シマスルト、不公平ヲ忍ンデモ此際例ヘバ二百圓以下ノモノヲ免税スルト云フコトニシタノガ、全體ト致シマシテ一般ノ公正ヲ得ルニ近クハナイカ、斯様ナ考ヲ有ツテ居リマス、

ソレハ若シ免税點ヲ決メル上ニ於テ、適當ナル標準ヲ地價以外ニ發見スルコトガ出來マスレバ宜カッタウト考ヘマスルガ、此點ニ付キマシテハ政府ニ於テモ十分ニ調査研究ヲ重ネマシタケレドモ、昨日モ申上ゲマシタ通り如何セン地價ヲ以テ標準トスル他ニハ適當ナル標準ヲ發見スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、固ヨリ地價ノ不公平ト云フコトハ認メテ居リマス、然ラバ他ニ何カ公平ナ標準アリヤト云フ點ニナリマスルト、ソレヲ發見スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、地價ト比較スベキモノハ段別デアリマスガ、是ガ一人ノ地主ガ田バカリヲ持ツテ居ル場合、或ハ畑バカリ持ツテ居ル場合デアルト、段別ヲ左右スルコトガ出來マス、田ニ付テハ例ヘバ六段歩、畑ニ付テハ二町五段歩取ルコトガ出來マスケレドモ、田ト畑トヲ合セテ之ヲ持ツテ居ルモノニ對シマシテハ、田畑ノ段別ヲ標準ニスルコトガ不便デアリマス、却テサウスル方ガ地價ヲ標準トスルヨリモ不公平ナ程度ヲ増スデハナイカト云フ考カラ致シマシテ、單純ニ地價ヲ標準トシタ譯デアリマス、ソレカラ今一ツハ三輪君ノ御說ヲ伺ツテ居リマスルト、二百圓ト云フノハ低キニ失スルデハナイカ、之ヲ三百圓位ニスルト始メテ自作農獎勵ノ目的ニ適フヤウニナルデアラウト思フ、ソレニ付テハ全國ノ自作農ノ平均段別ヲ御舉ゲニナツテノ御質問

アルカラシテ、一町五段位マデハ自作ヲシテ居ル譯デアアル、所ガ茲ニ二百圓ト限定サレシ其結果トシテ、段別ガ一町ト假定スレバ、一町以上買ヘバ免税ノ恩惠ヲ被ムルコトガ出來ヌヤウニナルカラシテ、自作農獎勵ノ意義ニ適ハヌ、却テ自作農ノ進歩スベキモノヲ阻止スル結果ニナリハシナイカ、斯ウ云フコトニ付テノ御所見ヲ私ハ伺ッタノデアアル、モウ一度之ニ付テ御意見ヲ伺ヒタイ

○濱口國務大臣 政府ハ小地主、殊ニ小地主タル自作農ニ對シテ之ヲ保護獎勵セムガ爲ニ免税點ヲ設ケタ、是ハ負擔ノ公正ヲ期スルト云フ趣意モアルデアラウト思フガ、今日政府ガ自ら不公平ト認メテ居ル所ノ法定地價ヲ標準ト致シマシテ、免税スルト否トヲ決スルノデアアルカラ、其點カラ申シマスレバ負擔公正ノ目的ヲ達シナイ、斯ウ云フ御質問デアリマス、如何ニモ御尤デアリマス、ソレハ其通りデアリマスガ、大體ニ於キマシテ如何ナル小地主ニ對シテモ、依然トシテ同一ノ地租ヲ徵收シテ居ル場合ト、多少ノ境界ニ於テ不公平ハアリマシテモ、其以下ノモノヲ免税スル場合ト比較致シマスルト、不公平ヲ忍ンデモ此際例ヘバ二百圓以下ノモノヲ免税スルト云フコトニシタノガ、全體ト致シマシテ一般ノ公正ヲ得ルニ近クハナイカ、斯様ナ考ヲ有ツテ居リマス、

ソレハ若シ免税點ヲ決メル上ニ於テ、適當ナル標準ヲ地價以外ニ發見スルコトガ出來マスレバ宜カッタウト考ヘマスルガ、此點ニ付キマシテハ政府ニ於テモ十分ニ調査研究ヲ重ネマシタケレドモ、昨日モ申上ゲマシタ通り如何セン地價ヲ以テ標準トスル他ニハ適當ナル標準ヲ發見スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、固ヨリ地價ノ不公平ト云フコトハ認メテ居リマス、然ラバ他ニ何カ公平ナ標準アリヤト云フ點ニナリマスルト、ソレヲ發見スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、地價ト比較スベキモノハ段別デアリマスガ、是ガ一人ノ地主ガ田バカリヲ持ツテ居ル場合、或ハ畑バカリ持ツテ居ル場合デアルト、段別ヲ左右スルコトガ出來マス、田ニ付テハ例ヘバ六段歩、畑ニ付テハ二町五段歩取ルコトガ出來マスケレドモ、田ト畑トヲ合セテ之ヲ持ツテ居ルモノニ對シマシテハ、田畑ノ段別ヲ標準ニスルコトガ不便デアリマス、却テサウスル方ガ地價ヲ標準トスルヨリモ不公平ナ程度ヲ増スデハナイカト云フ考カラ致シマシテ、單純ニ地價ヲ標準トシタ譯デアリマス、ソレカラ今一ツハ三輪君ノ御說ヲ伺ツテ居リマスルト、二百圓ト云フノハ低キニ失スルデハナイカ、之ヲ三百圓位ニスルト始メテ自作農獎勵ノ目的ニ適フヤウニナルデアラウト思フ、ソレニ付テハ全國ノ自作農ノ平均段別ヲ御舉ゲニナツテノ御質問

アルカラシテ、一町五段位マデハ自作ヲシテ居ル譯デアアル、所ガ茲ニ二百圓ト限定サレシ其結果トシテ、段別ガ一町ト假定スレバ、一町以上買ヘバ免税ノ恩惠ヲ被ムルコトガ出來ヌヤウニナルカラシテ、自作農獎勵ノ意義ニ適ハヌ、却テ自作農ノ進歩スベキモノヲ阻止スル結果ニナリハシナイカ、斯ウ云フコトニ付テノ御所見ヲ私ハ伺ッタノデアアル、モウ一度之ニ付テ御意見ヲ伺ヒタイ

デアリマス、是ハ如何ニモ御尤デア
マス、所デサウ致シマスルト主トシテ
政府ノ困リマスノハ歳入ノ點デアリマ
ス、二百圓未満ノモノヲ免稅スルトシ
テ、先刻申上ゲタ通り一千二百萬圓ノ
減收ト見マス、假ニ三百圓以下ノモノ
ヲ免稅スルト千二百萬ノ上ニ更ニ五
百萬位ノ歳入ガ減スルコトニナリマシ
テ、歳入ノ減ズル金額ガ一千七百萬圓
バカリニナルデアリマス、サウ致シ
マスルト稅制整理ニ依ル所ノ歳入ノ増
減ト云フコトニ對シテ少シ影響ヲ受ケ
ル、財政計畫上頗ル困ルト云フコトガ
主ナル理由デアリマシテ、之ヲ二百圓
ニ止メタノデアリマス、サウ致シマス
ルト結果トシテ三輪君ノ御心配ニナッ
タ今日ノ自作農ガ免稅ノ恩典ヲ利用致
シマシテ、段々其自分ノ持ッテ居ル段別
ヲ擴張致スト云フ傾向ヲ獎勵スルト云
コトニハナリマセヌ、小サイ自作農ガ
大キナ自作農ニナッテ行クト云フ、其趨
勢ニ對シテハ是ハ獎勵ニハナラヌト考
ヘマスルガ、其代リニ例ヘバ小サイ自
作農ノ數ガ非常ニ殖エル、適例ヲ申シ
マスト現在ノ小作人デアリマス、此小
作人ガ自ラ土地ヲ有スルコトガ出來ズ
シテ他人ノ土地ヲ耕作致シテ居リマ
ス、其小作人ガ此度ノ免稅ノ恩典ヲ利
用致シマシテ、資金ヲ都合致シテ、自分
ノ耕作ヲシテ居リマス所ノ土地ヲ一部
分借リテ居ル、即チ地價二百圓未満ノ
モノヲ借リテ居ルト云フコトガ段々獎

勵サレマス、小作人ノ數ガ減リマシ
テ自作農ノ數ガ段々殖エルコトニナリ
マスカラ、小農タル自作農建設獎勵ニ
向ッテハ相當ノ效果ガアルト思ヒマス
ガ、如何ニモ三輪君ノ御心配ノ通り、自
作人ガ自分ノ耕作スル段別ヲ段々擴張
シテ參ッテ所謂機械ノ應用等ニ依テ十
數町、數十町ノ段別ニ殖スト云フ、其點
ニ向ッテハ此制度ハ中ニ獎勵ニハナリ
マセヌ、詰リ小サイ自作農ヲ澤山殖ス
ト云フ目的ハ之ニ依テ達スルコトガ出
來ルノデハアルマイカト考ヘテ居リマ
ス

○三輪委員 私ハ自作農ノ獎勵ヲ望ム
ト雖モ決シテ機械的ニ何町歩若クハ何
十町歩自作スルコトヲ獎勵スル意味デ
ハアリマセヌ、是ハ却テ小作、即チ小農
ヲ壓迫スルコトニナルカラ、私ハサウ
云フ意味デハナイ實際一家族、一世帶
デ出來得ル程度ノコトヲ申スノデゴザ
イマシテ、獎勵スルト雖モ段別若クハ
地價ニ制限ヲシナケレバ大地主ノ利益
セシメテ、小農ノ發展ヲ見ルコトガ出
來ヌカラ、私ハサウ云フ主張デハナイ、
併シ今藏相ノ言ハレル如ク歳入ノ關係
モアルカラ、私ハ無イ金ヲ求メルノデ
ハナイ、假ニ二百圓ヨリナイトシテ見
レバ二百圓デモ宜イトシマス、私ハ不
満足デアアルガ、假リニ二百圓デ宜イト
シテモ、自作農ノ獎勵ヲ妨ゲヌ方法ト
致シマシテハ二百圓デナケレバ免稅セ
ヌ、其以上ハ少シデモ超過シタナラバ

免稅セヌト云フ窮窟ナコトデナクシ
テ、矢張其以上デモ自作スル者ハ免稅
ヲスルト云フ意味ノ法案ヲ立テラレタ
ナラバドウカ、之ヲ露骨ニ言換ヘテ見レ
バ、吾ミガ提出シテ居ル自作農ノ免稅
ハ此見地カラ出テ居ルノデゴザイマス
ガ、茲ニ私ハ政府案ニ付テ此處デ御考
ヲ願フノハ、兎ニ角地價ヲ二百圓ト云
フ標準ニサレタノデアアルガ、之ヲ一面
ニ於テ全國的ニ地價二百圓ノモノガ段
別ガドレダケニ當ルカト言ヘバ、今申
ス如ク九段八畝歩強、政府ノ御調べデ
モ殆ド一町ニナッテ居ル、サウシテ見レ
バ此公平ヲ保タントスルニハ地價及段
別、兩方面ヨリ之ヲ免稅セラレテ何等
差支ナイデアアルと思フ、大藏省ノオ役
人ハ單純ニ扱ヒ宜イヤウニト云フコト
ガ根本トナッテ居ルノデアアルガ、地價ニ
段別ト兩方ニ跨ッテヤリマシテモ此恩
惠ヲ蒙ル、即チ免除ヲ蒙ル者ノ望ミニ
委シテ何ノ誰ハ地價ニ依ル、何ノ誰ハ
段別ヲ望ムト云フ風ニヤッデ行ケバ公
平ガ保タレルデアリマセヌカ、一ツノ
物資ニ課稅ヲスルノデモ二重ニモ、三重
ニモ取ッテ居ルト同様デアアル、免稅スル
上ニ於テモ同様デアアル、政府ガ之ヲ二
様ニ扱ッテモ納稅者、即チ免稅ヲ受ケル
方面ニ於テハ地價若クハ段別ノ一方ニ
依ルノデアッテ、決シテ是ハ取扱上面倒
ナコトハナイノデアアル、是ニ於テ同ジ
小農ガ其恩惠ヲ蒙ルノニ稍公平ガ保
テルデアラウト思フ、實際問題トシテ

都會附近ノ金持ガ一坪何十圓、何百圓
トスルモノヲ見込買ヲシテ居ル者ガ此
ノ方カラ行ケバ皆恩惠蒙ルノデアッテ、
實際一町五段、二町ヲ作ッテ居ル人ミガ
却デ恩惠ヲ蒙ラナイ、而モ繰返シテ申
スト全國的ニ御調べニナレバ能ク御分
リニナルガ、今日地價一段當リ六、七十
圓ノ所ハ澤山アリマス、私ノ縣ナドハ
表ヲ差上ゲテ置イタ上カラ見レバ四十
何圓ニナッテ居リマスガ、是ハ實際調べ
テ見マス田ノ地價ハ高イモノハ七十
圓位、安イノハ十何圓、ソレデドウカト
云フト誠ニ一重隔テテ居ッテ治水ノ
關係、耕地整理及交通機關等ノ關係デ
一方ハ何町歩ノ恩惠ヲ蒙リ、一方ハ僅
ニ三段歩内外ヨリ恩惠ヲ蒙ラヌト云フ
コトハ實際問題トシテ不公平デアアル、
是ハモウ少シク各府縣ニ付テ今日ノ地
價ヲ御調べニナルト斯ウ云フ案ハ立ッ
マイト思フノデゴザイマスガ、兎ニ角
公平ヲ保ツ上ニ於テハ兩方面ニ依テ此
基礎ヲ設ケラレタ方ガ假ニ政府案ニ基
イテモ公平デアラウト私ハ思フ、決シ
テ財源ノナイモノヲ強イテ主張スルモ
ノデハナイガ、此點ニ付テ兩方面ヨリ
免稅點ヲ設ケラレルト云フ御考ハナイ
カドウカト云フコトヲ今一應御伺シタ
イノデゴザイマス

○濱口國務大臣 免稅點ノ標準ヲ地價
ト段別ト二ツ設ケテ置キマシテ、其何
レノ適用ヲ受ケルカト云フコトヲ納稅
者ノ選擇ニ委スト云フコトハ、是ハ租

稅法規トシテ頗ルムツカシイコトデア
ラウト思ヒマス、若シ段別ノ標準ヲ用
ユルトスルナラバ、地價ノ標準ト併セ
テ用ユル、即チ政府案ハ地價ト云フ一
元論ニナツテ居リマスガ、ソレヲ地價並
ニ段別ト云フ二元論ニ致シマシテ、地
價二百圓未滿ノモノ但シ段別幾ラ以上
ノモノハ此限リニ非ズト云フコトニデ
モ致シマスレバ、是ハ二元論ノ採用ガ
出來マス、ガサウナリマスト先刻申述ベ
マシタ通り、其納稅者ガ田ノミヲ持ッテ
居ル場合ト、或ハ畑ノミヲ持ッテ居ル、
斯ウ限ッテ居レバソレデ宜イノデアリ
マスガ、田ニ付テハ幾ラヲ超過スルモ
ノハ免稅ノ限リニ非ズ、畑ニ付テハ幾
ラヲ超過スルモノハ免稅ノ限リニ非ズ
ト云フコトガ書ケマシテ、其法律ガ適
用サレマスケレドモ、一人ニシテ田ト
畑ト兩方持ッテ居ル者ガアリマス、而モ
其歩合ガ皆違ッテ居リマス、九分通りハ
田ヲ持ッテ、一分通りハ畑ヲ持ッテ居ル、
其反對ニ九分通り畑ヲ持ッテ居ッテ、一
分通り田ヲ持ッテ居ル、五分々々ノモノ
モアル、四分、六分ニ持ッテ居ルモノモ
アル、斯ノ如キ情況ノ下ニ於キマシテ
ハドウシテモ段別ト云フモノヲ免稅點
ノ標準ニ取ル譯ニ參リマセヌ、是ハ政
府モ色々苦心ヲ致シマシタケレドモ、
只今マデノ研究ノ結果ニ依リマスレバ
不公平ノアルコトハ是ハ認メマスケレ
ドモ、法定地價ト云フモノヲ此標準ニ
取ル外ハアルマイト云フノデ此案ヲ出

シタ譯デアリマス、尙ホモウ一ツノ御
疑問トナツテ居リマス所ノ地價二百圓
ト云フモノト、百九十九圓ト云フモノ
ト、僅ニ一圓ノ開キデアアルニ拘ラズ、二
百圓ニ達シタモノハ免稅ノ恩典ヲ受ケ
ルコトガ出來ナイ、百九十九圓ノモノ
ハ免稅ノ恩典ヲ受ケルコトガ出來ル、
是ハ不公平デアアルマイカト云フ御心配
デアリマスガ、是ハ如何ニモ其通りデ
アリマス、然ルニ免稅點ト云フモノヲ設
ケマススト云フト、ドノ稅法モ常ニサウ
云フ不公平ガ伴ヒマス、今日ノ所得稅
法ニ於キマシテモ、亦今度政府ガ改正
セントスル所ノ營業收益稅ニ於キマシ
テモ、總テ免稅點ヲ設ケマス場合ニ於
テハ、其境界ニ於テハドウシテモ是ハ
不公平ガ生ジマス、是ハ如何トモ致方
ガナイ所ノ弊害デアリマシテ、救濟ノ
方法ハアリマセヌ、然ラバソレガイカ
ヌカラト云フテ免稅點ヲ設クルコト
ヲ止メルカト云フト、是亦大局ノ上カ
ラ免稅點ヲ設ケタ方ガ宜イト云フコト
ニナリマスカラ、其間ノ調和ハ洵ニ困
難デアリマス、常ニ苦心ヲ致シマスガ、
此現象ヲ生ジマスコトハ洵ニ已ムヲ得
ナイコトデハナイカト考ヘマス

○三輪委員 田ト畑ニ付テ段別ノ其持
チヤウニ依テ公平ガ保テヌト云フ御議
論デアッタガ、是ハ何レノ點カラ見マシ
テモ藏相ノ御説ノ如ク全ク秤ニ掛ケル
ヤウニ公平ヲ保ツコトハ出來ヌガ、單
ニ地價二百圓ニ基イテ免稅サレルヨリ
モ、一方デハ田畑何レヲ問ハズ、其者ノ
所有段別ト云フモノハ茲ニ制限シタ以上
ハ、田デモ畑デモ宜イガ、矢張段別ト云
フモノモ茲ニ一ツ基準ヲ設ケタナラバ
地價ノミニ依ルヨリモ私ハ公平ニ稍
近イデアラウト思フ、即チ段別ハ田
畑トチラデモ宜シイ、地價ニ依テ要求
スルデアラウガ、段別ニ依テ望ム者ガ
アラウガ、ソレハ何レニシテモ、田モ畑
モ通ジテ茲ニ段別ノ免稅點ヲ設ケラレ
タナラバ、今日ノ政府案ヨリ餘程公平
ニ近イデアラウト思フ、ソレカラモウ
一ツハ實際問題トシテ御調ニナレバ分
ル、全ク大都市ノ周圍ハ、單ニ六大都市
ニ限リマセヌ、何處ノ都市ト雖モ其周
圍ハ地價ノ實際ノ値段ハ暴騰シテ居ル、
一段幾ラデナク一坪幾ラノ賣買デア
ル、ソレ等ノ土地ヲ前途ヲ見越シテ持ッ
テ居ル者ガ免稅ノ恩惠ヲ蒙ッテ、一方僅
ニ三段歩ヤソコ等ヲ永イ間重稅ノ負擔
苦ンデ居ッタ者ガ、尙ホ其恩典ニ與カル
機會モ亦外レテ、相變ラズ窮地ニ陷ッ
テ居ルト云フコトハ、實際社會政策ノ上
ニ於テモ、農業獎勵ノ上ニ於テモ間違
ツタ問題デアラウト思フカラ、私ハ理
窟ヲ捏ネルノデナイ、眞ニ實情ヲ知ッ
テ居ル爲ニ御再考ヲ願フノデアアル、ドウ
考ヘテモ此點ハ政府ガ捉ハレタ議論ノ
ヤウニ思フ、吾々モ眞ニ毀譽褒貶ハ眼
中ニ置カズニ、政策本位國家本位デ之
ヲ叫ブノデアアルカラ、政府モドウカ實
際問題トシテ御調ヲ願ヒタイ、ソレカ

ラ一昨日カノ御辯明ノ地價百圓ニ付テ
收益百圓ト云フモノハ、小作人ノ勞銀
ヲ加ヘタ全體ノ收穫ナラ無論アルデセ
ウガ、掟米ノミヲ取ッテ居ル、純益デハ、
地價百圓ニ付テ全國的ニ見タナラバ僅
ニ六七十圓ノ收穫ヨリナイ、府縣ニ依
テハ僅ニ二三十圓ヨリナイノデアアル、
何レノ見地カラ云ッテモ、此法案ガ實現
スルトスルナラバ實ニ不公平極マルモ
ノデアアル、此以上申スト諄クナリマス
カ、此程度ニ止メマスガ、私ノ出シタ調
ベニ付テモ、或ハ政府ノヤウニ機關ノ
ナイ調査デアアルカラ間違ナイトハ保シ
難イガ、若シ間違ッテ居ル所ガアレバ、
遠慮ナク加除ヲ願ヒタイ、政府ガ地價
百圓ニ付テ收益ガ百圓アルト云フ御計
算ハ如何ニ考ヘテモ吾々ハ分ラナイカ
ラ、是ハ了解ノ出來ルヤウ詳細ナル調
査表ヲ戴キタイノデアリマス

○黒田政府委員 地價ト段別ト共ニ採
用シテ免稅點ヲ定メルコトノ困難ナ事
ハ、既ニ大臣カラ御話ニナツタ通りデア
ラウト思ヒマスガ、重ネテノ御意見デ
アリマスカラ更ニ附加ヘマスレバ、段別
ヲ標準ニスルトシマシテモ、地方ニ依
テ其收穫ガ非常ニ違ヒマス、殊ニ先程
大臣モ申サレタ通り、田ト畑ト所有シ
テ居ル場合ニ、如何ナル標準ヲ以テ區
別ヲ立テルカト云フコトハ、餘程困難
ガアラウト思フ、是ハ今後——今日ノ
不公平ヲ正ス方法トシテハ、賃貸價格
ニ依ルト云フコトヲ既ニ話サレテ居リ

マス、其貸賃價格ニ依テ免稅點ヲ設ケマス際ニ、適當ナ分界ヲ設クルコトニ依テ目的ヲ達スルコトガ出來ルノデアリマスカラ、此二年間故ラニ困難ナ、而モ標準トシテ必シモ適當デナイモノヲ加ヘルコトハ、實行上困難デアラウト考ヘマス、又營業稅ノ四百圓トノ權衡ニ付テ大臣モ申サレマシタガ、矢張地價デアリマスレバ、大體收益二百圓ノモノハ地價二百圓デアアルソレヲ標準ニシテ、ソレニ今度ノ稅率田畑百分ノ三半ヲ掛ケマスレバ七圓ノ稅額ニナリマス、營業稅ノ方ニ於テモ四百圓ニ付テハ十一圓二十錢位デアリマシテ、其間ノ構衡モ大體取レテ居ルモノト見マスカラ、サウ云フ上ニ於テモ亦地價ヲ標準トスルコトガ便宜デアアルノデアリマス、左様ナ次第デ地價ヲ標準ニシテ居ルノデアリマスガ、然ラバ地價二百圓ノモノハ所得ガ大體二百圓ト云フコトガ如何ニモ受取レナイト云フ御意見デアリマスガ、之ニ就テハ當局ニ於テ調べマシタノハ、全國ニ於ケル一段歩當リノ田畑ノ各平均地價ヲ見テ、其割合等カラ更ニ平均地價ヲ算出シテ、ソレノ小作料——モ四十四年カラ準備調査ヲ致シマシタ、大正七年カラ九年ニ互ッテ調べタ小作料ヲ大體見マシテ、ソレニ更ニ米價、公課ト云フモノヲ調べテ出シテ見マス、大體純益二百圓——二百五圓位ノモノガ地價ニシテ百九十九圓九十何錢、大體二百圓見當ニナッテ

居ルヤウデアリマス、ソレニ依テ大體平均致シマスレバ——勿論高低ノアルコトハ認メテ居リマスガ、平均致シマスト、二百圓ノモノハ大體二百圓位ノ所得ガアル、ソレニ依テ今日ノ稅額ヲ出シテ見ルト、負擔ノ權衡ハ大體得ルデアラウト云フ見地カラ出テ居ルノデアリマス、ソレカラ先程御述ニナリマシタ中ニ、市街地ノ附近等ニ於テ將來ノ價格ノ騰貴ヲ豫想シテ田畑ヲ持ッテ居ルヤウナモノヲ免稅スル必要ハナイト云フ御意見モアリマシタガ、是ハ御承知ノ通り地租ニ於テハ現在利用シテ居ル現狀ヲ見テ其地價ヲ定メ、今後ノ賃賃價格ヲ定メル上ニ於テモ、大體サウ云フモノヲ見ルノデアリマス、若シ是ガ宅地等ニ變リマスレバ、直ニ地價ノ修正ヲ致スノデアリマス、サウ云フ風ナ關係モアリマスノデ、必シモ將來ヲ見越シテ、値上リヲ待ッテ居ルト云フコトヲ地價ノ上ニ加味スルコトハ如何カト考ヘテ居ルノデアリマス、又御話ノ中ニサウ云フモノガ免稅ニナルコトハ不公平デアルト云フ御意見ガアリマシタ外ニ、又サウ云フ所デハ大體市内ニ住ンデ、而シテ隣接町村ニ耕シテ居ルヤウナ者ニハ免稅サレナイ、斯ウ云フ御議論モアッタヤウデアリマス、是ハサウ云フ所モ多少アラウト思ヒマス、併ナガラ是ハ屢大藏大臣モ御話ニナッタ通り、全國ヲ平均致シテ見マスト、不在地主ハ約一割五分程アル——デ

アリマス、無論割合ニ多イ町村モアラウト思ヒマスガ、サウ云フ風ニナッテ居リマスノデ、大體ニ於テ目的ヲ達スルモノデハナイカト云フ考ヲ持ッテ居リマス、サウ云フ者ガ免稅サレナイカラト云ッテ、必ズシモ公平ヲ失スルトモ考ヘラレナイダラウト考ヘテ居リマス

○三輪委員 私ハ此問題ニ付テ、實ハ政府ニ御考慮ヲ願ウ積リデ、餘リ質問應答ヲ重ネナイ考ヘデ居リマシタガ、今黒田政府委員ガサウ云フ御答辯ニナレバ、默ッテ居レナイ、今一應御尋ネナイノデアアル、段別ト云フモノハ實ニ見易イ、却ッテ捉米トカ實益トカ云フヨリモ最も見易イ、捉米ト云フコトニナレバ、各地主ニ就テソレヲ調べナケレバナラナイ、却ッテ是ハ面倒デアラウト思フ、段別、云フモノニ基イテ調べルコトハ、地價ニ基イテヤルコトト一向變ラナイ、唯兩方面ニ互ルト云フコト——兩方面ニ互ッテ免稅點ヲ設ケレバ、今申ス如ク地價ノミニ依ルヨリハ一層公平ニナリハシナイカ、藏相モ言ハレタ如ク、畑ノ所有段別、田ノ所有段別ニ依テ、此間ニ多少ノ損益ノ程度アリト雖モ、一方ニ地價ノミニ依ルヨリハ、遙カニ優ッタ公平ニ近イモノデアアルガ、黒田政府委員ハ面倒デアルト言ハレタガ、何ガ面倒デアアル、私ハ斯様ナ略易イ

モノハナカラウト思ヒマス、洵ニ略易イ事ヲ、面倒デアルトカ、又ハ都會附近ノ地主ガ一割五分ト云フヤウナコトハ、ドウ云フ計算カラ出タカ分リマセヌガ、殊ニ不可思議ナルコトハ、政府ガ材料トサレタ法定地價百圓ニ付テ百圓ト云フノハ、此收益ト云フモノハ一體是ハ何處カラ御取寄セニナッタ資料ニ依テ御調べニナッタカ、縣廳デアアルカ、郡役所デアアルカ、或ハ稅務署デアアルカ、モ知レマセヌガ、稅務署等ガ斯様ナ考ヲ持ッテ居ルカラシテ、此農民ニ對シテハ、收穫モ有リモシナイモノニマデ、苛斂誅求スルノデアアル、洵ニ怪シカラヌ、重ネテ申シマスガ、黒田政府委員ガ仰シヤッタ、地價ト段別ト兩方面ニ依テ免稅點ヲ設ケルノガ、何ガ面倒デアアル、何處ガ面倒デアアルカ、少シモ面倒デナイト思フガ、其面倒ト認メラレル理由ヲ今一應承リタイ

○黒田政府委員 御答ヲ申シマス、決シテ面倒ト云フコトヲ申シタノデハナカッタと思フノデアリマス、田畑ト持ッテ居ル者ニ付テ例ヘテ見マスレバ、田三段、畑二町ト云フモノナラバ免稅スルガ、田ガ四段デ畑ガ一町デハ免稅シナイカト云フヤウナ區域ヲ設ケルコトガ、例ヲ以テ大藏大臣ガ言ハレタ通り、併セ有シテ居ル場合ニ田ガ何町、畑ガ何段持ッテ居ルト云フコトデ、其處ニ標準ヲ設ケル事ガ困難デハナカラウカ、徵稅上ノ面倒ガドウノコウノト云

フコトハ、ソレハ申シタ譯デハアリマセヌ、故ラニ標準ヲ設ケルコトガ困難デハナカラウカト云フコトヲ申シタノデアリマス

○三輪委員 先刻モ申シタ如ク、田畑ト云フ區別ノコトヲ言ハナイデ、納稅者ノ望ミニ依テ段別ニ依テ免稅ヲ願ヒタイト言ヘバ、其人ニ免稅點ノ段別ニ依テ免稅シ、又地價ニ願ヒタイト言ヘバ地價ニ依ル、段別ニ依テト言ヘバ、田デアラウガ、畑デアラウガ、自己ノ所有シテ居ル段別デアアルカラ、田畑ノ區別ノ必要ハナイノデアアル、尙ホ一點伺ヒタイト思ヒマスノハ、昨日我が同僚小川君カラモ質問モアリマシタガ、所得稅ノ第二種第三種ノ問題ニ付テ色々御意見ヲ交換サレマシタガ、要スルニ是ハ徵收ノ方法ガ面倒デアアル、統稅官ガ實務ノ上ト脱稅ノ御議論ニ歸著シタヤウデゴザイマスルガ、私ガ常ニ思ッテ居リマスコトハ、今申ス如ク土地ノ收穫ト云フモノニ對シテ、稅務署ハ實際ニ收穫ガ無クテモ、如何ニ小作人ニ掟引シテ、收穫ノ無イモノデモ、是ハ收益稅デナイト云フ意味ノ下ニ何時デモ課稅ヲスル地方ノ地主ト云フモノハ、洵ニ迷惑ナ事デアアル、所ガ茲ニ都會ノ富豪又ハ商工業方面ニ至レバ、脱稅ノ澤山アルコトハ、是ハ天下公知ノ事實デアアル、アア云フ面倒ナル御議論ヲシテ居ラレルヨリ、私ハ單刀直入ニ申シマス、

餘リ突然ナル質問ト言ハレルカモ知レナイガ、寧ロ斯ウ云フ脱稅ヲ防止スルニハ私ノ考ト致シマシテハ、アア云フ面倒ナル御議論ヲサレルヨリモ、所得ハ總テ申告セシムル、自己ノ所得ヲ隱匿シタルコトヲ發見シタナラバ、其隱蔽ノ部分ニ對スル財産ト云フモノヲ全部政府ニ於テ沒收スルト云フ茲ニ法律ヲ設ケタナラバ、恐ラク脱稅及ビ隱蔽ト云フコトガ無クナルデアラウト思フ、サウスレバ我國ノ財源トシテ非常ナル增收ヲ見ルデアラウト思フガ、藏相ハ思ヒ切ッテ斯ウ云フ法案ヲ出サレル意思ハナイカラ問フノデアリマス

○元田委員長 大藏大臣ハ能ク熟考シテ、其上ニト云フコトデアリマス、ソレデ三輪サンニ伺ヒマスガ、大體質問ハ御終了デアリマスカ

○三輪委員 ソレデハ今日ハ諸君ニ御迷惑デアリマスカラ、私ノ質問ハ盡キテハ居リマセヌガ……

○元田委員長 ソレデハドウゾ——餘リ意見ト議論トハ御避ケニナッテ、分ラヌ所ヲ質問シ、自分ノ疑點ヲ明カニスルダケノ質問ニシテ戴キタイ、是ハ三輪君ノミニ申スノデアアリマセヌ、皆樣ニ申上ゲルノデアリマス

○三輪委員 ソレデハ重ネテ言フ機會モアリマセヌカラモウ一言御尋ネ致シマス、公ニ政府ノ御所見ヲ伺フ機會ニ

未ダ接シナイノデアリマスガ、吾々ヨリ提案致シテ居リマス、即チ自作農ニ對シテ、實際ニ自己ノ所有地ニ作付致シテ居ル者ニ對シテ免稅ヲスルト云フ案ガ茲ニ現レテ居ルノデゴザイマス、併シ是ハ財源ノ關係モアリマスルカラ、無制限ニト云フコトモ出來ナイ、藤田ノ大農作ダトカ、其他隨分地方ニ於テハ何十町歩ト作ッテ居ルモノガアルカラ、サウスレバ免稅ノ意味デナク、是ハ命令ヲ以テト云フノガ、制限ヲ示シ斟酌サレテノコトデアリマスガ、唯茲ニ私ノ承ラントスルノハ、本黨案ハ實際問題トシテ、稅務官ノ實務上面倒デアルト云フ御考ヲ政府ガ懷イテ居ラレルト云フコトヲ仄カニ聞イテ居ルノデアアルガ、先刻ノ黒田サンノ御説ト同様デアリマシテ、私ハ是レコン脱稅モナケレバ、面倒ナコトハナイデアラウト思フ、屋内ニ於テ營業稅等ヲ調ベルノトハ趣ガ違ヒマシテ、露天野外ニ於テ耕作シテ居ルノデアリマシテ……

○元田委員長 一寸……政府ガ面倒デアルト云フ意見ヲ懷イテ居ルカドウカト云フコトヲ御確メニナッタラドウカ、サウスレバ考ヲ懷イテ居マスト言ッタラ問フ必要ハナイト思ヒマスガ……

○三輪委員 面倒デアルト云フナラバ、少シク愚見ヲ述ベテ再質問ヲシマスガ、面倒デアイト云フコトデアアルナ

ラバ結構デアリマス、委員長ノ御注意モアリマスカラ政府ノ意見ヲ承リタイ

○濱口國務大臣 本黨ノ御提案ニ付キマシテハ、追々御説明モアラウト考ヘマスルシ、又他ノ委員諸君カラノ御質問ニ對スル御答辯モアラウト考ヘマスカラ、今少シク詳細ナル御説明ヲ承リマシテ、然ル後ニ愚存ヲ申述ブル機會モアラウト思ヒマスガ、今日ハ未ダ其機會ヲ得マセヌ、今少シ質問應答ノ進ミマシタ所デ政府ノ意見ヲ述ベタイト思ヒマス

○三輪委員 ソレデハ私ノ質問ハ之デ止メマス

○石坂委員 過日砂田君ヨリ要求セラレタル市町村ノ稅制整理一覽表、之ヲ市町村ニ分ケテ戴クコトノ要求ニナッテ居リマシタガ、其材料ガ出來タラ戴キタイト思ヒマス

○元田委員長 是デ本日ハ終リタイト思ヒマスガ、未ダ四日間ダケノ質問デアッタカト思ヒマス其中ニハホンノ始メタダケノコトモアリマスガ、豫算ノ期間モアリマスカラ、適當ノ時日間ニ諸君ノ討論モ承リ、結論ヲ附ケタイト委員長ハ考ヘルノデアリマス、就キマシテハ明日ハ日曜デアリマスカラ休ミタイト思ヒマス、ソレデ今後ノ御質問ハ成ベク簡潔ニ、成程間ハナケレバナ

ラヌ問デアルト云フヤウナ事ニ、ドウ
ゾ精々御考慮ヲ願ヒタイ、玆ニ希望致
シマス、本日ハ是デ散會致シマス
午後五時三十六分散會

大正十五年二月六日印刷

大正十五年二月八日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社